

鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事

建 築 工 事

< 意 匠 図 >

鹿児島市建設局建築部建築課

図面リスト															
鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事 建築工事															
<意匠図>															
	通し番号	整理番号	図面名称	A1縮尺		通し番号	整理番号	図面名称	A1縮尺		通し番号	整理番号	図面名称	A1縮尺	
0章 表紙・図面リスト	A - 001	A 0 - 01	表紙	-	8章 第二ホール （改修図）	A - 047	A 8 - 01	第二ホール客席天井伏図（改修図）	1/100						
	A - 002	A 0 - 02	図面リスト	-		A - 048	A 8 - 02	第二ホール客席天井下地配置図（改修図）	1/100						
						A - 049	A 8 - 03	第二ホール客席天井内平面図（改修図）	1/100						
1章 工事概要	A - 003	A 1 - 01	工事概要書 工事区分表	-		A - 050	A 8 - 04	第二ホール客席天井内天井伏図（改修図）	1/100						
						A - 051	A 8 - 05	第二ホール客席中央部縦断面図（改修図）	1/100						
2章 特記仕様書	A - 004	A 2 - 01	建築工事特記仕様書（1）	-		A - 052	A 8 - 06	第二ホール客席端部縦断面図（改修図）	1/100						
	A - 005	A 2 - 02	建築工事特記仕様書（2）	-		A - 053	A 8 - 07	第二ホール客席横断面図（改修図）	1/100						
	A - 006	A 2 - 03	建築工事特記仕様書（3）	-											
	A - 007	A 2 - 04	建築工事特記仕様書（4）	-	9章 エントランスホール （現況図）	A - 054	A 9 - 01	エントランスホール天井伏図（現況及び撤去図）	1/100						
	A - 008	A 2 - 05	建築工事特記仕様書（5）	-		A - 055	A 9 - 02	エントランスホール断面図・展開図（現況及び撤去図）	1/100						
	A - 009	A 2 - 06	建築工事特記仕様書（6）	-		A - 056	A 9 - 03	シャンデリア詳細図（現況及び撤去図）	1/100						
	A - 010	A 2 - 07	建築工事特記仕様書（7）	-				-							
	A - 011	A 2 - 08	建築工事特記仕様書（8）	-	10章 エントランスホール （改修図）	A - 057	A 10 - 01	エントランスホール天井伏図（改修図）	1/100						
						A - 058	A 10 - 02	エントランスホール天井下地図（改修図）	1/100						
3章 仕上表	A - 012	A 3 - 01	仕上表	-		A - 059	A 10 - 03	エントランスホール断面図・展開図（改修図）	1/100						
4章 建築一般図 （現況図）	A - 013	A 4 - 01	配置図（現況図）	1/400	11章 建具表	A - 060	A 11 - 01	建具表	-						
	A - 014	A 4 - 02	地下1階平面図（現況図）	1/300											
	A - 015	A 4 - 03	1階平面図（現況図）	1/300	12章 部分詳細図	A - 061	A 12 - 01	既存天井補強材詳細図（1）（現況及び撤去図）	1/2						
	A - 016	A 4 - 04	2階平面図（現況図）	1/300		A - 062	A 12 - 02	既存天井補強材詳細図（2）（現況及び撤去図）	1/10						
	A - 017	A 4 - 05	3階平面図（現況図）	1/300		A - 063	A 12 - 03	既存天井補強材詳細図（3）（現況及び撤去図）	1/10						
	A - 018	A 4 - 06	4階平面図（現況図）	1/300		A - 064	A 12 - 04	既存天井補強材詳細図（4）（現況及び撤去図）	1/10						
	A - 019	A 4 - 07	5階平面図（現況図）	1/300		A - 065	A 12 - 05	既存天井補強材詳細図（5）（現況及び撤去図）	1/10						
	A - 020	A 4 - 08	塔屋階平面図（現況図）	1/300		A - 066	A 12 - 06	第一ホール天井部分詳細図	1/30						
	A - 021	A 4 - 09	断面図-1（現況図）	1/200		A - 067	A 12 - 07	第二ホール天井部分詳細図	1/30						
	A - 022	A 4 - 10	断面図-2（現況図）	1/200		A - 068	A 12 - 08	天井下地標準図（1）（参考図）準構造化天井	各図						
	A - 023	A 4 - 11	断面図-3（現況図）	1/200		A - 069	A 12 - 09	天井下地標準図（2）（参考図）告示771号対応天井	各図						
						A - 070	A 12 - 10	部分詳細図	各図						
	5章 第一ホール （現況図）	A - 024	A 5 - 01	第一ホール1階・2階平面図（現況図）	1/100	13章 仮設計画参考図	A - 071	A 13 - 01	屋外仮設計画図（参考図）		1/400				
A - 025		A 5 - 02	第一ホール客席天井伏図（現況及び撤去図）	1/100	A - 072		A 13 - 02	第一・第二ホール仮設計画図（1）（参考図）	1/100						
A - 026		A 5 - 03	第一ホール客席天井内平面図（現況及び撤去図）	1/100	A - 073		A 13 - 03	第一・第二ホール仮設計画図（2）（参考図）	1/100						
A - 027		A 5 - 04	第一ホール客席天井内天井伏図（現況及び撤去図）	1/100	A - 074		A 13 - 04	第一・第二ホール仮設計画図（3）（参考図）	1/100						
A - 028		A 5 - 05	第一ホール客席天井内補強図（現況及び撤去図）	1/100	A - 075		A 13 - 05	エントランスホール仮設計画図（参考図）	1/100						
A - 029		A 5 - 06	第一ホール客席中央部縦断面図（現況及び撤去図）	1/100											
A - 030		A 5 - 07	第一ホール客席端部縦断面図（現況及び撤去図）	1/100											
A - 031		A 5 - 08	第一ホール客席横断面図（現況及び撤去図）	1/100											
6章 第一ホール （改修図）	A - 032	A 6 - 01	第一ホール客席天井伏図（改修図）	1/100											
	A - 033	A 6 - 02	第一ホール客席天井下地配置図（改修図）	1/100											
	A - 034	A 6 - 03	第一ホール客席天井内平面図（改修図）	1/100											
	A - 035	A 6 - 04	第一ホール客席天井内天井伏図（改修図）	1/100											
	A - 036	A 6 - 05	第一ホール客席中央部縦断面図（改修図）	1/100											
	A - 037	A 6 - 06	第一ホール客席端部縦断面図（改修図）	1/100											
	A - 038	A 6 - 07	第一ホール客席横断面図（改修図）	1/100											
7章 第二ホール （現況図）	A - 039	A 7 - 01	第二ホール1階・2階平面図（現況図）	1/100											
	A - 040	A 7 - 02	第二ホール客席天井伏図（現況及び撤去図）	1/100											
	A - 041	A 7 - 03	第二ホール客席天井内平面図（現況及び撤去図）	1/100											
	A - 042	A 7 - 04	第二ホール客席天井内天井伏図（現況及び撤去図）	1/100											
	A - 043	A 7 - 05	第二ホール客席天井内補強図（現況及び撤去図）	1/100											
	A - 044	A 7 - 06	第二ホール客席中央部縦断面図（現況及び撤去図）	1/100											
	A - 045	A 7 - 07	第二ホール客席端部縦断面図（現況及び撤去図）	1/100											
	A - 046	A 7 - 08	第二ホール客席横断面図（現況及び撤去図）	1/100											

工事概要書(改修工事用)

(J08ナンバー)

1. 工事概要

0-0 改修目的

特定天井改修

1-1 工事名称

鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事

1-2 発注者

鹿児島市長 下鶴 隆央
(〇建築物所有者・賃借人・)

1-3 設計者

改修工事：株式会社 日建設
既存建築物：株式会社 日建設

1-4 監理者

改修工事：未定
既存建築物：株式会社 日建設

1-5 改修工事の概要及び位置・範囲

第一ホール、第二ホール、エントランスホールの特定天井改修

1-6 改修工事種目

a.建築改修工事
・防水・外壁 〇建具 〇内装 〇塗装・耐震・環境配慮
・カーテンウォール・解体 〇シックハウス対応 〇その他(特定天井改修)
b.設備改修工事

1-7 工事期間

工事着手 令和8年 3月 1日 完成引渡し 令和9年 6月 25日 (延べ 16カ月)
(契約工期 契約締結日 ～ 令和9年 6月 25日)

1-8 建物使用部分(工事期間中)

〇あり・なし
範囲：4階市民ホールなどを工事期間中も継続利用
期日： 年 月 日

1-9 敷地及び法的規制等

a.工事場所(地名地番)：鹿児島市次郎二丁目3-1
b.地域・地区
1)都市計画区域等 〇都市計画区域
(〇市街化区域・市街化調整区域・区域区分非設定)
・準都市計画区域
・都市計画区域及び準都市計画区域外
2)防火地域 〇準防火地域・指定なし
3)用途地域 (商業地域)
4)その他 (駐車場整備地区)
c.道路
1)前面道路の種類 (第42条1項1号)
2)前面道路の幅員 (28.2m(北側、西側)、15.0m(東側))
3)接道長さ ()
d.容積率制限 (400)%()
e.建蔽率制限 (80)%()
f.本工事に伴う確認申請
1)要否 ・行う 〇行わない
2)根拠 〇確認申請が必要な増築、改築、用途変更に該当しない・
3)既存不適格への対応 ・行う () 〇行わない ()

1-10 既存建築物の経歴

a.完成年月日 昭和57年 12月 10日
b.建築基準法の主要用途 (劇場)
c.耐火建築物 〇耐火建築物・準耐火建築物()・その他 ()
d.消防法の防火対象物 (16) 項イ
e.確認済証番号年月日
1)建築物 番号・ 年 月 日
2)工作物 番号・ 年 月 日
3)昇降機 番号・ 年 月 日
f.適合判定通知番号年月日
1)建築物 番号・ 年 月 日
g.検査済証番号年月日
1)建築物 番号・ 年 月 日
2)工作物 番号・ 年 月 日
3)昇降機 番号・ 年 月 日
h.その他
1)検証法適用の有無 ・避難安全検証法・耐火性能検証法・なし
2)CASBEEランク ・S・A・B+・なし
i.改修工事の経歴 平成18年、平成19年 改修項目：第一第二ホール天井耐震改修
平成26年、平成27年 改修項目：第一第二ホール客席更新

1-11 既存建築物の面積

a.敷地面積 (48,276)㎡
b.建築面積 (8,284,271)㎡ 建蔽率 (17.2)%
c.建築物全体の面積 ()㎡
d.容積対象外面積 ()㎡
1)エレベーターの昇降路の部分 ()㎡
2)共同住宅又は老人ホーム等の共用の廊下等の部分 ()㎡
3)自動車庫等の部分 ()㎡
4)備蓄倉庫の部分 ()㎡
5)蓄電池の設置部分 ()㎡
6)自家発電設備の設置部分 ()㎡
7)貯水槽の設置部分 ()㎡
8)宅配ボックスの設置部分 ()㎡
9)その他 ()㎡
・バリアフリー法での容積対象外面積 ・あり()㎡ ・なし
e.延べ面積(容積対象面積) (19,822.93)㎡ 容積率 (41.1)%
f.各階床面積の内訳

階	c.建築物全体の面積(㎡) (c=d+e)	d.容積対象外面積(㎡)	e.延べ面積(㎡) (容積対象面積)
P1	116.73		
5	1823.48		
4	1982.95		
3	2672.05		
2	5891.41		
1	4406.59		
B1	2929.72		
合計	19822.93		

g.改修部分の床面積計 約 (2,536)㎡
第一ホール1,136㎡、第二ホール514㎡、エントランスホール886㎡

1-12 既存建築物の高さ等

a.基準地盤面 SGL TP + (2,300)m
b.平均地盤高さ TP + ()m
c.1階床高 SGL + (12,000)m
d.最上の軒の高さ SGL + (25,270)m
e.最上の高さ SGL + (30,050)m
f.基礎底深さ SGL- (6,500)m

1-13 建築物の構造・規模

a.既存建築物
1)地業：PC杭
2)構造：〇SRC造 〇RC造 〇S造・
3)階数：地下 1階 地上 5階 塔屋 1階
4)棟数：1棟
b.改修後の建築物
1)地業：PC杭
2)構造：〇SRC造 〇RC造 〇S造・
3)階数：地下 1階 地上 5階 塔屋 1階
4)棟数：1棟

1-14 その他の工事概要

・

1-15 建築物の主要設備の概要

a.既存建築物
1)電気設備：
高圧受電・発電機、幹線、動力、電灯、非常放送、自動火災報知、監視カメラ
2)機械設備
(空調設備)：
[熱源設備]：空気熱源ヒートポンプチャラー
[空調設備]：空調機、ファンコイルユニット、パッケージエアコン
[換気設備]：第1種換気(居室)、第3種換気(便所、湯沸)
[排煙設備]：機械排煙
(衛生設備)：
[給水設備]：受水槽・高圧水槽、重力式、一部ポンプ圧送式(加温)
[排水設備]：雨水・汚水分流式
[給湯設備]：ガス焚湯水ボイラー、貯湯式電気温水器
[消防設備]：屋内消火栓、屋外消火栓、スプリンクラー、連絡送水管、ハロゲン化物消火設備(電気室)
[ガス設備]：都市ガス(13A)
[その他]：厨房設備
(昇降機設備)：
乗用1台：15人乗、1000kg、60m/min
人荷用1台：24人乗、1600kg、60m/min (身障者対応)
3)その他設備：
舞台照明、舞台音響、舞台機構
b.改修後の建築物
1)電気設備：
既存設備と同じ
2)機械設備
(空調設備)：
既存設備と同じ
(衛生設備)：
既存設備と同じ
(昇降機設備)：
既存設備と同じ
3)その他設備：
既存設備と同じ

1-16 特殊設備の概要

〇なし

1-17 関連工事の(別途工事)

〇鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事に伴う電気設備工事
〇鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事に伴う空調設備工事
〇鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事に伴う消防設備工事

2. 改修工事の設計条件等

2-2 構造設計条件
a.改修範囲の設計荷重
4)地震荷重
改修範囲の設計荷重と既存建物の設計荷重との差異
・有り 〇無し・不明
イ.地域係数 Z ・1.0・0.9 〇0.8・0.7
ロ.地盤種別 〇第1種 〇第2種・第3種
ハ.地震力の割増し係数 I ・1.0 〇1.25・1.5・
ニ.他外力との組合せによる応力計算の扱いは、建築基準法施行令第3章第8節による。
2-3 総合耐震
クライテリア
a.耐震性能
〇耐震性能の変更を伴わない
b.建築非構造部材及び設備機器にかかわる設計用層間変位、設計用地震力等の設計条件は、次による。
1)設計用層間変位

設定レベル	ケース1	ケース2
設計用層間変位(H=階高)	・H/200・H/150 〇H/(1000)	・H/100・H/75 〇H/(200)

備考
2)設計用地震力
ア.設計用地震力
設計用地震力＝部材又は機器の自重(W)×設計用震度
部材又は機器の自重：各部材又は機器そのものの自重及び付属する部品等を含む。
設計用震度：下記イにより、特定天井を除く非構造部材及び設備機器等の設計用震度は、ケース2への適用とする。ケース1の場合は、当該数値の(※1/5・1/2・)を目安とする。

イ.設計用震度
①建築非構造部材及び各固定部の設計用震度(告示第771号による特定天井を除く)
水平震度：下表の K_H
鉛直震度：下表の K_V
水平+鉛直同時作用 ※考慮する K_H + (・1/2・) × K_V
(適用部位：
・考慮しない
ただし改修特仕3号以降において指定がある場合には、各章での記載による。
②設備機器固定の設計用震度
水平震度：下表の K_S (機器の耐震クラスに応じた値とする)
鉛直震度：下表の 1/2・K_S 又は K_V の大きい方

建築物各部分での設計用震度(告示第771号による特定天井を除く)

階	水平震度			鉛直震度		備考	
	床面	非構造部材		設備機器			
		K _H	共通	吊天井	S		A
塔屋(RF)	1,3	2,0	1,3	2,0	1,5	1,0	第一ホール第二ホールの準構造化天井は、K _H =2,0
上層階(5F)	1,0	1,5	1,0	2,0	1,5	1,0	
中間階(2～4F)	0,8	1,2	-	1,5	1,0	1,0	エントランスホールの準構造化天井は、K _H =1,2
地階(B1～1F)	0,4	0,6	-	1,0	0,6	0,5	

注1)階の定義は、次による。
①上記表中の記載による
注2)吊天井は、軽量鉄骨天井下地を用いた天井に適用し、天井面での震度とする。それ以外の構造躯体に直接取付けた天井材、天井吊り設備等は、「共通」の震度を適用する。
注3)設計用震度は、設置階にかかわらず、当該部材が取付けられた、あるいは吊られた床面の階の値を適用する。複数階にまたがる非構造部材の震度は数値の大きい方の階による。
注4)設備機器の区分は、日本建築センター「建築設備耐震設計・施工指針」2014年版における耐震クラスに準拠するものとし、下記の耐震要求性能における耐震クラスの区分に応じた適用する。
注5)建築非構造部材及び設備機器における設計用震度の割増し等の適用
・する (※2-2構造設計条件a.4)へ、による係数・)
※しない

③告示第771号による特定天井の設計用震度

告示第771号に基づく特定天井の設計用震度						
特定天井を有する室名	階(階区分)	検証ルート	水平震度 K _H	鉛直震度 K _V	クリアランス	備考
	階(上層階)					mm
エントランスホール	3階(中層階)	水平震度法	1,3	1,0		60mm
	階(下層階)					mm
	階(層階)					mm

注1)天井の設計用震度は床面ではなく、天井面での数値を示す。階は天井が存在する階を示す。
注2)階の区分は、告示第771号による。
注3)備考欄に「告示外」とある部分は、告示第771号には該当しないが告示に基づく構造方法とする天井をいう。

c.敷地及び建築物各部の耐震要求性能は、次の各項目による。
2)建築非構造部材及び設備機器の耐震要求性能は、ケース2の場合であっても人命を守ることを前提とし、設定レベルにおける建築物各部位各設備ごとの損傷の度合いと機能継続の状況を、次に定める。各章に耐震要求性能の記述がある場合は、より高い方の要求性能を採用する。非構造用部材及び設備機器における設計用地震力に対し、各部分は短期許容応力度以下となることを原則とする。

設定レベル

	ケース1	ケース2
建築非構造部材	特定天井・何ら損傷がない。	・軽微な破損にとどまり、破片の脱落がない。
準構造化天井	・何ら損傷がない。	・軽微な破損にとどまり、破片の脱落がない。
一般天井	・何ら損傷がない。	・軽微な破損にとどまり、破片の脱落がない。

注1)軽微な破損とは、簡単な補修で復旧可能な程度であり、建築物の継続的な使用に支障をきたさない程度の破損をいう。
注2)一定の破損とは、応急的な処理で建築物の一定期間の使用が可能な程度の破損をいう。

4. 改修範囲の非構造部材・建築設備機器及び同架台等の共通特記仕様

4-1 非構造部材
a.屋根葺材(長尺金属板葺、折板葺、粘土瓦葺)、特定天井、外装材、屋外に面する帳壁及び屋内外のすべての非構造部材の支持構造部及び建築物の構造耐力上主要な部分に緊結する部位は、施行令第83～88条の規定による固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力、層間変位を考慮し、施行令第82条による組合せ応力に対して、構造耐力上安全であることとする。また、避難の支障となる損傷がないものとする。
b.外力は、次による。
4)地震力は、2-3 b.による。
5)層間変位は、2-3 b.におけるケース2の設計用層間変位による。
c.支持金物(取付けボルトやナット含む)は、該当各章の規定によら、ステンレス、垂鉛めっき、錆止め塗装等の防錆処置を施したものとする。

工事区分表

項 目		建 築	機 械 設 備	電 気 設 備						別 途	備 考
共 通	工事用の電力・上下水道・ガス既設分岐工事	〇	〇	〇							各工事別
	工事用の電力・上下水道・ガス使用料金	〇	〇	〇							使用工事別
	工事用の電話引込工事	〇	〇	〇							各工事別
	工事上の各種申請届出費用	〇	〇	〇							各工事別
既存躯体貫通	既存コンクリート床・壁孔あけ部の鉄筋・埋設配管などのX線探査調査	〇	〇	〇							各工事別
	既存コンクリート床・壁孔あけ(長辺150mm角以下のもの)	〇	〇	〇							各工事別
	既存コンクリート床・壁孔あけの補強(長辺150mm角を超えるもの)	〇									建築工事以外の場合は補強設計図による
	既存コンクリート床・壁開口の孔埋め	〇	〇	〇							各工事別
既存躯体以外の開口・貫通	天井付き各種器具の開口・取付枠・補強	〇									墨出しは各工事別
	現場製作間仕切の開口・取付枠・補強	〇									墨出しは各工事別
	間仕切開口部の孔埋め・補修	〇	〇	〇							各工事別
点検口ガリ	天井付き点検口(補強共)	〇									
設備工事等	既存ダクト・配管など撤去・貫通部の孔埋め、補修 プロセニアムスピーカー用ジャージネット仕上・開口・補強 三天吊マイク貫通滑車用天井開口・補強 コンダクタースポットライト用天井開口・補強・支持鋼材	〇	〇								各工事別既存貫通部周辺の材料で埋部周辺の材料で孔埋め
解体・撤去(廃棄処分を含む)	内装仕上及び下地(天井) 同様に取付く設備機器類(照明器具、誘導灯、スピーカー、吹出し口・吸込口・感知器など) 照明器具 スプリンクラー	〇	〇	〇							各工事別
	天井内・配管・配線・ダクト(保温材共)	〇	〇								設計図による
	再使用機器・器具	〇	〇								設計図による

整理番号

A 1 - 01

一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号
株式会社日建設一級建築士事務所
一級建築士 第 346221 号
高橋 淳

鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事

工事概要書、工事区分表

A1:-
A3:-

A-003

鹿児島市建設局建築部建築課

建 築 工 事 特 記 仕 様 書			適用		特 記 事 項		適用		特 記 事 項					
Ⅰ.工 事 概 要					○ 14. 産業廃棄物収集運搬車に係る表示及び書面備え付けについて 両側面に「産業廃棄物の収集又は運搬に供する運搬車である旨」及び「排出事業者名」を表示するとともに、その運搬車に「産業廃棄物の収集又は運搬の用に供する運搬車であることを証する書面」を備え付けること。 [表示例] <table><tr><td>産業廃棄物収集運搬車</td><td>←140ポイント(おおむね縦横50mm)以上の識別しやすい色の文字及び数字</td></tr><tr><td>〇〇株式会社</td><td>←90ポイント(おおむね縦横30mm)以上の識別しやすい色の文字及び数字</td></tr></table> なお、産業廃棄物収集運搬許可業者に委託して収集又は運搬させる場合には、別途「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」に基づく、表示規定によること。		産業廃棄物収集運搬車	←140ポイント(おおむね縦横50mm)以上の識別しやすい色の文字及び数字	〇〇株式会社	←90ポイント(おおむね縦横30mm)以上の識別しやすい色の文字及び数字			○ 26. ヤンバルトサカヤスデのまん延防止対策について ヤンバルトサカヤスデのまん延を防止するため、当該現場での土壌や植物等の搬出入に当たっては、以下の項目を参考に、十分注意を払うとともに、ヤンバルトサカヤスデの棲息が確認された場合は、棲息状況等の調査報告書を監督員に提出し、まん延防止対策を講ずること。(※発生地については、鹿児島市ホームページで確認すること。) 1) 原則、土・樹木等は、発生地区からの搬出を極力おさえ、廃棄木材については、産業廃棄物の取扱いが可能な焼却施設にて、焼却処理を行うこと。 2) 工事区域周辺部への拡散防止のため、周辺部に薬物散布等の措置を行うこと。 3) やむを得ず、土・樹木等を発生地区から搬出する場合は、薬剤処理・薫蒸後、搬出を行うこと。 4) 発生地区に搬入した建設機材等は、付着土壌の除去並びに薬剤処理後、搬出を行うこと。 5) 未発生地区においても、発生地区からの土・樹木等の搬入や、建設機材の移動等があった場合は、1)～4)の措置が講じられているかを確認すること。	
産業廃棄物収集運搬車	←140ポイント(おおむね縦横50mm)以上の識別しやすい色の文字及び数字													
〇〇株式会社	←90ポイント(おおむね縦横30mm)以上の識別しやすい色の文字及び数字													
Ⅱ.建 築 工 事 仕 様					○ 15. 内装仕上りに使用する材料等の選定について 1) ホルムアルデヒドを発生する建材については、F☆☆☆☆の規格に適合すること。 ただし、これによりがたい場合は、監督員と協議し、承諾を得ること。 対象となる材料(居室に使用する内装材、並びに、造り付け木製家具) 木質建材(合板、木質フローリング、パーティクルボード、MDF等)、壁紙、ホルムアルデヒドを含む断熱材、接着剤、仕上塗材等 2) クロルビリホスについて クロルビリホスを添加しないこと。クロルビリホスを添加した材料でないこと。 3) 建築材料の種別、種類、数量、及び面積等について 必要書類等 ア) 施工計画書提出時に、JIS、JASの表示、又は、国土交通大臣認定書の写し等を添付し監督員の承諾を得ること。 イ) 材料搬入時に表示等の確認をし、記録写真を提出すること。 ウ) 工事終了後に、内装仕上部分を写した写真を提出すること。 ※ 塗料は、ホルマリン不検出のもので、水性形のものとする。(水廻り及び湿度の高い箇所を除く) ただし、有機溶剤系塗料を使用する場合は、トルエンやキシレンの放散が極力小さいものとする。				○ 27. 本工事の施工に伴う災害及び公害の防止は、建築基準法、労働安全衛生法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、道路交通法及び建設工事公害災害防止対策要綱その他関係法令等に従い適切に処理すること。また、必要な届出等は滞りなく行うこと。 ○ 28. 工事現場及びその周囲は危険防止に十分注意し工事を行い、現場周辺の公共物(特に側溝等)の維持管理及び地域住民、通行人への危害防止に万全を期すること。万一事故の起きた場合、受注者が復旧し、又、補償をするものとする。 ○ 29. 工事現場への通行、諸運搬にあたっては、特に現場周辺の住民・通行人及び児童・生徒等への危害防止に万全を期すること。 ○ 30. 工事現場内での火気責任者を定め、火気の取扱いには十分注意すること。 ○ 31. 工事において支障物件がある場合は、その処理方法等は監督員との協議による。 ○ 32. 工事現場の快適な作業環境を確保するため、受注者事務所、監督員事務所、従業員休憩所、便所等は関係法令に従い、適切な材料・構造などのものとする。 ○ 33. 本工事の施工に際しては、地場産業育成の立場から、できるだけ市内の専門業者や作業員を活用し、資材についても市内業者から購入し、使用するよう努めること。					
Ⅲ.一 般 事 項					○ 16. 現場代理人の工事現場への常駐を要しない場合について 1) 現場代理人の工事現場への常駐を要しない場合 現場代理人は現場に常駐し、その運営、取締りを行うこととされているが、以下の要件を満たす場合には、工事請負契約第10条第3項の「工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がない」として取り扱うこととする。ただし、いずれの場合にも連絡が常にとれる体制を確保する必要や、現場保全の義務(現場の巡回等)があるため、現場代理人を設置しておくことは必要である。 ア) 契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間 イ) 工事請負契約書第20条により工事が一時中止されている期間 ウ) 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間 エ) 前3号に掲げる期間のほか、受注者から工事完成の通知があり、完成検査、事務手続、後片付け等のみが残っているなど、工事現場において作業等が行われていない期間 2) 発注者への報告 上記1)の要件を満たす場合は、現場代理人の工事現場における常駐は不要とし、他の工事と兼務することを可能とするが、「工事打合簿」等により、工事現場において作業等が行われていない期間を明確にしておくこと。				○ 34. 再生資源利用計画書・再生資源利用促進計画書を作成し、施工計画書に含めて提出するとともに、工事現場の見やすいところに掲示(デジタルサイネージによる掲示も可)して公衆の閲覧に供することとし、あわせてインターネットに公表するよう努めるものとする。また、その実施状況を記録した実施書を完成書類に含めて提出するものとする。 ○ 35. 本工事に伴い発生する建設廃棄物のうち、焼却施設及び最終処分場に搬入する産業廃棄物には、産業廃棄物税が課税されるので適正に処理すること。 ○ 36. 暴力団関係者等による不当介入を受けた場合の措置 暴力団関係者等による不当要求又は工事妨害(以下「不当介入」という。)を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、その旨を遅滞なく発注者及び警察に通報すること。また、暴力団関係者等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じた場合は、発注者と協議を行うこと。 ○ 37. 駐車場は建設業者の責任において確保し、周辺道路上への駐車は絶対に行わないこと。 ○ 38. 工事現場隣接家屋について、事前に状況調査(建物の実情)を実施し写真等記録に残すこと。調査範囲は監督員と打合せをすること。また、工事完了後家屋、構造物に被害不具合等の申出があった場合は、速やかな対応をすること。 39. 本工事に伴いスラブに設ける墨出し用の開口部については、建築基準法を満足する工法で確実に塞ぐこと。					
○ 1. 本工事は鹿児島市建設工事請負契約書に基づき、施工するものとする					17. 現場代理人の兼任について 1) 現場代理人の兼任を認める工事 現場代理人は、請負契約の的確な履行を確保するため、工事現場の運営、取締りのほか、工事の施工及び契約関係事務に関する一切の事項(請負代金の変更、契約の解除等を除く。)を処理する受注者の代理人であるが、次の ア)から ウ)の全てを満たし、工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がないと発注者が認めた場合、工事現場の兼任を認めるものとする。 なお、専任の主任(監理)技術者と現場代理人を兼務する場合において、専任の技術者配置の特例により他の現場と兼任が認められた工事については、(イ)、(エ)、ウ)の要件を満たすものとし、兼任できる工事は2件までとする。 ア) 兼任できる工事は3件までとし、それぞれの工事の請負金額が4、500万円 [※] 未満であること。ただし、設計変更により、工事の請負金額が4、500万円 [※] 以上となり、各々の工事における主任(監理)技術者と現場代理人が異なる場合においては、受発注者協議の上、兼任することが出来る。 ※建築一式工事は9、000万円 イ) 発注者又は監督員と常に携帯電話等で連絡が取れること。 ウ) 兼任する工事の相互の移動は、概ね1時間以内であること。 エ) 発注者又は監督員が求めた場合には、工事現場に速やかに向かう等への対応を行うこと。 ウ) 兼任する現場代理人は、必ず担当工事現場のいずれかに常駐するとともに、1日1回以上、担当工事現場を巡回し、現場管理等に当たること。				○ 40. 工事完成写真の仕様について 1) インク、用紙等は普通の使用条件のもとで、5年程度で顕著な劣化が生じないものとする。 2) カラー写真(ネガフィルムタイプ)と電子媒体による写真の混合管理は行わないこと。 3) 完成検査若しくは、工事目的物引渡完了後5年間写真管理に利用した電子媒体を保管すること。					
○ 2. 前払金 ※請求する日ができる ◎令和7年度中に請求すること					2) 手続き 現場代理人の兼任を行う場合には、兼任(変更)申請書を提出し、発注者の承認を得たのち、必要に応じ、現場代理人等変更通知書により、発注者に通知すること。なお、各々の工事において、発注者に現場代理人の兼任の承認を得ること。				○ 41. 再生資材(再生クラッシュラン等)については、再資源化施設製造のものを使用すること。 ○ 42. 法定外労災保険の付保等について 1) 法定外の労災保険の付保 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。 なお、当該保険契約を締結したときは、その証券またはこれに代わるもの(保険証券等)の写しを直ちに監督員に提出すること。 保証期間は工期後満21日間(24時)までとする。 2) 墜落制止用器具の使用について 高さが2m以上の作業床がはい箇所、または作業床の端・開口部等で囲い、手すり等の設置が困難な箇所における作業については、労働者の危険を防止する手段として、墜落制止用器具の使用を講じること。					
○ 3. 前払金 及び 中間前払金 受注者は契約金額の40%以内で前払金を令和7年度中に請求すること。また、令和7年度中及び8年度中においては、中間前払金を請求することはできない。 既に40%の範囲内で前払金をした工事で、次の各号の要件を満たしている工事は契約金額の20%以内の中間前払金を支払うことができること。 1) 工期の2分の1を経過していること。 2) 工程表により工期の2分の1を経過するまでに実施すべきものとされている当該工事に係る作業が行われている。 3) 既に行われた当該工事に係る作業に要する経費が契約金額の2分の1以上の額に相当するものであること。					3) 受注者に対する措置請求 安全管理の不徹底や現場体制の不備に起因する事故等が発生した場合、建設工事請負契約書第12条に基づき、受注者に対して、必要な措置を取るべきことを請求するものとする。				○ 43. 営繕工事における週休2日試行工事について 1) 本工事は、営繕工事における週休2日試行工事の対象である。 2) 試行に当たっては、「営繕工事における週休2日試行工事実施要領(令和6年5月7日施行)(以下、「実施要領」という。))」に基づき行うものとする。なお、実施要領は鹿児島市ホームページから入手できる。					
○ 4. 部分払 部分払については、鹿児島市契約規則による。					○ 18. 低入札価格調査に基づく措置について 低入札価格調査基準価格未満の価格での受注者に対しては、次に掲げる措置を講じるものとする。 1) 施工体制の強化 ア) 低入札価格調査の対象となった工事(以下「調査対象工事」という。))には、専任の主任技術者等を配置すること。 イ) 調査対象工事を実施する場合において、契約日の属する年度及びその前年度に完成した工事に關し、次のいずれかに該当する場合は、配置すべき主任技術者又は監理技術者とは別に、同等の要件を満たす技術者を専任で1人配置すること。 a) 65点未満の工事成績評定を通知された場合 b) 工事請負契約書に基づき修補又は損害賠償を請求された場合 c) 品質管理・安全管理に関し、指名停止又は書面による警告・注意の喚起を受けた場合 d) 自らに起因して工期を大幅に遅らせた場合 2) 監督体制の強化 イ) 受注者は、施工体制台帳を提出し、その内容についてのヒアリングを求められたときはこれに応じなければならない。 イ) 受注者は、特記仕様書に基づく施工計画書を提出し、その内容についてのヒアリングを求められたときはこれに応じなければならない。				○ 44. 電子納品 1) 本工事は、電子納品試行対象工事とする。電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品すること」をいう。ここでの電子成果品とは、「鹿児島市電子納品運用ガイドライン(案)【建築・設備編】(以下、ガイドラインという。))」に定める基準に基づいて作成した電子データを指す。 2) ガイドラインに基づいて作成した電子成果品は電子媒体(CD-R又はDVD-R)で正本1部、副本1部の計2部提出する。電子化しな成果品については従来どおりの取扱とする。電子納品レベル及び成果品の電子化の範囲については、事前協議を行い決定するものとする。					
○ 5. 部分払対象品目 工事の出来形部分並びに、工事現場に搬入した工事材料のうち、次の工事に含まれるものは部分払いの対象とする。ただし、監督員の検査に合格したものであって確認写真及び出来高等の確認ができるものに限る。 1.仮設工事 2.土工事 3.地業工事 4.鉄筋工事 5.コンクリート工事 6.鉄骨工事 7.コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事 8.防水工事 9.石工事 10.タイル工事 11.木工事 12.屋根及びい工事 13.金属工事 14.左官工事 15.建具工事 16.カーテンウォール工事 17.塗装工事 18.内装工事 19.ユニット及びその他の工事 20.排水工事 21.舗装工事 22.植栽及び屋上緑化工事					○ 19. 「快適トイレ」の試行について 1) 本工事は、建設現場における「快適トイレ」設置の試行対象工事である。 2) 受注者は積極的に快適トイレの試行に取り組むこと。 3) 快適トイレを設置する場合は、「建設現場における「快適トイレ」設置の試行の改定について(令和3年7月26日付け鹿児島市建設局通知)」に基づき行うものとする。なお、通知は鹿児島市ホームページから入手できる。				○ 45. 架空線の防護措置について 架空線の防護措置における防護管設置については、受注者が架空線管理者と協議するものとし、防護管設置の必要があるとされた場合は、監督員と協議により設計変更の対象とする。					
○ 6. 火災保険等 請負契約締結後速やかに次の工事保険に加入し、証券又はこれに代わるもの(保険証券等)の写しを直ちに監督員に提出すること。 保証期間は工期後満21日間(24時)までとする。 ※ 火災保険等(工事目的物及び工事材料(支給材料を含む)等に生じる損害を填補) (※ 火災等 ※ 工事材料等の盗難等 ※ その他()に対応したものを含むこと。) ※ 請負業者賠償責任保険(工事の施工に伴い第三者に与えた損害を填補) なお、上記の保険内容が含まれる火災保険、建設工事保険、組立保険等でも可とする。 その場合、保険証券等により保険内容が確認できるものであること。					○ 20. 枠組足場の設置について 枠組足場の設置を必要とする場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」(厚生労働省平成21年4月)によるものとする。 なお、これにより難い場合は、監督員と協議の上、決定することとする。				○ 46. 施工体制点検等への協力 請負代金額が4、500万円(建築一式工事は9、000万円)以上の工事においては、「鹿児島市施工体制点検要領」に基づく点検を、また請負代金額が4、500万円(建築一式工事は9、000万円)未満の建設工事の下請契約を締結した工事においては、同要領の枠組外における「一括下請負に関する確認」を実施するので、受注者はこれに協力すること。					
○ 7. 住宅瑕疵担保履行法について 受注者は、「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」(平成19年法律第66号)に基づき、保険への加入又は保証金の供託を行うものとする。なお、保険加入の場合は、着工前に保険法人に申し込む必要があるので注意すること。					○ 21. 交通誘導員について 本工事の交通誘導員の編成人員は、見積閲覧書によるものとするが、交通管理者等との協議の結果、又は現場条件等により変更が生じた場合は別途協議する。 また、受注者は工事中手前に、実施工程に対応した配置予定図と配置予定時間を施工計画書に記載しなければならない。				○ 47. 産業廃棄物管理票(マニフェスト)の提出 工事の施工により発生する産業廃棄物については、処分状況等の記録(E票の写し及び産業廃棄物管理票(マニフェスト)総括表)を工事完成図書に添付すること。なお、工事完了時点で最終処分が完了せず、E票が処分業者より返送されていない場合は、A票、B2票及びD票のうち直近に返送されたものの写しを添付すること。 ただし、この場合においても、最終処分が完了し、E票が処分業者より返送され次第、直ちに同票の写しを提出すること。 電子マニフェストの場合は、受渡確認表の写しを添付すること。					
○ 8. 契約不適合担保責任検査 契約不適合担保責任(鹿児島市建設工事請負契約書第41条)の確実な履行を図るため、受注者は、契約不適合責任期間の満了前に、受注者の負担で、契約不適合担保責任検査を実施すること。受注者は、発注者から契約不適合担保責任検査実施の通知を受けた場合は、発注者の指定する方法により速やかに契約不適合担保責任検査の実施日及び報告書提出日を回答したうえで、契約不適合担保責任検査を実施し、その結果を報告すること。なお、履行の追完方法は発注者と協議のうえ、実施すること。					○ 22. 地下工事について 地下室等(地下工作物)がある場合は、周辺地盤や地下水への影響について、建設場所や建物の規模などを考慮した上で観測体制を含めた施工をする。施工の際は周辺環境に配慮しながら地下水等の観測を行い、異常が生じた場合は必要な措置を行うこと。 建設場所毎の事前調査等は事前に打合せを行い遺漏のないようにすること。				○ 48. 監理技術者等の途中交代 監理技術者等の途中交代が認められる場合としては、主任技術者又は監理技術者の死亡、疾病、退職等、真にやむを得ない場合の他、下記に該当する場合である。 1) 受注者の責によらない理由により工事中止又は工事内容の大幅な変更が発生し、工期が延長された場合 2) 橋梁、ポンプ、ゲート等の工場製作を含む工事であって、工場から現地へ工事の現場が移行する時点 3) ダム、トンネル等大規模な工事で1つの契約工期が多年に及ぶ場合 上記の場合にあっても、受注者と発注者が協議し、工事の継続性、品質確保等に支障がないと認められる場合のみ途中交代が可能となる。					
○ 9. 施工体制台帳の提出等 1) 建設工事の一部を下請に付する場合は、施工体制台帳及び添付書類を作成し、工事現場に備え置くとともに、その写しを監督員に遅滞なく(遅くとも下請工事の着手前までに)提出すること。また、施工体制台帳の記事事項又は添付書類に変更があったときは、その都度、当該変更があった年月日を付記して、変更に関する事項について、作成し提出すること。 2) 工事を施工するために、建設工事の一部又は以下の各号の業務を下請に付する場合は、施工体系図を作成し、工事の期間中、工事現場の工事関係者が見やすい場所及び公衆の見やすい場所に掲示するとともに、その写しを監督員に遅滞なく(遅くとも下請工事の着手前までに)提出すること。また、施工体系図の記事事項に変更があったときは、その都度、変更に関する事項について、作成し提出すること。 (1)伐採及び測量・調査等の工事現場で作業を行う業務 (2)土砂やコンクリート股等の運搬のみを行う業務 (3)工事現場の警備(交通誘導を含む)を行う業務 (4)その他監督職員が記載を指示した業務等					○ 23. 杭打ち・地盤改良工事について 地下水汚濁への影響などについては事前調査を行い(近隣に井戸がある場合や中間に逸水層がある場合)、工法について施工計画段階で検討し、施工の際は十分に注意しながら施工を行い異常が生じた場合には必要な措置を行うこと。				○ 49. 監理技術者等の途中交代の試行について 本工事は、工程上一定の区切りと認められる時点で、監理技術者又は主任技術者の途中交代を認める試行工事である。 1) 工程上一定の区切りと認められる時点とは、品質管理・出来形管理に必要な工事目的物の施工が完了した時点とし、仮設備の撤去、後片付け及び検査等を行う期間は、監理技術者等の途中交代を認めることとする。 2) 受注者と発注者が協議し、工事の継続性、安全管理、工程等に支障がないと認められる場合のみ途中交代が可能となる。なお、総合評価落れ方式の場合は、当該工事の入札契約手続きにおける競争参加資格を満足する者を配置しなければならない。					
○ 10. 環境基本計画 1) 本工事に伴う環境への影響を抑制するため、工事車両通行往復ルートの分別、交通整理員の配置、走行速度の制限、ルートの設定等の対策を講じること。 2) 本工事に使用する建設機械については、原則として、国等による環境物品等の調達推進等に関する法律第10条第1項に基づく環境物品等調達方針に適合するものを使用すること。 3) 本工事に伴い提出する関係書類については、可能な限り、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律第10条第1項に基づく環境物品等調達方針適合製品又はエコマーク製品、グリーンマーク製品などの環境ラベリング製品を使用すること。 4) 本工事に伴い提出する関係書類については、写真やメーカー提出の資料等、両面印刷では支障を生ずるものは除き、可能な限り、両面印刷すること。 5) 工事に伴い発生する廃棄物については、缶・ビン、ペットボトル、プラスチック容器類を搬出しやすいような分別ボックスの設置スペース又は分別ヤードを設置するなどして、分別の徹底及びリサイクルに努めること。					○ 24. 周辺住民への説明等について 工事現場の周辺住民に対しては、事前に十分な工事内容の説明(作業時間、工法、期間等)を行い協力を得られるように努めるとともに、工事期間中は迷惑、紛争等のないように十分注意すること。 (近隣住民から相談・苦情の申立て等があった場合には誠意をもって、速やかに対処すること。)				○ 50. 公共工事における現場一斉閉所の実施について 受注者は、公共工事における現場一斉閉所の実施に協力するものとする。なお、現場閉所の実施への協力は、受注者の判断によるもの(任意)とし、実施の有無等について発注者への報告は必要ないものとする。なお、県ホームページに本取組みに係るチラシを掲載しているので確認のこと。					
○ 11. 排出ガス対策型建設機械の使用について 本工事において以下の対象機種を使用する場合は、排出ガス対策型建設機械又は「排出ガス浄化装置」装着機械の使用を原則とする。 ただし、①リース業者等が対策型建設機械を供給できない場合、②自社で未対策型建設機械を保有し対策型建設機械を使用することが妥当でない場合は、監督員との協議により、未対策型建設機械を使用してもよいものとする。 (1)バックホウ (2)ホイールローダー (3)ブルドーザ (4)発電動電機 (5)空気圧縮機 (6)油圧ユニット (7)ローラ類 (8)ラフテレーンクレーン なお、排出ガス対策型建設機械又は「排出ガス浄化装置」装着機械の使用の有無を施工計画書に明示すること。					○ 25. 本工事は公共工事であることを十分認識し、工事の施工に必要な官公署その他への手続きは、速やかに行うとともに、安全管理を含む諸管理に十分留意して作業を行うこと。				整理番号 A2-01 鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事 建築工事特記仕様書(1) 鹿児島市建設局建築部建築課 Ver.R707222					
○ 12. 低騒音型建設機械の使用の原則化について 本工事は「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」(昭和62年建設省経機発第58号)に基づき「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」(平成9年建設省告示第1536号)により指定された低騒音型建設機械の使用を原則とする。 なお、低騒音型建設機械の使用の有無を施工計画書に明示すること。									A-004					
○ 13. ダンプトラック等による過積載等の防止について 1) 工事用資機材等の積載超過のないようにすること。 2) 過積載を行っている資材納入業者から、資材を購入しないこと。 3) 資材等の過積載を防止するため、資材の購入等に当たっては、資材納入業者等の利益を不当に害することがないようにすること。 4) さし枠の装着又は物品積載装置の不正改造をしたダンプカーが、工事現場に入出入りすることがないようにすること。 5) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」(以下「法」という。)の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。 6) 下請契約の相手方又は資材納入業者を選定するに当たっては、交通安全に関する配慮に欠けるもの又は業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。 7) 1)から6)のことにつき、下請契約における受注者を指導すること。														

1. 通 用 基 準 等

○ 建築工事標準詳細図： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
・敷地調査共通仕様書： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和元年版）
・公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
・公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
○ 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
・公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
・公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
・公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
・公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版）
○ 建築工事共通仕様書：日本建築家協会監修（2024年度版）
○ 営繕工事写真撮影要領（平成31年版）・同解説
○ 工事写真撮影ガイドブック（建築工事及び解体工事編）： 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
○ 営繕工事における工事関係図書等に関する効率化実施方針： 国土交通省大臣官房官庁営繕部制定
○ 営繕工事における工事関係図書等に関する効率化実施要領： 関東地方建設局営繕部作成

2. 電 気 保 安 技 術 者

※適用する

3. 施 工 条 件

○工事期間中も地下1階：大中練習室、1階：小練習室、管理事務室、舞台技師控室、清掃員控室
等の管理諸室、4階：市民ホール、5階：会議室等は継続使用する

4. 技 能 士

・鉄筋施工（鉄筋組立作業） ・コンクリート圧送施工 ・型枠施工 ○とび ・ブロック建築
○鉄工（○構造物鉄工作業 ・製缶作業） ・エールシーパル施工 ・石材施工（石張り作業）
・防水施工（ ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業
・アスファルト防水工事作業 ・アクリルゴム系塗装防水工事作業） ・タイル張り ・建築大工 ・かわらぶき
○建築板金（内外装板金作業） ・左官 ・サッシ施工 ・ガラス施工 ・カーテンウォール施工
○建具製作（ ・木製建具 手加工作業 ・アルミ製室内建具製作作業 ・木製建具 機械加工作業）
・内装仕上げ施工（○ボード仕上げ工事作業 ○鋼製下地工事作業 ・プラスチック系床仕上げ工事作業
・カーペット系床仕上げ工事作業） ○塗装（建築塗装作業） ・畳製作 ・表装 ・造間
・熱絶縁施工（吹付硬質ウレタンフォーム断熱工事作業） ・樹脂接着剤注入施工

5. 工 事 実 績 情 報 の 登 録

受注者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、工事実績情報システム（CORINS）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「通知書」を作成し監督員の確認を受けたうえ、受注時は契約後10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から10日以内に、完成時は工事完成後10日以内に、（一財）日本建設情報総合センターに登録しなければならない。
また、登録完了後は、（一財）日本建設情報総合センター発行の「登録内容確認書」を、監督員に提出しなければならない。なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の登録申請を省略できる。
（ただし、期間には、行政機関の休日にに関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日（は含まない）
本工事に使用する建築材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」による。また、評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとすることができる。

6. 建 築 材 料 等

建築工事共通仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

7. 特別な材料の工法

建設副産物の処理
1. 本工事より発生する建設副産物については、再生資源の活用を行うことを原則とし、「廃棄物処理法」、「資源の有効な利用の促進に関する法律」（リサイクル法）、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（建設リサイクル法）、「建設工事公衆災害防止対策要綱」及び「建設副産物適正処理推進要綱」を遵守するとともに、マニフェストシステムにより適正処理を行うこと。
2. 建設発生土及び建設廃棄物にあたっては、建設副産物適正処理推進要綱や関係法令を遵守すること。
3. 建設発生土及び建設廃棄物処理に起因する災害及び苦情については、受注者の責任において処理すること。
4. 建設廃材処分場は、不燃物は最寄りの処分場、可燃物は最寄りの焼却施設とする。
5. 建設廃棄物のうち、再生資材として有効利用できるコンクリート・アスファルト塊、金属くず、木くず等については、最寄りの再資源化施設（許可を受けた施設）へ搬出すること。
6. マニフェスト（管理票）の備考欄にせつこうボードの有無を明記するとともに、せつこうボードが含まれている場合は製造会社名等を明記すること。
7. 特別管理産業廃棄物の種類及び処理方法は図示による。

8. 発 生 材 の 処 理 等

○ 9. 施工図等の取扱い
施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
施工範囲 図示した鉄筋コンクリート梁の貫通孔及び鉄筋コンクリート部で、補強を必要とする貫通孔、開口部の補強、壁、天井の仕上材、下地材の補強、駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ並びに自動開閉装置取付け箇所の切込み及び補強は標準詳細図などのとおりとし、本工事とする。
なお、細部については監督員と協議する。
施工図 設備機器の位置、取合いなどの検討のできる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。
○ 11. 完 成 図 等
○ 完成図等を提出する。
(1) 電子データ
i) データ提出媒体：「CD－R」又は「DVD－R」とする。
ii) データ保存形式： CADデータ（国土交通省の「官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕業務編】」のCADデータ交換標準に対応したもの）及び画像データ。
ただし、原則に依りがたい場合は、事前に監督員の承諾を得るものとする。
(2) 2つ折製本（A3判）2部を監督員に提出する。装丁や文字の仕上げについては監督員と協議。
○ 保全に関する資料 部数 1部（監督員の指定する様式） ・ 取扱い説明書 部数 部（建設戸数＋2戸分）

12. 工 事 写 真

区 分	分類	規格	撮影枚数	部数	原画の大きさ	備 考
※ 着工前	※ カラー ・	※ L版程度 ・		※ 1部 ・	24×36以上	
※ 工事中	※ カラー ・	※ L版程度 ・		※ 1部 ・	24×36以上	
※ 完成時	※ カラー ・	※ L版程度 ・ キャビネ版	10枚	※ 1部 ・	・ 60×90以上 ○ 24×36以上	主要内部

○実績報告用写真（2部）を監督員に提出する。
着工前と完成時の外観4面及び完成時の主要内部その他監督員の指示する工種の状況及び完成写真、その他監督員の指示する工種の状況及び完成写真

13. 竣 工 写 真

竣工写真は下記業者の撮影とし、箇所及び方法については監督員の指示による。
撮影業者 ※ 監督員の承諾する撮影業者（ただし、建築竣工写真撮影の実績のある業者とする。）
○ 完成後（解体工事の場合は、着工前及び完成後）の航空写真及びその電子データを提出すること。
撮影業者 ※ 監督員の承諾する撮影業者（ただし、建築竣工写真撮影の実績のある業者とする。）

14. 既 存 建 物 と の 取 合 い

工事中、取合部その他本工事範囲外の部分に汚損又は損傷した場合は監督員に報告するとともに承諾を受けて現状に準じて補修する。

15. 揮発性有機化合物の室内濃度の測定

揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告すること。
また、指針値を上回った場合は、引渡しをするまでの間、換気の繰り返し又はベークアウト等により濃度の低下に努め、指針値以下になるようにすること。なお、住宅については「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の評価方法基準第5の6-3の(3)の定めにより測定等を行うこと。
測定対象 ・ 住宅 （建設戸数の1割以上（10戸未満の場合は1戸以上）で、各住戸2室以上）
○ 非住宅 （測定対象室（第一ホール、第二ホール、エントランスホール 各2箇所））
測定項目 ・ 5項目（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スズレン）
・ 6項目（上記5項目及びパラジクロロベンゼン）

16. 建 物 使 用 部 分

○有（部分使用の場所等：1階管理事務室、舞台技師控室、清掃員控室等の管理諸室、4階市民ホールは工事中も継続利用）

17. 指 定 部 分

・ 有（範囲、時期については監督員の指示による）

18. 品 質 計 画

建築基準法により定められた風速 Vo（※38 ・ ）
地表面粗度区分 ・ I ・ II ・ III ・ IV
適用工種 ・ コンクリートブロック ・ ALCパネル ・ 押出成形セメント板工事 ・ 防水工事
・ 石工事 ・ 屋根及びとい工事 ・ 金属工事

19. 住 宅 性 能 評 価

・適用する ・しない
住宅の品質確保の促進等に関する法律第3条第1項の規定に基づく評価方法基準の下記項目ごとに示した等級基準を満たすこと。

性能評価項目	等級評価説明	等級
劣化の軽減	劣化対策等級（構造躯体等）	※ 3 ・ （ ）
維持管理への配慮	維持管理対策等級	※ 2 ・ （ ）
温熱等級	省エネルギー対策等級	※ 4 ・ （ ）
空気環境	ホルムアルデヒド対策	※ 3 ・ （ ）
音環境	重量床衝撃音対策 等価損失等級（外壁開口部）	※ 2 ・ （ ）
高齢者等への配慮	高齢者等配慮対策等級	※ 3 ・ （ ）

○ 1. 監 督 員 事 務 所

※ 設ける（規模：・1号（10㎡程度） ・2号（20㎡程度） ・3号（35㎡程度） ・4号（65㎡程度） ・5号（100㎡程度） ・設けない ○既存建築物内の一部を使用）
○ 仮設便所 ・ 工事用電話 ○ 設置する備品等の種類及び数量（監督員との協議による）
仕上げは下表を標準とする。

部位等	仕 上 げ
床	合板張り又はビニル床シート張り
内壁、天井	合板又はせつこうボード張り、合成樹脂エマルションペイント塗り
屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り

○ 2. 工 事 用 水

構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる （※有償 ・ 無償）
構内既存の給水設備を利用する場合は、水道局へ臨時給水の申請を行い、水道メーターを設置すること。

○ 3. 工 事 用 電 力

構内既存の施設 ※利用できない ・ 利用できる （※有償 ・ 無償）

4. 敷 地 調 査

平板、周辺設備マンホール等の取り合い。

○ 5. そ の 他

※表示板の大きさ等： ※下図による。
設置位置は監督員との協議による。また、取付けは、強風等に対し安全な工法とする。

市章 150*150程度

シンボルマーク 150*150程度以上

工事名 ○○○○○○○○新築本体工事
発注者 鹿児島市長
設計者 鹿児島市○○局○○部○○課
監理者 鹿児島市○○局○○部○○課
施工者 ○○○○建設株式会社 連絡先 ○○

工 期 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日

1800（900）程度

整理番号

一級建築士事務所 東京都知事登録第1047号
株式会社日建設一級建築士事務所
一級建築士 第 346221号
高橋 淳

鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事

建築工事特記仕様書(2)

鹿児島市建設局建築部建築課

Aー005

Ver.R70401

[illegible]

整理番号		鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
A 2 - 03	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 一級建築士 346221 号 高橋 淳	建築工事特記仕様書(3)		A1:- A3:-
		鹿児島市建設局建築部建築課		A-006

1.7.4	付加	a.1.7.1c号により受注者が保管する工事関係図書の保管期限(工事完成引渡し日から起算)は、次による。 ●15年	3)調査方法 ●既存建築物の完成図、施工図、過去の改修記録、取扱い説明書等の照査 ●入居者、建物管理者や保守員(電気主任技術者を含む)へのヒアリング ●目視、計測等の現地調査 (第一、第二ホールの天井及び天井内は点群データ取得による3次元測量を行い、既存天井形状、既存トラス、R0壁面形状等を把握する。点群データは、鉄骨製作や新設天井版の3次元での製作検討に活用する。) ●関係官公署(建築主事、消防署ほか)等との事前協議 ・工事に伴う騒音振動のテスト施工 b.埋設物の調査 工事着手に先立ち、次により埋設配線、配管等の埋設物の詳細な調査を行い、報告書を監理者に提出する。なお、調査に先立ち調査計画書を作成し、監督職員の承諾を受ける。 1)調査項目 ●埋設配線の位置 ●埋設配管の位置 ●鉄筋位置 2)調査範囲 ●既存コンクリートに穴あけ、はつり、釘打ち、アンカー施工等を行う箇所とその周辺 ●掘削工事を行う部分とその周辺 ●設計図による 3)調査方法 ●既存建築物の完成図、施工図、過去の改修記録等の照査 ●目視、計測等の現地調査 ●探査機(X線、レーダー、電磁波測定器等)による調査 ・ c.既存躯体の現況調査 工事着手に先立ち、次により既存躯体の現況調査を行い、報告書を監督職員に提出する。躯体に不良部分がある場合の措置については、監理者と協議する。この措置により、工事の内容、工期又は請負代金額を変更する必要があると認められる場合は、見積書に添付する。 1)調査項目 ●コンクリートのひび割れ、じゅんか、充填不良、コールドジョイント等 ・コンクリート強度 ・コンクリートの中酸化 ●鉄筋の露 ・鉄筋のかぶり厚 ●鉄骨の露 ●耐火被覆 ●床たわみ ・建築物の不等沈下 ・躯体のはつり等による欠損 ・ALCパネルの劣化状況 2)調査範囲 ●改修対象範囲内で躯体が露出している部分すべて ・設計図による 3)調査方法 ●目視、打診 ・コア抜き()	3節 養生 2.3.1 既存部分の養生 a.既存部分の養生 ○行う(●ビニルシート、合板等)・不要 b.既存家具、備品、什器、OA機器等の養生 ○行う(●ビニルシート等)○合板(第一・第二ホール客席)・不要 エン・ランスホールの絵画の移動は別途工事で行う。撤去再取付作業の工程調整に協力すること。 c.既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所等 養生方法:() 保管場所:() d.固定された備品、机、ロッカー等の移動 ・あり(●設計図による)○なし(工事開始前に発注者が移動) [付加] e.溶接や切断等火気作業を行う場合は、作業周辺部を防火シート等で養生するとともに、消火器や水バケツを準備する。また、作業終了後、火の気がないことを確認する。また、既施設使用者への届出、完了報告を行う。 [付加] f.上記において養生等を不要とした場合も、受注者の仕様により養生等を行うことを妨げるものではない。また作業上必要な場合は、適宜養生を行う。	5章 建具改修工事 1節 共通事項 5.1.1 付加 一般事項 a.既設建具は次により、必要な処理を行う。 1)工事範囲 ●設計図による ・ 2)工事範囲内の建具は取付け状態及び開閉機能の調査を行い、機能上所要の性能であることを確認する。開閉調整、ボルトやねじ等の緩み部分の増締め程度を本工事に含み実施する。設計図に記載のない建具用金物の交換や大掛りな修理が必要な場合は、監督職員と協議する。 3)既設建具の性能 ●既設建具の性能のままとする ・設計図による 5.1.2 付加 基本要項品質 a.建具の性能 1)各種性能における荷重条件は、「工事概要書 2-2 構造設計条件」により、各性能において脱落、破損等がないものとする。 2)耐震要求性能は、「工事概要書 2-3 総合耐震クライテリア」によるほか、ケース1に対しては無被害、ケース2に対しては、すべての建具に脱落なし、防災建具及び避難に使用する可能性のある建具は開閉可能な状態を保持する。 b.片引戸、両引戸、引違い戸、かまち戸等の輪吊開き戸は、指はさみ事故を防ぐための引鎖し確保や同面納まり等、適切な処置を施す。 c.外気に面する建具材の周囲取合い部は、ヒートブリッジによる結露等の不具合を生じない納まりとする。 5.1.3 改修工法 a.改修工法 建具の種類 かぶせ工法 撤去工法 備考 ・アルミニウム製建具 ・ ・ ○鋼製建具・外部 ・ ・ ○内部 ・ ○ ・鋼製軽量建具 ・ ・ ・ステンレス製建具 ・ ・ ・ ・ b.開口の開け方及び新規建具周囲の補修工法及び範囲 ●設計図による 5.1.5 見本の製作等 a.建具見本の製作 ●製作しない ・製作する(範囲及び寸法 ●設計図による ・ () b.特殊な建具の仮組 ●行わない ・行う(範囲・寸法 ●設計図による ・ () 5.1.7 付加] その他 a.くつずりの形状は、次による。 1)床仕上げ材、仕上げ色が異なる箇所 ●ST-1(建具表符号) ・設計図による ・くつずりなし 2)床仕上げ高さが異なる箇所 ●ST-2(建具表符号) ・設計図による 3)外部出入口 ●ST-3(建具表符号) ・設計図による 4)PS・EPS出入口 ●ST-4(建具表符号) ・設計図による [付加] b.ボルト、ナット、小ねじ類 1)増動部及び緩みが事故につながる安全上重要なボルト類には、溶接固定(点付け不可)、緩気接着材又は戻止めナット(リナット同等以上)による戻止め処置を施す。スプリングワッシャー、ダブルナット、鋼製リング状簡易戻止めは、原則不可とする。ただし、施工後の調整により締め直しを行う可能性のある部分については、下ナット逆転法等によって確実な戻止め処置を施すことを条件にダブルナット工法も可とする。 2)原則として、ボルトナット類を設置する場所は水が滞留しない納まりとする。 3)ボルト類にはかかり代を確認するため、袋ナットを用いない。ただし、内袋に用いる化粧用の袋ナットは除く。
1.7.9	追補	a.完成引渡し後でなければならない受注者の検査等で、必要により監督職員の指示する事項については、契約不適合責任期間内の監理者の指示する時期に検査、測定、調査等を行い、その結果を発注者、建物管理者及び監督職員に報告する。 b.建築物の完成時期等により、工事完成までに確認できない設備機器の能力及び室内環境等については、完成後の性能機能検査として完成引渡し後1年以内の夏季及び冬季で気象条件等が設計条件に近い日に測定し、設計図書等に定める性能、機能、室内環境との適合性を確認する。竣工までに完成後の性能機能検査の項目と方法、検査スケジュール、検査体制を記載した完成後の性能機能検査計画書を作成し、発注者、建物管理者及び監督職員に提出して承諾を受け、竣工引継ぎ書に添付する。完成後の性能機能検査実施後は測定報告書を速やかに作成し、発注者又は監督職員に提出する。 c.上記a、b号の場合であっても、契約不適合期間は引き渡し時から起算する。	2節 足場等 2.2.1 足場等 a.内部足場の種別 ○設計図による ・脚立、足場板等 ・ d.材料、撤去材等の運搬方法 ・A種 ・B種 ・C種 ○D種 ○E種 改修補仕[表2.2.1]	2.4.3 付加 材料置場 a.材料置場 ○敷地内や既存建築物内の一部を使用できる(設計図による) ・新設する(・敷地内 ・敷地外) 2.4.4 追補 工用用駐車場 a.駐車場 ○敷地内や既存建築物内の一部を使用できる(場所: 、スペース: 26台分) ・新設する(・敷地内 ・敷地外)	
8節 施工調査	追補				
1.8.1	施工計画調査	a.施工計画作成のための調査 工事着手に先立ち、施工計画作成のために、次による調査を行い、報告書を監督職員に提出する。 1)調査項目 ●施工計画に影響する事項全般 ・配管配線ルート全経路(既設点検口がない場合は、新たに点検口を設けて調査する) ・ 2)調査範囲 ●改修工事範囲全般 ・設計図による ・			

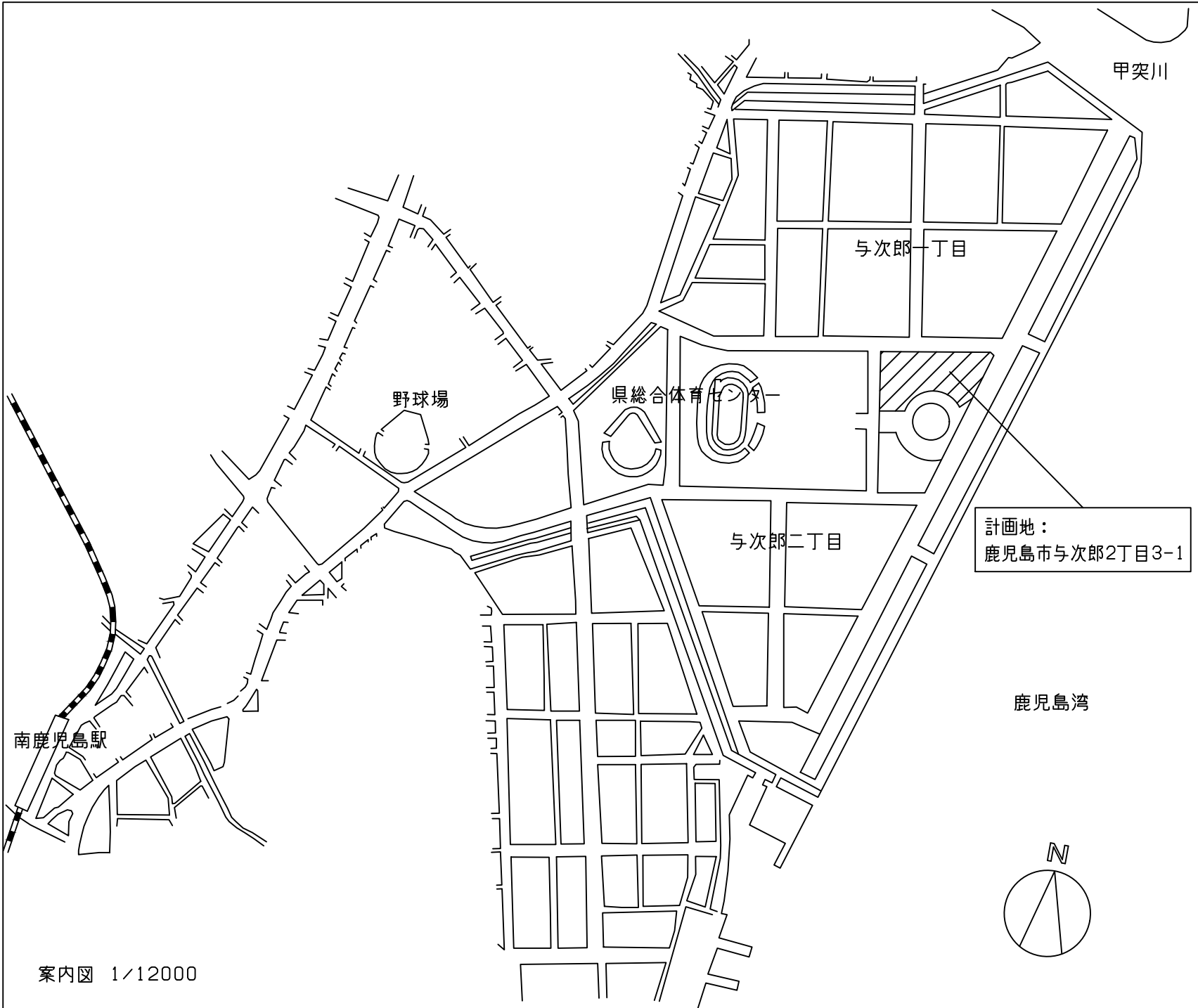
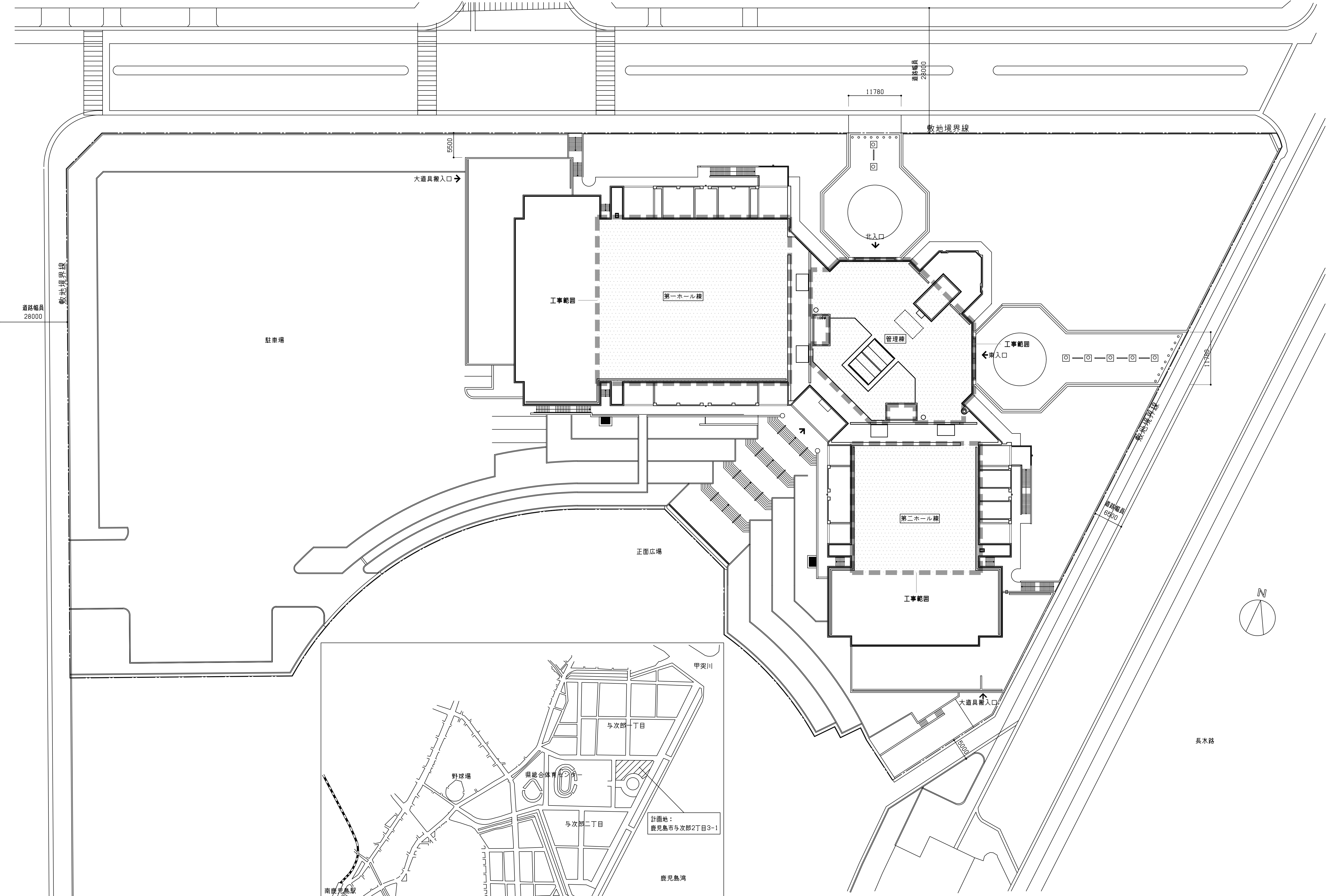
整理番号	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
A 2 - 05		建築工事特記仕様書(5)	A1:- A3:-	A-008
		鹿児島市建設局建築部建築課		

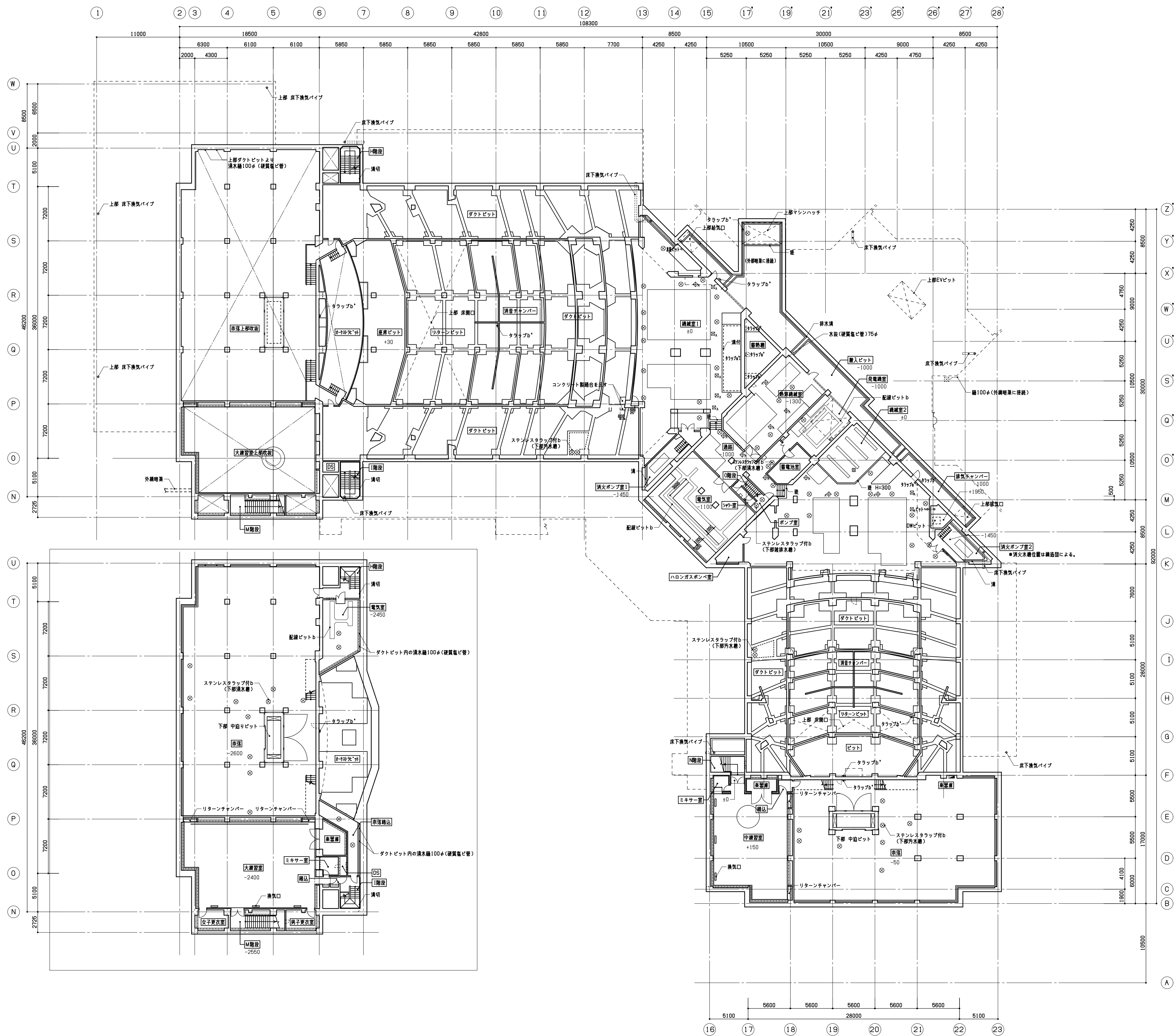
6.6, 6.8	追補	6.6, 6.7の特定期天井の耐震性能検討書及びすべての屋外天井の耐風圧性能検討書を作成し監理者に提出する。6.6, 7による特定期天井については、監理者の承認を受ける。各性能検討書の作成に当たっては、次の内容に留意する。 1)性能検討書により性能を確認する対象は、接合部を含むすべての構成部材とする。 2)性能検討書には、各部材の許容応力度計算の結果を記載し、薄肉接合部を用いた接合部等、計算により性能を確認することが困難な部分は、実物による強度試験の結果を記載する。 3)許容応力度計算は、部材の偏心によるねじれ等を考慮して行う。 b.耐震性能の確認は、a.によるほか、次による。 1)6.6, 7による特定期天井の場合は、各構造方法に応じた検証方法により検討を行ったものとする。 2)性能試験の実施は、次による。 ※行わない ○行う（ホールの円弧天井を構成する下地のユニット強度試験） 試験は、野縁、野縁受、クリップ各部材の許容荷重、許容応力度を満足し、天井面の固有周期は0.1秒以下となることを確認する。 ※試験体はA12-08図に示すサイズ1500x1000程度のユニットを作成し、試験方法は、国土交通省国土技術政策総合研究所「建築物における天井脱落対策に係る技術基準の解説（平成25年10月）」【第Ⅱ編 第4章 天井ユニットの試験・評価】に準ずるものとする。 3)耐震性能検討書に替え、製造者が事前に行った実験結果等をもとに作成した製品説明書、仕様書等により性能を証明する場合は、監督職員の承認を受ける。ただし、6.6, 7による特定期天井の場合は、大臣認定ルートによる製品の場合を除き、検討書を作成する。 d.その他の性能について記載がある場合は、それぞれの性能検討書を作成する。 e.施工品質確保のため、JACCA施工技術者による施工とする。	【付加】 b.軽量鉄骨下地ボード遮音壁に用いる遮音シーリング材 ・アクリル系、ウレタン系等のシーリング材 ・ジョイントコンパウンド ※遮音性能に応じた製造者の仕様による d.ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・非ホルムアルデヒド系接着剤使用（普通合板及び天然木化粧合板に限る） ・非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用（天然木化粧合板に限る） ・非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用（特殊加工化粧合板に限る）	4節 錆止め塗料塗り 7.4.2 塗料種別 a.鉄鋼面の錆止め塗料の種別 改修欄仕[表7.4.1] 1)9節(EP-G)の場合 ・A種 ○B種 c.下地となる塗膜と錆止め塗料の適合性及び密着性について、事前に十分確認を行う。	12章 シックハウス対応 追補
6.7.1 一般事項	a.各種軽量鉄骨下地間仕切りにおいて、防火性能等の認定仕様である場合は、認定条件等の内容を優先する。	【付加】 a.天井のボードの重ね張り（ロックウール吸音板の場合を除く）は、次による。 ※接着剤併用小口し類留めとし、化粧ボードの場合は、製造者の仕様により機械的固定併用を原則とする。 ・設計図による c.せつこうボードの目地工法及びエッジの種類 改修欄仕[表6.13.5] ・継目処理工法 ○突付け工法（○ペベルエッジ ・スクエアエッジ） ・目透し工法（・ペベルエッジ ・スクエアエッジ） 【付加】 d.せつこうボードの出隅部分の保護材 ※プラスチック製 ・薄厚鋼板製 ・薄厚ステンレス付きコーナーテープ	5節 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP) 7.5.1 一般事項 【付加】 a.ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆(合成樹脂調合ペイント又は代替塗料)	1節 共通事項 12.1.1 一般事項 a.本章は、シックハウス対応として、室内空気質の品質確保のために、床、壁、天井及び天井裏等を対象とする木、左官、建具、塗装、内装、ユニットの各工事及び室内設備関連工事に適用する。 b.ホルムアルデヒドの放散量その他について、他の章で特記した場合は、それを優先する。その他については本章による。	
6.7.3 形状及び寸法	a.スタッド・ランナー等の種類 ※設計図による ・スタッド高さ5m以下のものは改修特仕[表6.7.11]、5mを超えるものは設計図による。 【付加】 b.設計図に記載のない場合、軽量鉄骨壁下地を用いた間仕切り壁は、壁張りボードを含めスラブ下施工又は梁下通まで立ち上げる。	【付加】 e.出入口上部の割れ防止縦ジョイナーは次により、設ける場合は、原則としてすべての出入口の上部隅角部直上とする。 ※設ける（・ステンレス製 ※プラスチック製 ・） 【付加】 f.化粧けい酸カルシウム板のせつこうボード下地天井施工は、接着剤と機械的固定方法を併用する。 【付加】 h.天井面や高所壁面における可動式防塵垂れ壁、設備工事の排出口、その他のパネル面等の化粧仕上げ材としてボード類張りを行う場合は、接着工法のみとせずビス留め等の機械的固定工法を併用する。ロックウール化粧吸音板仕上げの場合は、下地せつこうボードをビス等により固定した2重張り工法とする。 【付加】 i.コンクリート、モルタル及び打込み断熱部分のボード張りは軽量鉄骨下地とする。 【付加】 k.軽量鉄骨壁下地の間仕切り壁は、壁張りボードを含めスラブ又は梁下通まで立ち上げることを原則とする。設計図により既存天井下通までとする場合は、既存天井下地に耐震補強を施す。 【付加】 l.ロックウール化粧吸音板の下張り ※せつこうボード(※12.5・9.5)mm(不燃材) ・	7.5.3 鉄鋼面の合成樹脂調合ペイント塗り a.種別 改修欄仕[表7.5.2] 1)新規塗り ・A種 ○B種 2)塗替え ・A種 ○B種 ・C種	12.1.2 基本要品質 a.居室の室内空気質は、指定された揮発性有機化合物について関係法令等を遵守するとともに、室内湿度は厚生労働省の指針値をクリアする。	
6.7.4 工法	a.地震や強風時の層間変形、熱伸縮等による軽量鉄骨壁下地間仕切りの異音抑制工法は、次による。 1)工法 イ.軽量鉄骨壁下地の次の箇所に、耐摩耗性、自己潤滑性に優れたテープ等の滑らせ材張り付け ※上下ランナーへスタッドの接触面（スタッド下面とも）全数 ・スタッドへボードの接触面 全数（音響絶縁体挿入による遮音工法部分を除く） ロ.間仕切り入隅部、直交部（梁型等とも）のボード接触面の処置 ○耐摩耗性、自己潤滑性に優れたテープ張り付け ○耐火遮音端部処理同等による絶縁（表面シーリング処理） 2)滑らせ材の材料 ○高分子量ポリエチレン黏貼着テープ ・ポリプロピレン粘着テープ 3)適用範囲 ※設計図（ 図）による ○第一、第二ホールシーリングスポット室 d.出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ○設計図による ・改修欄仕[6.7.4]による 【付加】 e.上下ランナーの構造躯体に対する取付けが地震時等の外力に対し偏心応力等が発生する場合は、必要な構造対応補強を行う。 【付加】 f.施工状況により防火区画、遮音仕様等の壁の施工が困難となる場合は、水平に折り曲げる部分を同等の性能となる床部位として施工する。	10節 合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP) 7.10.2 合成樹脂エマルジョンペイント塗り a.種別 改修欄仕[表7.10.1] 1)新規塗り ・A種 ○B種 2)塗替え ・A種 ○B種 ・C種 b.塗替えの場合のしき止め ・設計図による ○種別がB種及びC種の場合は、工程-Iの下塗りをしき止めシーラーとする 【付加】 c.既存の天井ロックウール化粧吸音板面に用いる場合は、C種に準じて行う。	11節 ウレタン樹脂ワニス塗り(UC) 7.11.2 ウレタン樹脂ワニス塗り a.種別 改修欄仕[表7.11.1] b.着色 ○行う ※行わない	12.4.3 塗料及び仕上塗材 a.屋内に用いる塗料、仕上塗材、塗り床材は、水性系でホルムアルデヒドの放散量等級がF☆☆☆☆のものとする。また、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンは放散しないか、放散が極めて少ないものとする。やむを得ず、これらの物質を含むものを使用する場合は、その使用量が最小限に抑えられたものとし、十分にVOC放散期間を設けるなど、改善措置を講ずる。	
9節 カーペット敷		7章 塗装改修工事 1節 共通事項 7.1.3 材料 a.屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 【付加】 b.防火材の指定は設計図による。 c.屋内で塗布する塗料は、原則としてトルエン及びキシレンを含まないものとする。ただし、キシレンは塗料の種類により配合が必要な場合、極力少ないものを選定する。 【付加】 d.塗料は原則鉛を配合しないものから選定する。 e.建築物を使用しながらの改修工事で塗装を行う場合は、臭気対策に配慮した施工方法を採用する。必要により監督職員と協議のうえ、塗料の種類を変えることができる。 7.1.4 【付加】 a.壁面及び天井の塗装は、ローラーブラシ塗り仕上げを原則とする。 7.1.5 【付加】 a.見本は原則として、基材、各塗装種別、色調ごとに色見本塗板を作成する。監理者の指示により見本帳に替えることができる。 b.各塗装種別ごとに塗装工程表及び使用材料表を作成する。 c.監督職員の指示により、工法、技術、色、つや、配色、仕上げ程度、仕上げ面の状態等の確認を行うための試験塗りを行う。 7.1.9 追補 a.塗装専門工事業者 ※日本塗装工業会の会員 ・設計図による ・監督職員の承諾する専門工事業者 b.工事指導者には必要に応じ危険物取扱者の有資格者とする。 2節 下地調整 7.2.3 鉄鋼面の下地調整 a.種別 改修欄仕[表7.2.2] ○RA種（新設部材を溶接接合する部位及び高力ボルト摩擦接合する部位） ○RB種（上記以外の再塗装部位） ・RC種 7.2.7 せつこうボード面及びその他ボード面の下地調整 a.種別 改修欄仕[表7.2.7] ・RA種 ○RB種 ・RC種	9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の処理工事 9.1.1 一般事項 a.改修欄仕[9.1.1(3)]によるほか、都道府県の条例等に基づき、施工を行う。 b.石綿含有吹付け材の処理工法 ※除去 ・封じ込め ・囲い込み c.石綿含有建材除去後の仕上工事 ※設計図による 【付加】 d.石綿含有建材の特定と事前調査範囲 1)受注者が実施する事前調査（石綿障害予防規則第3条）は、改修欄仕 [1.5.1] により実施し、その範囲は次による。 ※設計図に示す工事範囲による ・建築物全体 2)設計時点で特定されている石綿含有建材（想定を含む）は次により、設計図で指定した範囲の除去工事（又は封じ込め工事、囲い込み工事）を見込む。 ○発注者より貸与する調査報告書による ○設計図（○仕上表 ・ ）に石綿含有建材であることを示した材料 ・未特定 3)受注者が実施する事前調査により、上記2)で示すものを含めて事前調査範囲の石綿含有建材を特定するとともに、除去工事の施工数量調査を実施する。 5)受注者が実施する事前調査の結果、上記2)で特定したもの以外の石綿含有建材又は分析調査による確認が必要な建材が発見された場合、あるいは上記2)で特定したものに石綿の含有が認められなかった場合は、発注者及び監理者と協議する。 【付加】 f.工事中に、事前調査で特定されなかった石綿含有建材が発見された場合は、直ちに監理者に報告し、その処置方法について監理者の指示を受ける。	第5節 内装材料等の品質の確認と施工中の措置 12.5.1 内装材料等の品質の確認 a.内装施工計画書の提出 内装工事に先立ち、受注者等は、シックハウス対応の施工計画書を作成し、監督職員に提出する。記載事項は、次のb等の内容を含むものとする。 b.材料の品質の確認 内装材料全般(仕上材、下地材、接着剤、塗装材及び吹付け材等)について、使用材料ごとに、VOC等の放散量を調べ、監督職員の指示する「内装材料チェックシート」に記載する。また、ホルムアルデヒド放散材料については、その放散量種別（第3種又は規制外等級）を証明する書類(放散量に対応したJIS、JAS等級認定書、国土交通大臣認定書又は公的機関による放散量証明書)の写しを監督職員に提出する。 12.5.2 施工中の措置 a.施工中、通風及び換気（機械換気等を含む）を行い、VOCの放散を促進させる。また、必要によりVOC低減のため適切な改善措置を講ずる。	
6.13.2 材料	a.せつこうボード、その他ボード 1)種類、厚さ等 ※設計図による 2)パーティクルボード及びWDFのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 3)繊維強化セメント版の表面化粧張り仕上げ等 ○設計図による	3節 床地ごしらえ 7.3.3 鉄鋼面の床地ごしらえ a.種別(8節[耐候性塗料塗り(DP)]を除く) 改修欄仕[表7.3.2] ・A種 ・B種 ○C種 b.種別(8節[耐候性塗料塗り(DP)]の場合) ・A種 ※B種 ・C種 7.3.7 せつこうボード面及びその他ボード面の床地ごしらえ a.種別 改修欄仕[表7.3.7] 1)せつこうボード継目処理工法の場合 ○A種 ・B種 2)その他の場合 ・A種 ○B種	9.1.5 石綿含有成形板の除去 a.除去した石綿含有成形板等の処理（石綿含有せつこうボードを除く） ○埋立処分 ・中間処理		

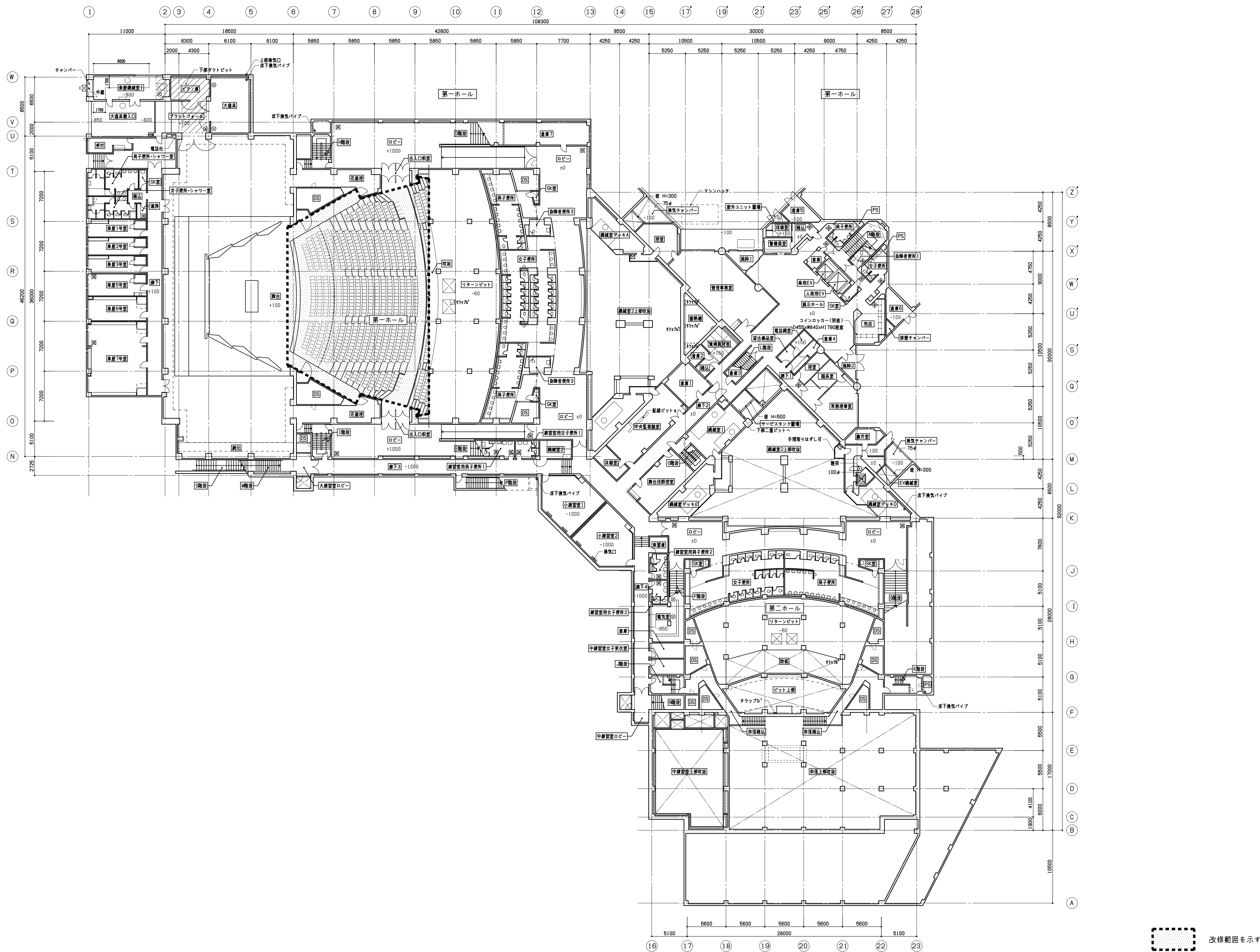
整理番号		鹿児島市市民文化ホール特定天井改修本体工事		
A 2 - 07	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 一級建築士 346221号 高橋 淳	建築工事特記仕様書(7)		A-010
		A1:-		
		A3:-		
		鹿児島市建設局建築部建築課		

12.7.1 室内設備関連工事におけるシックハウス対応			15.3.3 アンカー金物の埋込み			音響性能測定			
室内設備関連工事におけるシックハウス対応	a.室内設備関連工事については、建築及び設備工事の発注区分にかかわらず、相互調整により次のb号のシックハウス対応を行う。		15.3.4 先付け方式のアンカーボルト	a.振動を受けるアンカー金物について、あと施工方式による場合は、接着系あと施工アンカーの締付け方式とし、所定のボルト軸力を導入したのち二重ナットを設けるなど、振動による抜出しや緩みを生じないような措置を講ずる。		改修前と同等の音響性能が得られているか確認のため、各ホールの施工終了時に音響調査を行い、その報告書を監督職員に提出する。			
	b.室内における配管類、酸及び機器等の塗料及び接着剤は、露出及び隠ぺい部分ともにホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを含まないものとする。また、接着剤に含まれる可塑剤は、フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含わない難揮発性のものとする。やむを得ずこれらを含むものを使用する場合は、その使用量が最小限に抑えられたものとし、十分にVOC放散期間を設け、換気するなどの措置をとる。			b.アンカー金物の埋込み長さ及び穿孔径は、製造者の仕様による。		第一ホール、第二ホールにおける各種物理量測定 測定仕様（改修後 ○印を実施する）			
15章 改修用アンカー金物取付け工事			15.3.5 あと施工方式のアンカーボルト		a.金属材料と施工アンカーボルト		第一ホール 第二ホール 備考		
1節 共通事項					1)金属材料と施工アンカーボルトの施工時期は、コンクリートの強度が設計基準強度に達したのちとする。		第一ホール：16ポイント 第二ホール：10ポイント		
15.1.1 一般事項					2)躯体の誘発目地等コンクリートにあらかじめひび割れが予想される箇所の付近には、施工しない。		第二ホール：16ポイント 第二ホール：10ポイント		
15.1.2 基本要求品質					3)既ひび割れを生じている箇所では、ひび割れをコンクリートの端面とみなして必要はしきを確保する。		第一ホール：5ポイント(4ポイント+参考1ポイント) 第二ホール：5ポイント(4ポイント+参考1ポイント)		
2節 材料					4)穿孔用ドリルは、穿孔深さと直角度を保つことのできる治具を使用する。				
15.2.1 材料					5)穿孔中に鉄筋や配管が干渉し所定の穿孔ができない場合、監督職員と協議のうえ穿孔位置変更等の処置を講ずる。				
a.材料の品質は、次による。					6)穿孔後の孔内は、取付け前に十分に清掃する。				
1)頭付きアンカーボルトは、JIS B 1198による。					b.接着系あと施工アンカーボルト				
2)鉄筋アンカーボルトは、JIS G 3112又はJIS G 3117による。					1)常時引張力を受ける部位には原則として使用しない。				
3)基礎ボルトは、JIS B 1178による。					2)接着系あと施工アンカーボルトの固着剤は、カプセル型を原則とし、耐薬品性及耐熱性等の施工条件を考慮して選定する。				
4)インサート金物は、鋼製又は鋳鋼製で錆止め処理を施したものとす。					3)施工前のコンクリートの確認及びコンクリートの穿孔は、前a号1)から6)による。				
5)金属系あと施工アンカーボルトのボルト部は、JIS G 3101・JIS G 3112又はこれらと同等以上の品質を有するものとする。金属系アンカーボルトの定着部(スリーブ)は、JIS G 3101、JIS G 3123又はこれらと同等以上の品質を有するものとする。					4)穿孔部は、十分乾燥したのち施工を行う。				
6)接着系あと施工アンカーボルトのボルトは、JIS G 3101、JIS G 3112又はJIS G 4051による。固着剤は、エポキシ系樹脂、ポリエステル系樹脂又はメント系とする。					5)横向き施工を行う場合は、専用の固着剤を使用する。				
7)水湿及び腐食のおそれのある部分に使用するアンカー金物は、ステンレス製(SUS304又はSUS316)又は溶融亜鉛めっき(付着量350g/m ² 以上)を使用したものとする。					6)固着剤は冷暗所で保管し、使用期限を過ぎたもの及び流動性の变化したものは使用しない。				
b.アンカー金物の露出部は、錆止め処理を行う。					7)アンカーボルトは、埋込み部までねじを切ったもの又は異形棒鋼を使用する。カプセル型の場合は、先端角度45°内外でカットしたものを使用する。				
c.材料・工法の指定					8)取付け後、製造者の指定する時間内はアンカーボルトに荷重を加えない。				
○あり					c.あと施工アンカーボルトの止水処理				
					雨掛りとなるあと施工アンカー部分では、取合い部分にシーリングを行い、止水処理を行う。				
					d.防水保護コンクリートへのあと施工アンカーは行わない。やむを得ずあと施工アンカーとする場合は、防水層・鉄筋・埋設配管類に対し損傷影響がない旨の資料を作成し、監督職員の承諾を受ける。				
					4節 検査				
					15.4.1 検査				
					a.先付け方式によるアンカー金物は、形状、寸法、取付け位置及び固定状況を確認する。				
					b.あと施工方式によるアンカー金物は、その全数について、形状、寸法及び埋込み深さを確認したうえ、テストハンマー等で打撃を与え、正常で緩みのないことを確認する。なお、全ねじ筋の場合は、監督職員との協議により確認方法を決定する。				
					c.あと施工アンカーの引抜き耐力確認試験				
					※実施する ・実施しない				
					1)試験方法 ※非破壊試験(機械式簡易引抜試験機による引張試験)				
					・破壊試験(試験用アンカーによる引抜試験)				
					2)あと施工アンカーの非破壊検査による引抜き耐力確認試験要領は、8.12.7及び建築改修工事監理指針による。				
3節 施工									
15.3.1 材料・工法の選定									
a.アンカー金物は、フレッシュコンクリートに打ち込む先付け方式を原則とする。やむを得ずあと施工方式による場合は、監理者の承認を受ける。									
b.アンカー金物の種別、材料、形状及び寸法は、強さ、耐久性及び施工性等を考慮し、見本及び品質を証明する資料を提出して監理者の承認を受ける。									
c.あと施工アンカー施工における有資格者の指定は、次による。									
※指定あり									
施工管理技術者									
・あと施工アンカー技術管理士									
・あと施工アンカー主任技士									
技能者									
※第1種あと施工アンカー施工士									
・特2種あと施工アンカー施工士									
・第2種あと施工アンカー施工士									
15.3.2 荷重・外力・強度算定									
a.アンカー金物に作用する外力は、次による。									
1)地震力については、「工事概要書 2-3 総合耐震クライテリア」に準じて算定したものとす。ただし、建築物の構造体から吊り下げられる懸垂物状の機器及び工作物等については、日本建築センター「懸垂物安全指針」を参照して定める。									
b.アンカー金物の許容引張力、許容せん断力は、日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」[第4編 各種アンカーボルト設計指針]に準じて算定する。ただし、信頼できる資料によって所要の耐力を満足することが確認できる場合は、この限りでない。									
c.日本建築センター「建築設備耐震設計 施工指針」による建築設備機器の耐震クラスの指定は、「工事概要書 2-3 総合耐震クライテリア」による。									
d.アンカー金物の最大耐力が、定着するコンクリート躯体のコーン破壊で決まる場合の安全率は、表15.3.1に示す値以上とする。									
表15.3.1 アンカー金物の安全率									
アンカー金物の種別			長期荷重		短期荷重				
頭付きアンカーボルト									
鉄筋アンカーボルト			3		2				
基礎ボルト									
金属系あと施工アンカー									
接着系あと施工アンカー									
インサート金物			5		3				
注)1.アンカー金物の許容引張力及び許容せん断力は、上記b.項で求めた耐力及び信頼できる資料に基づく値とする。									
2.製造者の規定する安全率がこの表に示す値を超える場合は、その数値とする。									
e.アンカー金物の間隔及びはしき寸法が十分でない場合は、コンクリートのコーン状破壊面を考慮して許容引張力、許容せん断力を定める。									
f.引張力とせん断力を同時に受けるときは、その組合せ効果を考慮して算定する。									
g.必要に応じて取付け部材から構造躯体までの力の伝達について検討を行い、その安全性を確認する。									
h.軽量コンクリートにアンカー金物を設ける場合は、許容引張力、許容せん断力を10%低減させる。									
i.施工計画書には、アンカー金物の許容引張力、許容せん断力結果、又はそれらを確認しうる信頼できる資料、荷重に対する安全率一覧表を添付する。									

共通事項				防火材料一覧表				内装仕上表																					
a.本表は本工事に用いる内外装仕上げを一括して表す。各一覧表・材料表に記載の符号等は、本表以外の設計図にも適用する。				防火材料				材料の名称・規格		認定番号		区分		材料の名称・規格		認定番号		内装仕上表											
b.仕上表備考欄に不とあるものは、壁・天井仕上下地共不燃材とする。準とあるものは、壁・天井仕上げを準不燃材とする。								繊維強化セメント板 (スレートボード・フレキシブル板・ パライト板)		NM-8576		不燃材料	紙製壁紙 繊維製壁紙 無機質製壁紙 (下地・法定不燃材料、金属・ せっこうボードを除く。直張り)		NW-xxxx NW-xxxx NW-xxxx		位置 室名 床 壁 (塗装) 見切縁 天井 (塗装) 天井高(mm) 備考												
c.コンクリートとコンクリートブロックまたはALCパネル及び軽鉄下地との壁取合部には化粧目地を設ける。目地材は※塩ビ製、目地幅は※10mm、mmとする。								繊維強化セメント板(けい酸カルシウム板) タイプ2 t5mm以上		NM-8578			せっこうボード 9.5mm		QM-9828		1階 2階 既存 改修												
d.天井下地は軽量鉄骨下地とする。								化粧繊維強化セメント板		NM-8577			化粧せっこうボード t9.5mm		NM-8613		5階 既存 改修												
e.床仕上げがビニルタイル・ビニルシートや塗り床等の場合の下地は、コンクリート金で仕上げとする。				化粧繊維強化セメント板		NM-8619		化粧せっこうボード t12.5、15mm		NM-8614			5階 既存 改修																
f.仕上表や設計図中の[既]は既存のまま、[撤]は撤去、[新]は新設、[改]は改修、[再]は再取付を示す。				不燃積層せっこうボード t9.5mm		NM-8613		化粧せっこうボード t12.5mm		NM-8614		5階 既存 改修																	
g.仕上表に○とあるものは、アスベスト含有材(レベル3)を示す。				強化せっこうボード t12.5、15、18.21.25mm		NM-8615		普通硬質せっこうボード		NM-9645		5階 既存 改修																	
h.仕上表の は、改修対象範囲を示す。				ロックウール化粧吸音板		NM-8599		吹付けロックウール t10mm以上		NM-8601		5階 既存 改修																	
塗装一覧表				符号 名称		符号 名称		符号 名称		符号 名称		5階 既存 改修																	
				(SOP) 合成樹脂調合ペイント塗り		F-BE ふっ素樹脂焼付け塗り		吹付けロックウール t10mm以上		NM-8601		5階 既存 改修																	
				(CL) クリヤラッカー塗り		U-BE 1液形ウレタン樹脂焼付け塗り		グラスウール保温板		NM-8605		5階 既存 改修																	
				NAD アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り		(A-BE) アクリル樹脂焼付け塗り		グラスウール化粧保温板		NM-8606		5階 既存 改修																	
				DP-F ふっ素樹脂耐候性塗料塗り		FUC ふっ素樹脂クリヤー焼付け塗り(アルミニウム面)		ALCパネル		NM-xxxx		5階 既存 改修																	
				DP-AS アクリルシリコン樹脂耐候性塗料塗り		DPC 耐候性クリヤー塗装塗り(ステンレス面)		押出成形セメント板		NM-9252		5階 既存 改修																	
				DP-U ウレタン樹脂耐候性塗料塗り		DPC 耐候性クリヤー塗装塗り(コンクリート面)		塗料塗装/不燃材料 (下地・法定不燃材)		NM-8585		5階 既存 改修																	
				EP-G つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り		DWP 耐候性クリヤー塗装塗り(コンクリート面)		仕上塗材/不燃材料 (下地・法定不燃材)		NM-8572		5階 既存 改修																	
				(EP) 合成樹脂エマルジョンペイント塗り		FP 耐火塗料塗り		コンクリート面撥水剤塗り		NM-1220		5階 既存 改修																	
				EP-T 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り		DPH-F 重防食ふっ素樹脂耐候性塗料塗り		溝DR		NM-1221		5階 既存 改修																	
				(UC) ウレタン樹脂ワニス塗り		DPH-AS 重防食アクリルシリコン樹脂耐候性塗料塗り		DR		NM-8572		5階 既存 改修																	
				WP 木材保護塗料塗り		DPH-U 重防食ウレタン樹脂耐候性塗料塗り		DR-C		NM-8572		5階 既存 改修																	
				(OS) オイルステイン塗り		TXE ターナルエポキシ樹脂塗料塗り		DR-L		NM-8572		5階 既存 改修																	
				OC オイルフィニッシュ仕上げ		U-M ウレタン樹脂塗料塗り鏡面仕上げ		GB-A		NM-8572		5階 既存 改修																	
				LE ラッカーエナメル塗り		ATP 水性抗菌塗料塗り		溝DR		NM-8572		5階 既存 改修																	
				FE フタル酸樹脂エナメル塗り		HRP 耐熱塗料塗り		溝DR		NM-8572		5階 既存 改修																	
						ZP 溶融亜鉛めっきの上、りん酸処理		溝DR		NM-8572		5階 既存 改修																	
						MP マスチック塗材塗り		溝DR		NM-8572		5階 既存 改修																	
仕上材符号一覧表				符号 名称		符号 名称		符号 名称		符号 名称		5階 既存 改修																	
				RC直 コンクリート直均し(金こて)		GB-F 強化せっこうボード		■天井・壁		溝DR		5階 既存 改修																	
				RC-AC(化) コンクリート化粧打放し仕上げ		GB-L せっこうラスボード		GW		溝DR		5階 既存 改修																	
				RC-A コンクリート打放し上げ		GB-NC 不燃積層せっこうボード		WS		溝DR		5階 既存 改修																	
				(欄注 表6.2.4 A欄)		GB-H 普通硬質せっこうボード		準構造耐震天井用サッシ具		溝DR		5階 既存 改修																	
				RC-B コンクリート打放し上げ		(GB-A) 繊維混入せっこうボード		天井野縁クリップ+クリップ補強金具		溝DR		5階 既存 改修																	
				(欄注 表6.2.4 B欄)		KGB 火山性ガラス質複合板(VSボード)		壁支持耐震ライント天井		溝DR		5階 既存 改修																	
				RC-C コンクリート打放しのまま		F フレキシブル板		■雑		溝DR		5階 既存 改修																	
				(欄注 表6.2.4 C欄)		NF 軟質フレキシブル板		天井点検口		溝DR		5階 既存 改修																	
				CB コンクリートブロック		(FK) 繊維強化セメント板(けい酸カルシウム板)タイプ2		床点検口		溝DR		5階 既存 改修																	
				ALC ALCパネル		(FK-P) 穴あきけい酸カルシウム板		防煙垂壁		溝DR		5階 既存 改修																	
				穴PC 穴あきPCパネル		WB 木質系セメント板		サランネット		溝DR		5階 既存 改修																	
				ECP 押出成形セメント板		WDF ミディアムデンシティファイバーボード		床見切材		溝DR		5階 既存 改修																	
				PC プレキャストコンクリート		SGB スラグせっこう板		ノンスリップ		溝DR		5階 既存 改修																	
				(LGS) 軽量鉄骨下地		C クロス		断熱材		溝DR		5階 既存 改修																	
						VC ビニルクロス		P-CW		溝DR		5階 既存 改修																	
						(V) ビニル幅木				溝DR		5階 既存 改修																	
						W 木製幅木				溝DR		5階 既存 改修																	
						VS ビニル床シート立上げ幅木				溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR		5階 既存 改修																	
										溝DR																			

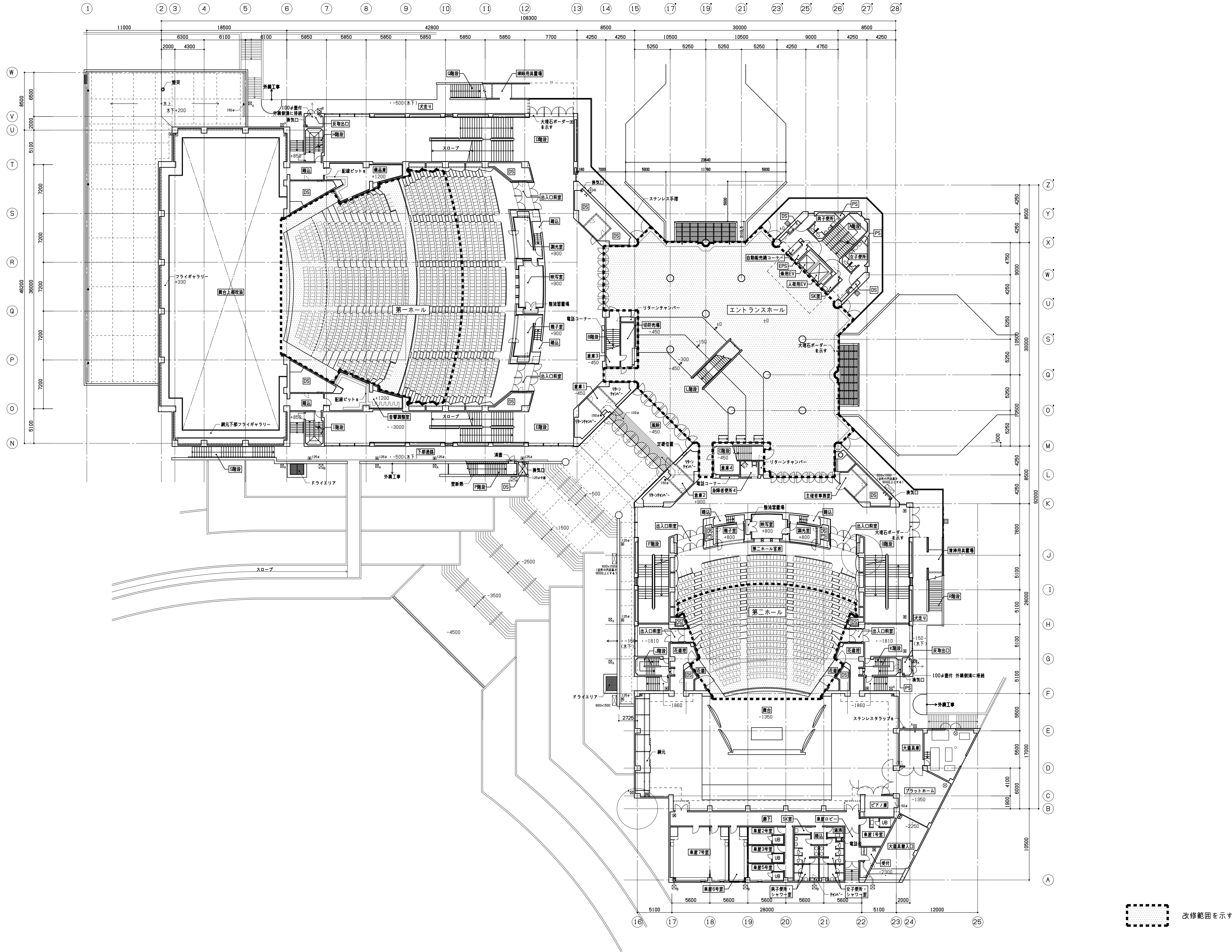






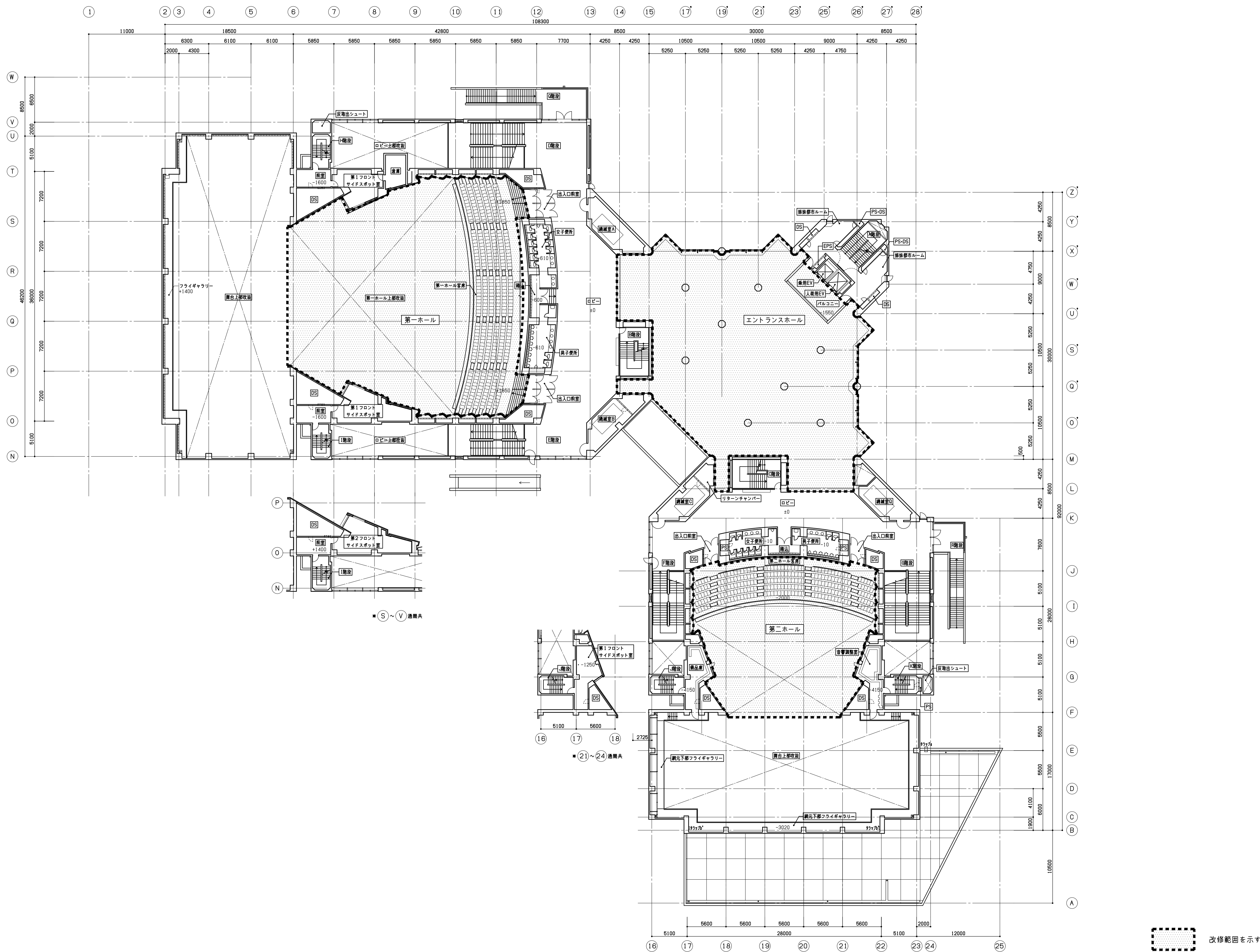
凡例		コンクリート壁		床点検口600φ 鋳鉄製 ●印は600φ アルミ製
		コンクリートブロック(t150)		鋳鉄製マンホール(中断圧、防臭型) 600φ
		コンクリートブロック(t100)		鋳鉄製マンホール(断熱マンホール) 600φ
		軽量鉄骨間仕切		足場境
		木造軸組壁		土に接する外周廻り排水溝(排水溝下部がピット又は二重壁でない場合は同材による縦横を通す)
		機械基礎		一つの区画につき水抜きとして破管塩ビ管75φ 2本設置

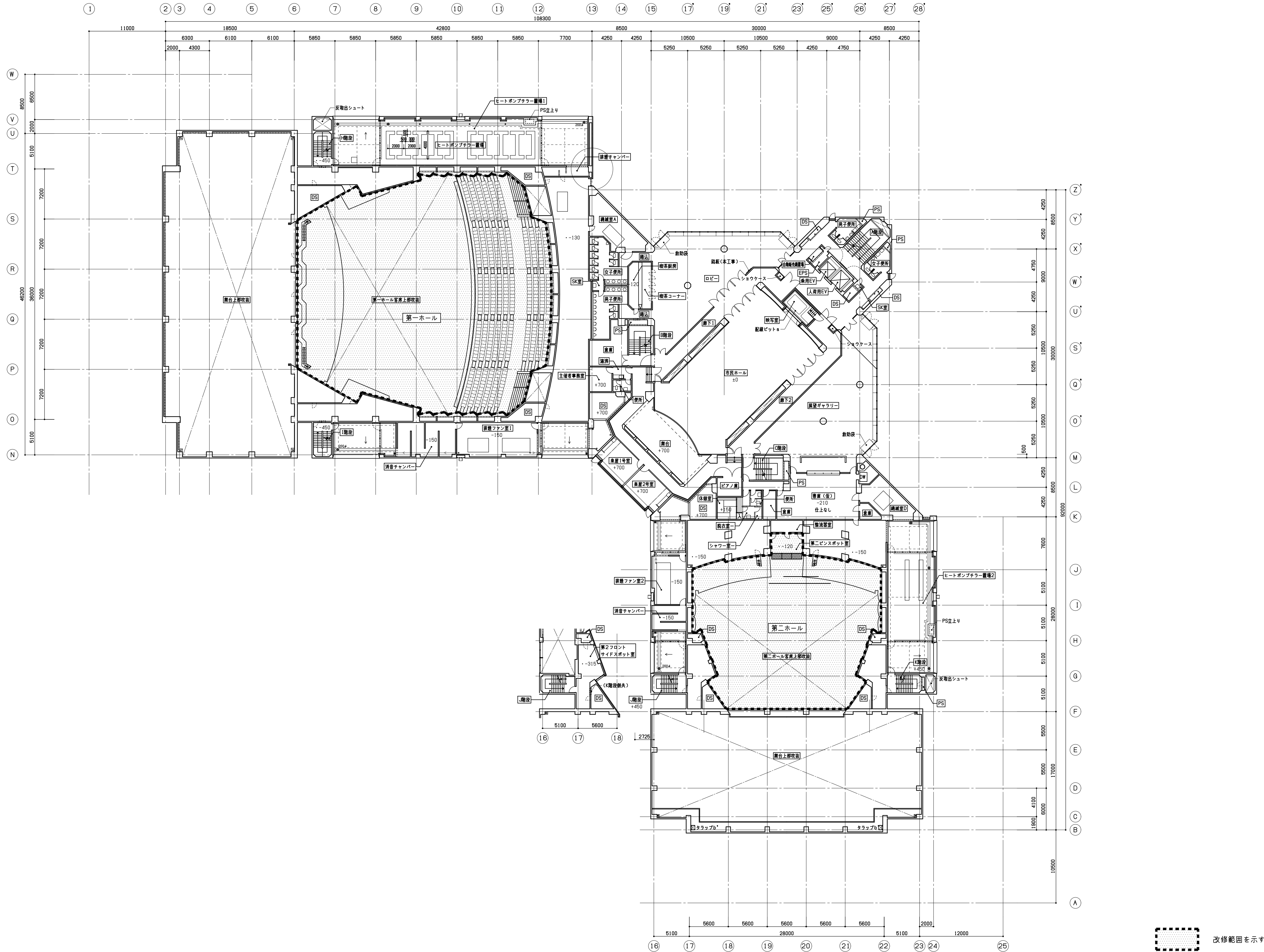
整理番号	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 一級建築士 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
A 4 - 03		1 階平面図(現況図)	A1:1/300 A3:1/600	A-015
			鹿児島市建設局建築部建築課	

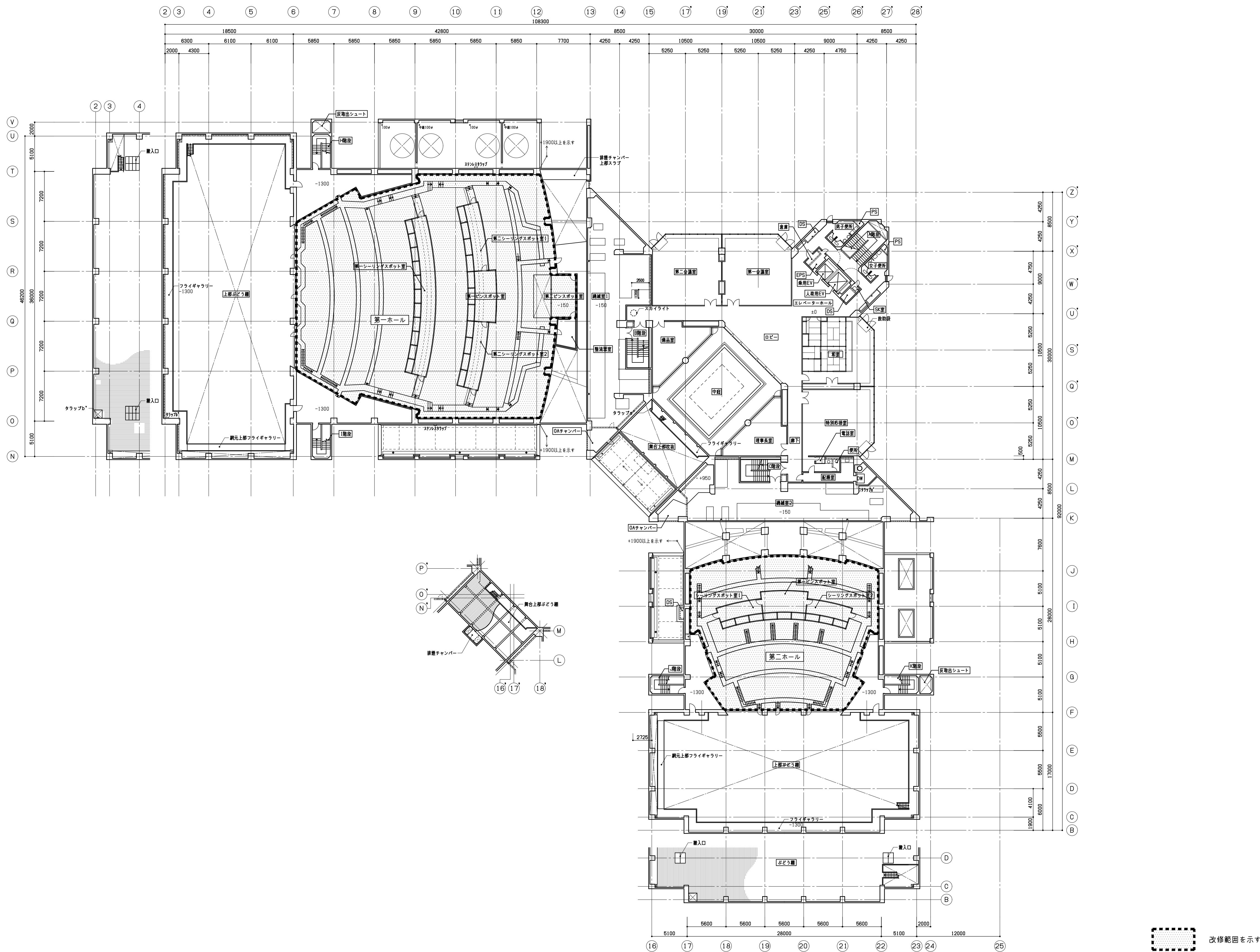


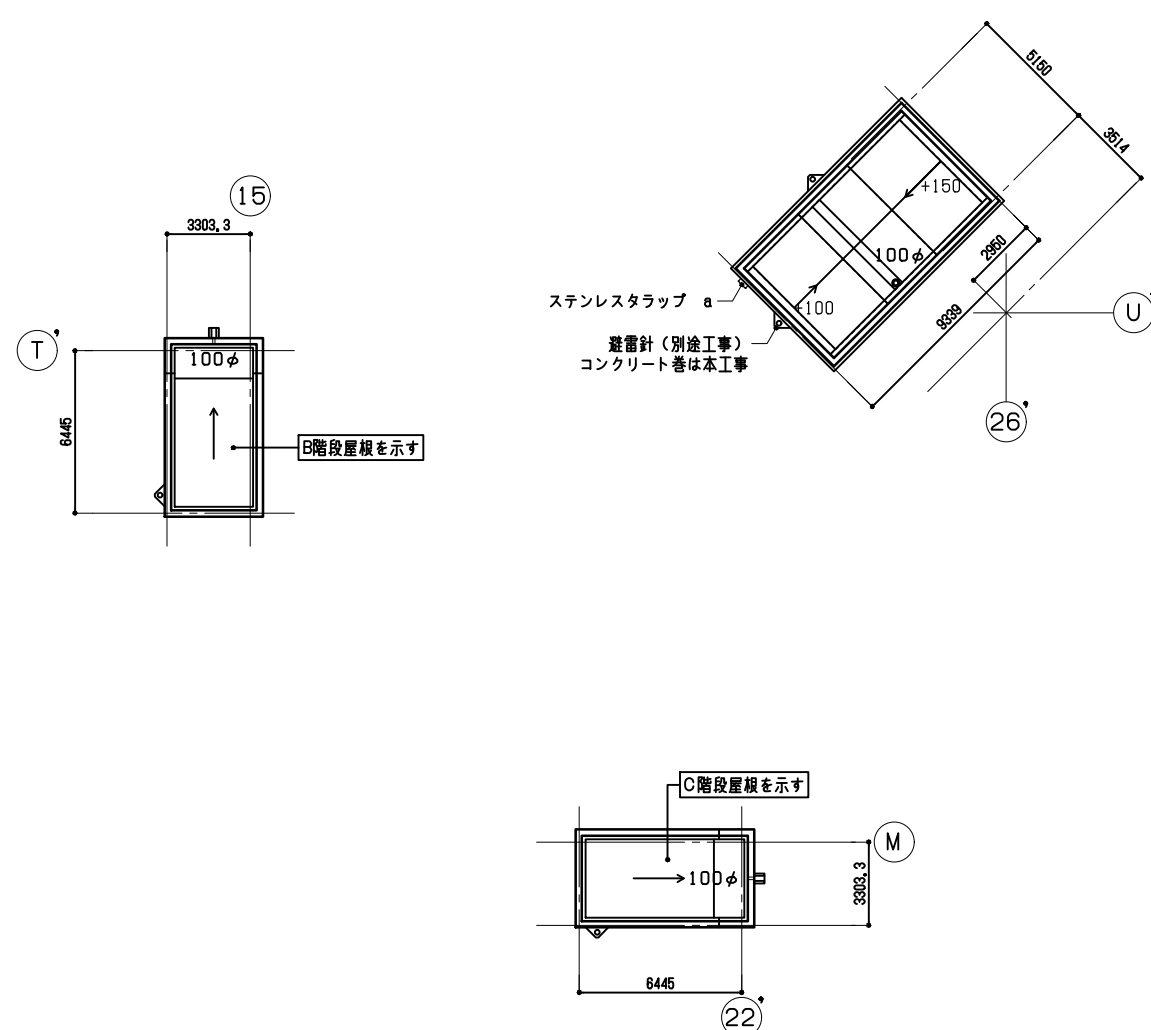
凡 例		コンクリート壁		床点検口600φ 鋳鉄製 ●印は600φ アルミ製
		コンクリートブロック(t150)		鋳鉄製マンホール(中斷圧、防臭型) 600φ
		コンクリートブロック(t100)		鋳鉄製マンホール(断熱マンホール) 600φ
		軽量鉄骨間仕切		足場境
		木造軸組壁		土に接する外周廻り排水溝(排水溝下部がピット又は二重壁でない場合は同材による縦横を通す)
		機械基礎		一つの区画につき水抜きとして破管塩ビ管75φ 2本設置

整理番号	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
A 4 - 04		2階平面図(現況図)	A1:1/300 A3:1/600	A-016
			鹿児島市建設局建築部建築課	



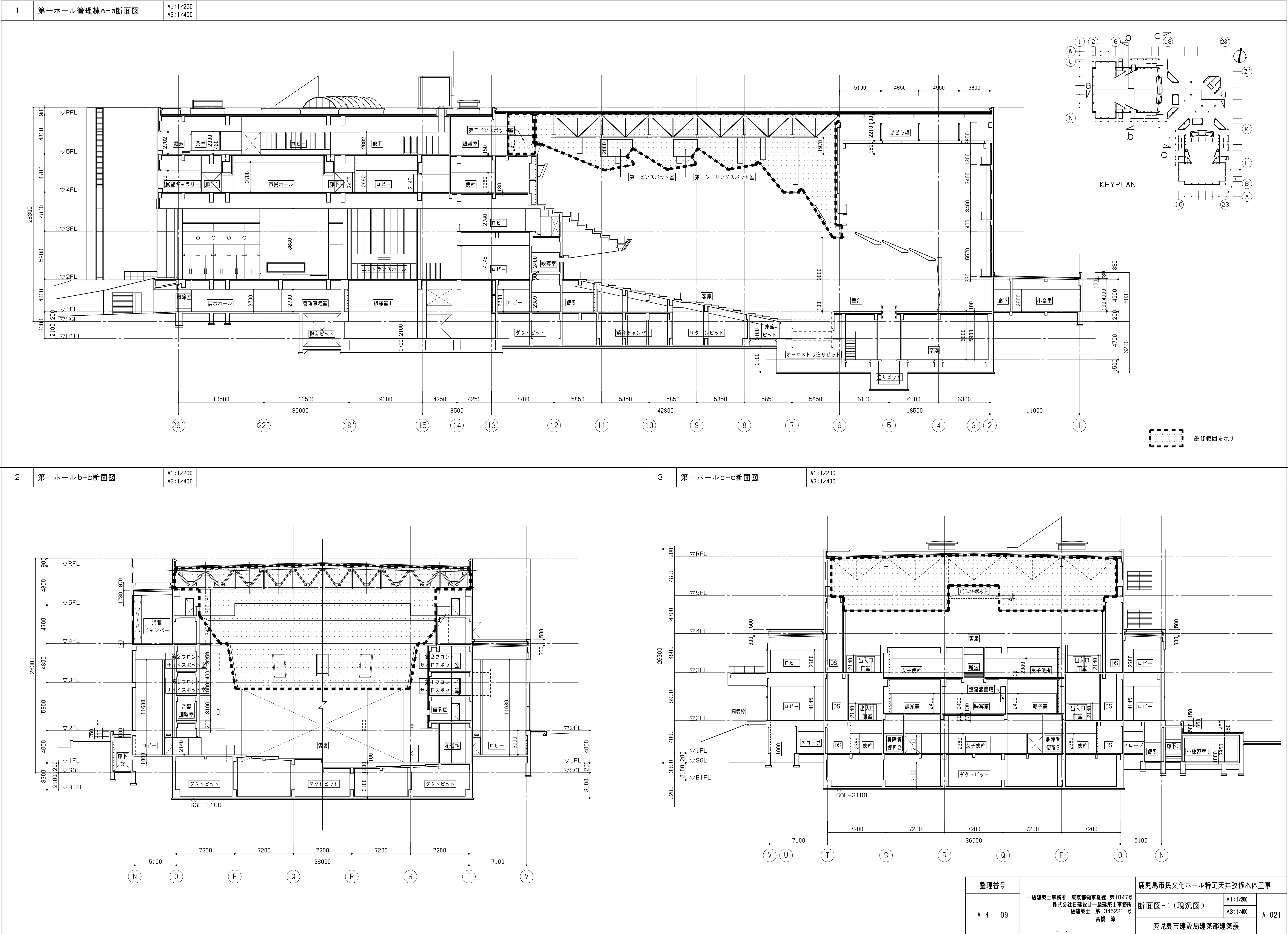


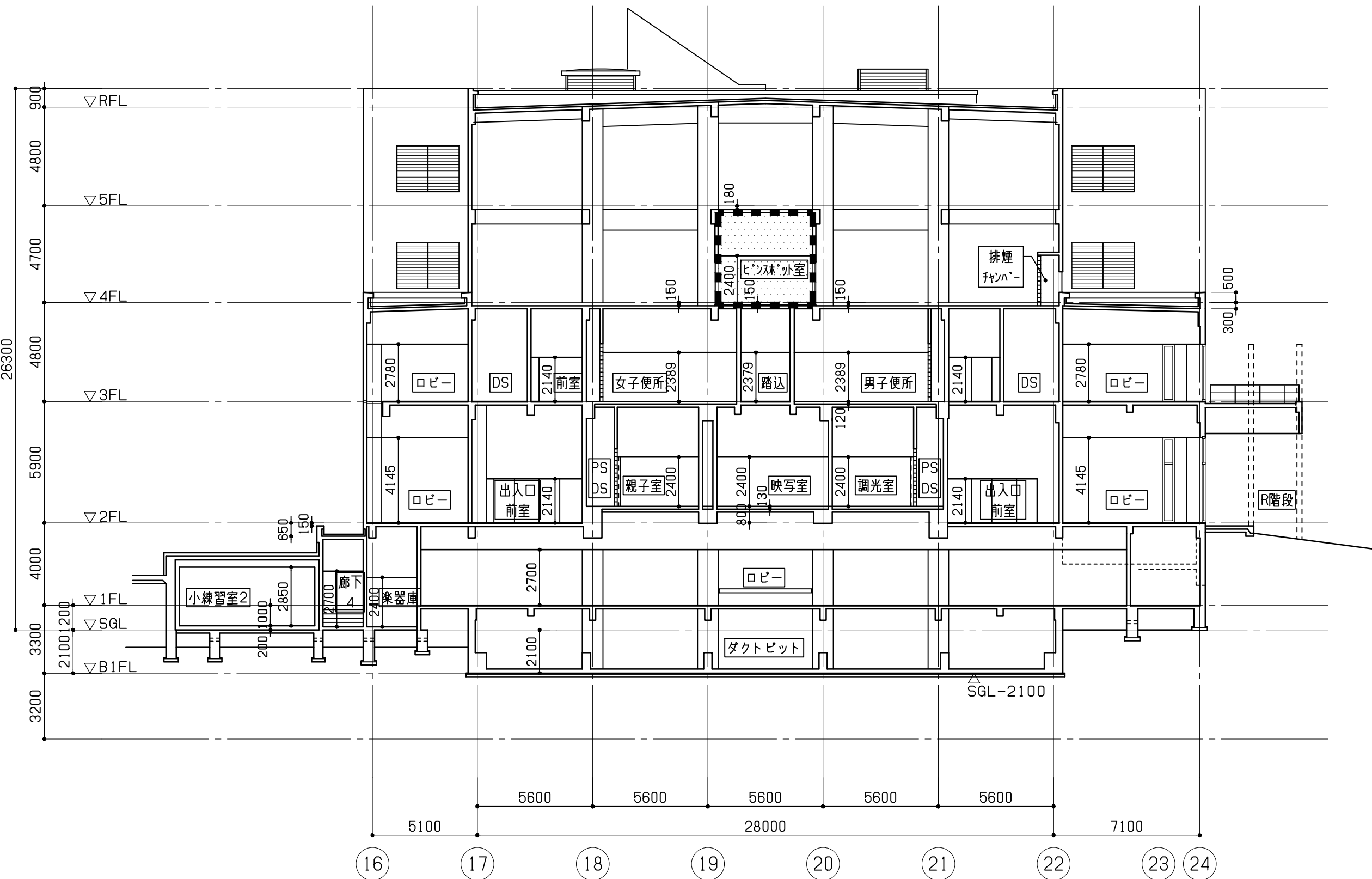
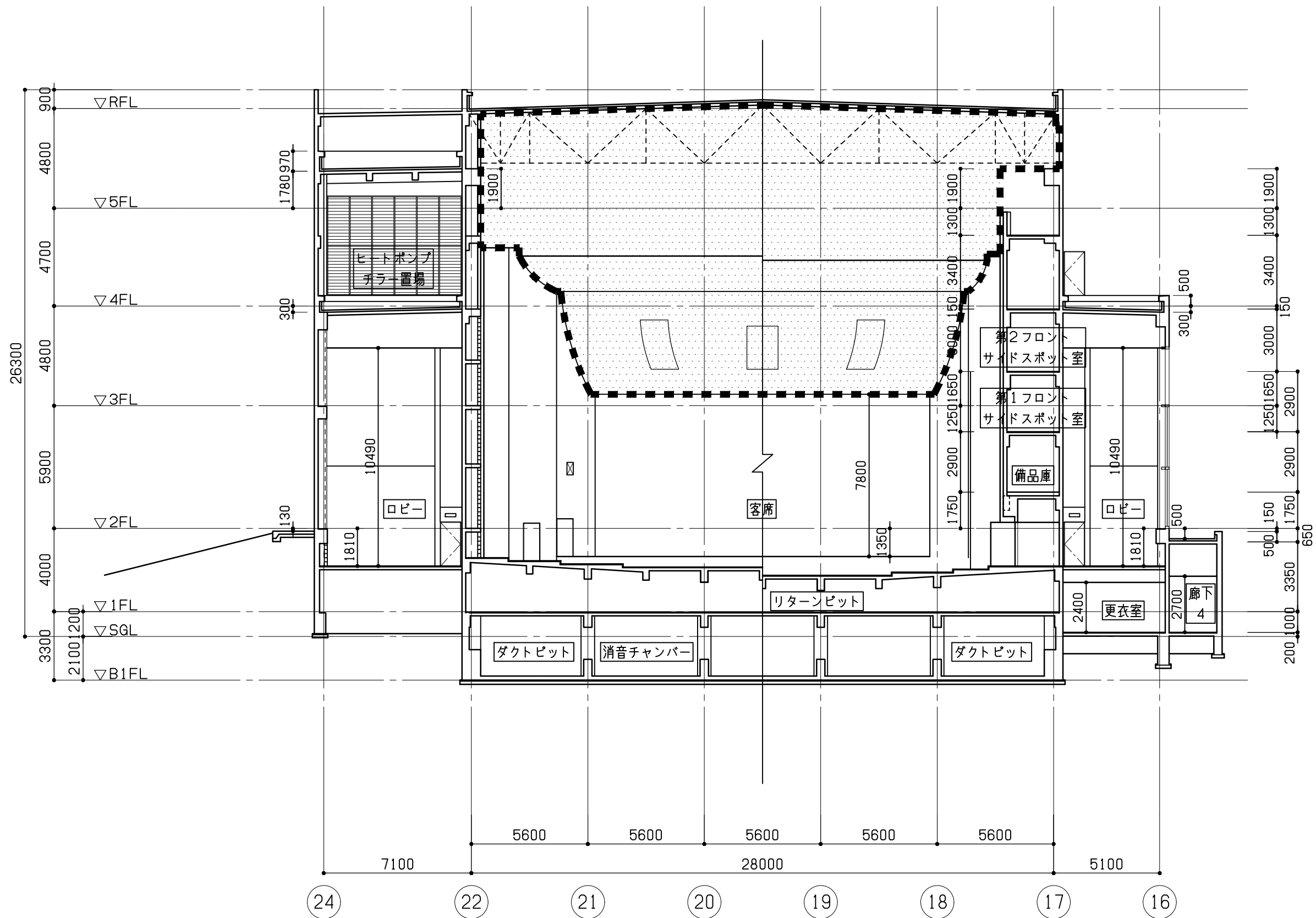
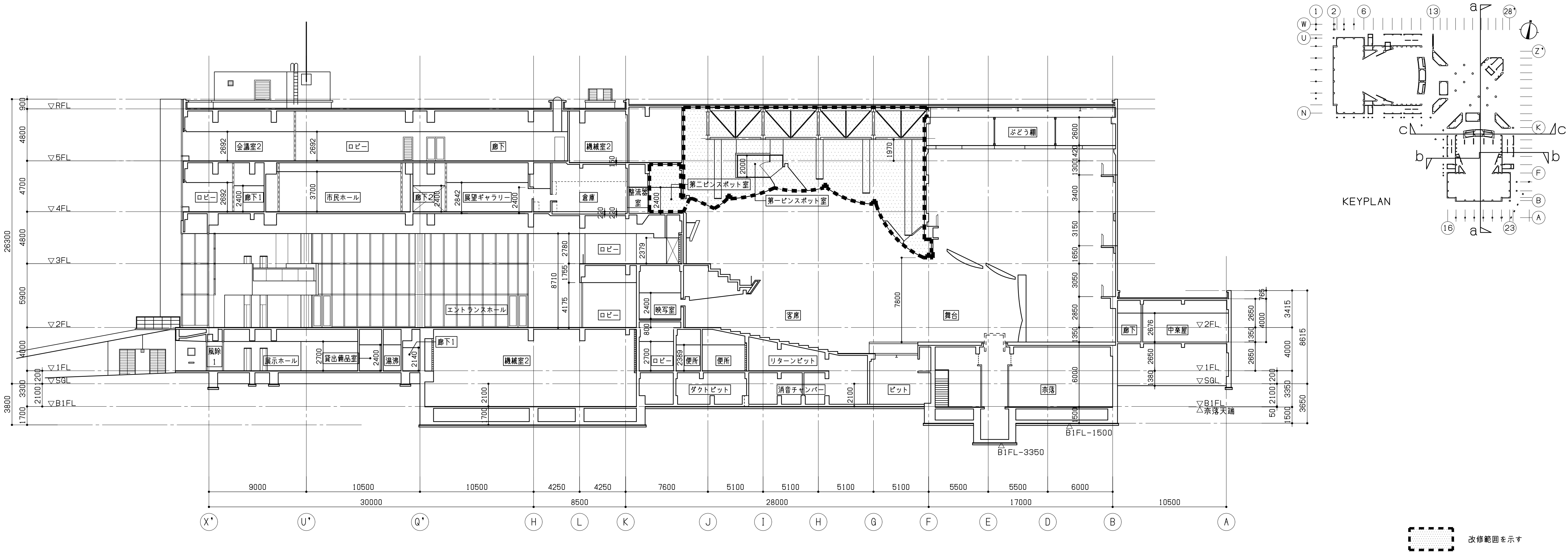


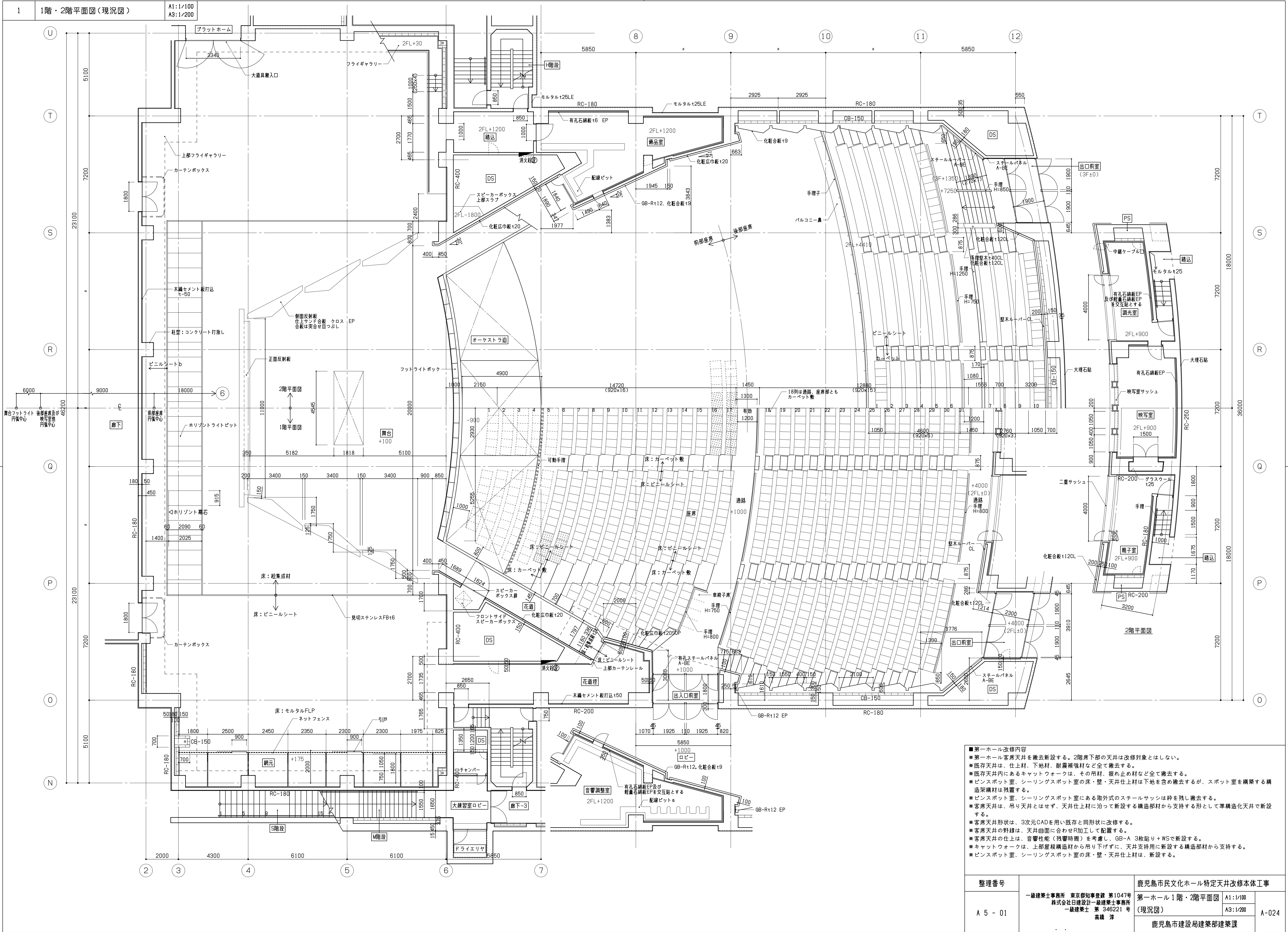


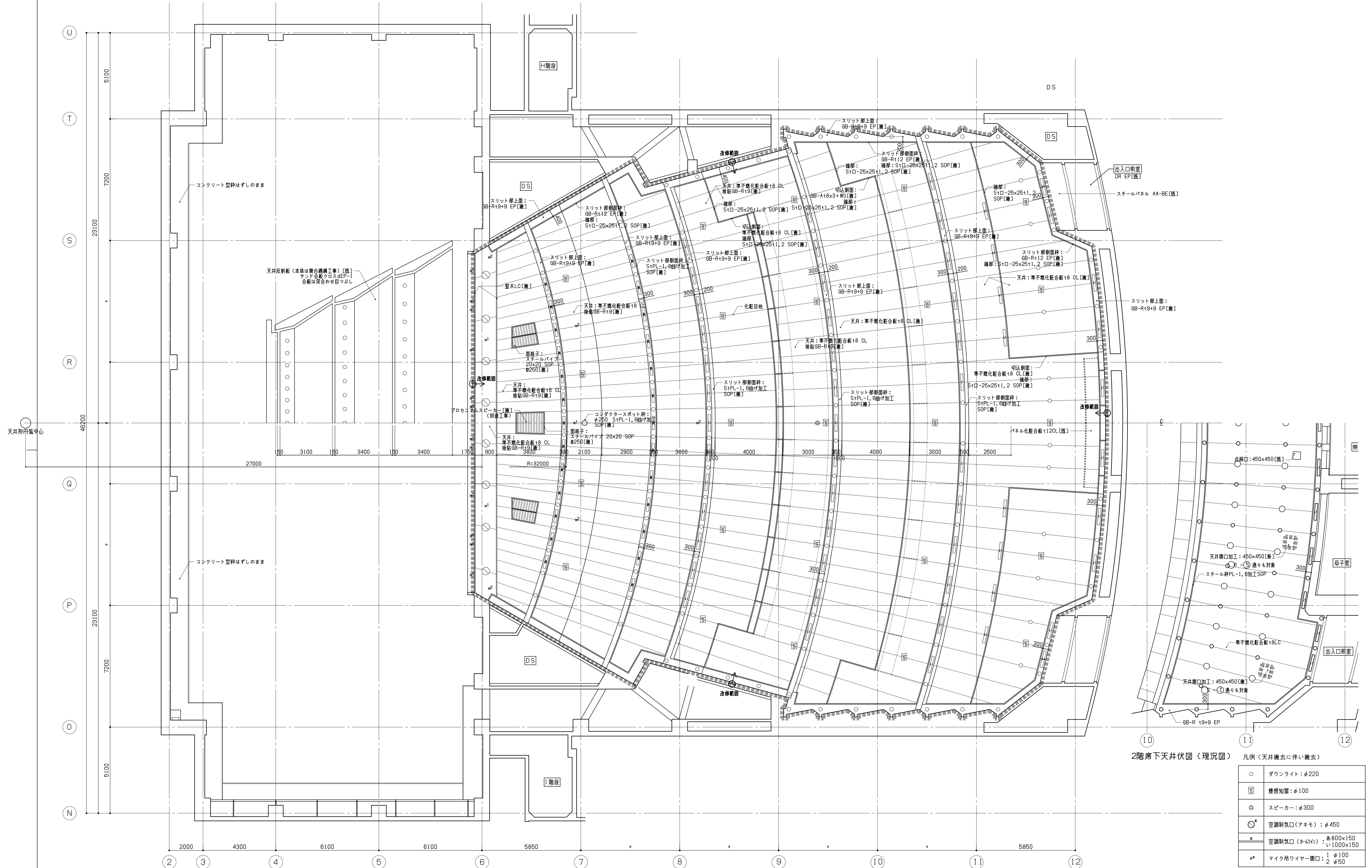
凡 例	コンクリート壁 コンクリートブロック (t150) H<3500 の場合は原則として コンクリートブロック (t100) H<2500) RC柱又は下り壁を設ける 軽量鉄骨間仕切 木造軸組壁 機械基礎	床点検口600φ 鋼鉄製 ●印は600° アルミ製 鋼鉄製マンホール(中圧圧、防臭型) 600φ 鋼鉄製マンホール(断熱マンホール) 600φ 足場場 土に接する外周廻り排水溝(排水溝下部がピット又は二重壁でない場合は同材による縦横を通す) 一つの区画につき土抜きとして硬質塩ビ管75φ 2本設置	・特記なき限り下記による 溝 溝蓋を設ける部分を示す グレーチング溝巾=300 H=38
-----	---	---	---

整理番号		鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
A 4 - 08	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 第 346221 号 高橋 淳	塔屋階平面図(現況図)	A1:1/300 A3:1/600	A-020
		鹿児島市建設局建築部建築課		

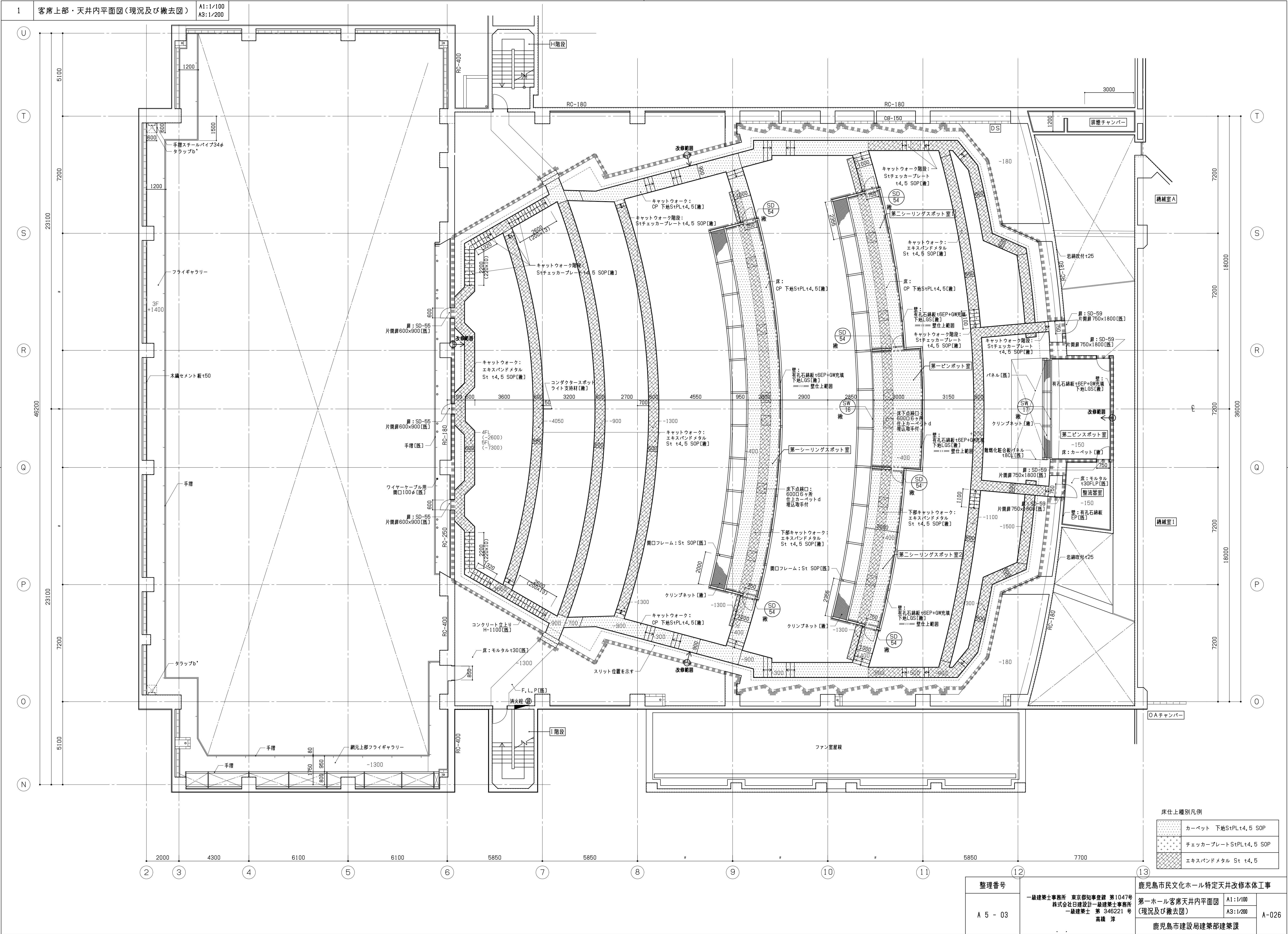


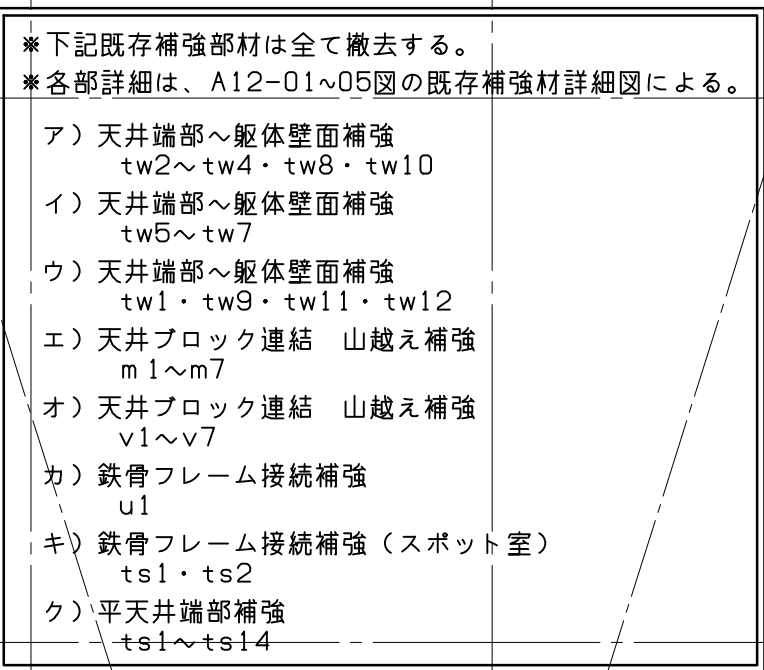




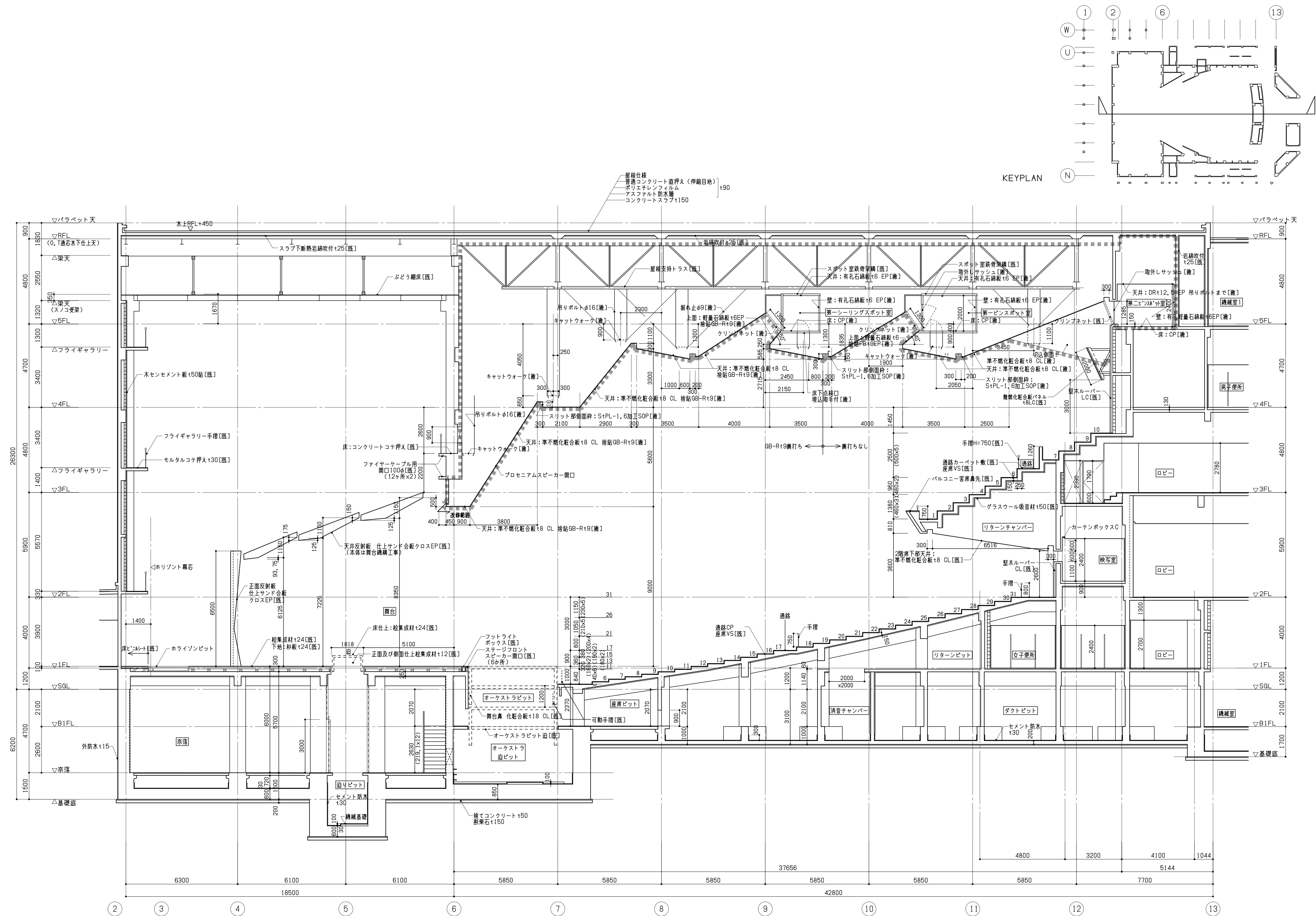


整理番号	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市文化ホール特定天井改修本体工事		
A 5 - 02		第一ホール客席天井伏図 (現況及び撤去図)	A1:1/100 A3:1/200	A-025
		鹿児島市建設局建築部建築課		

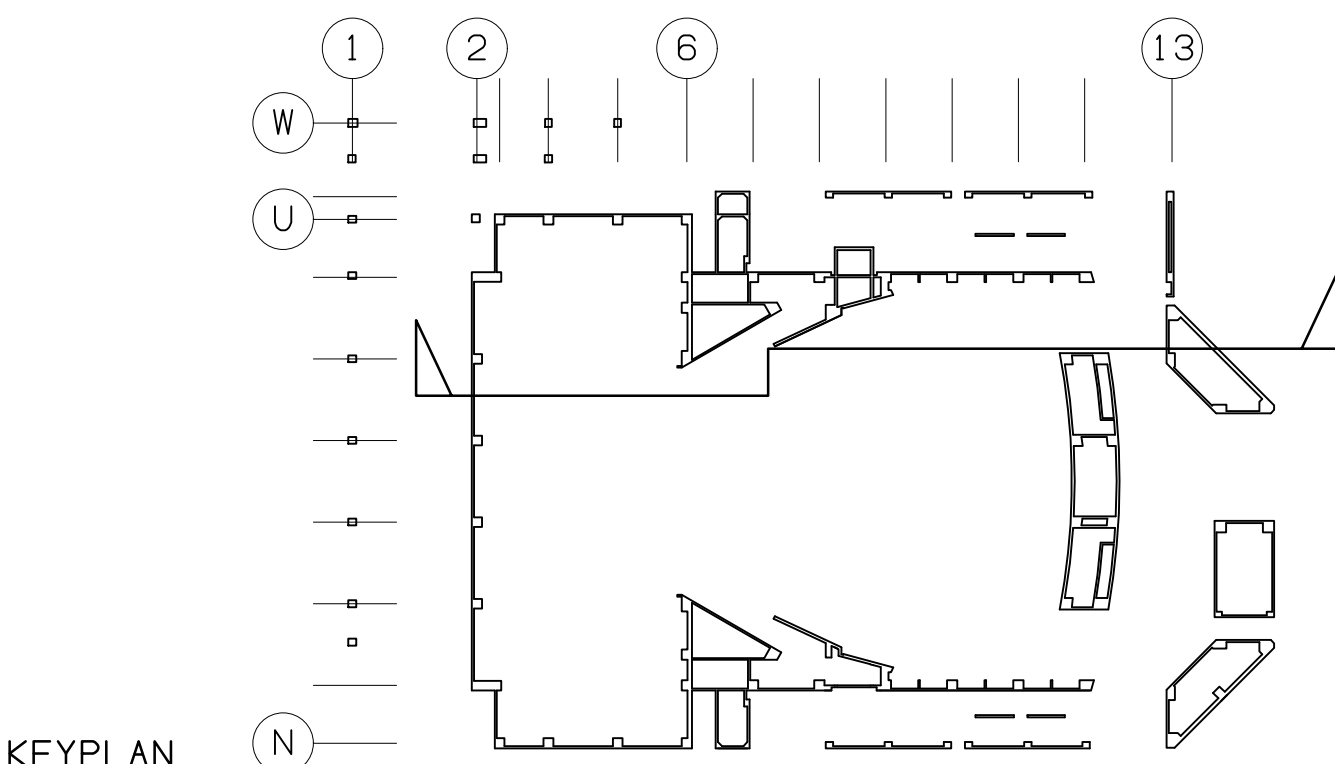
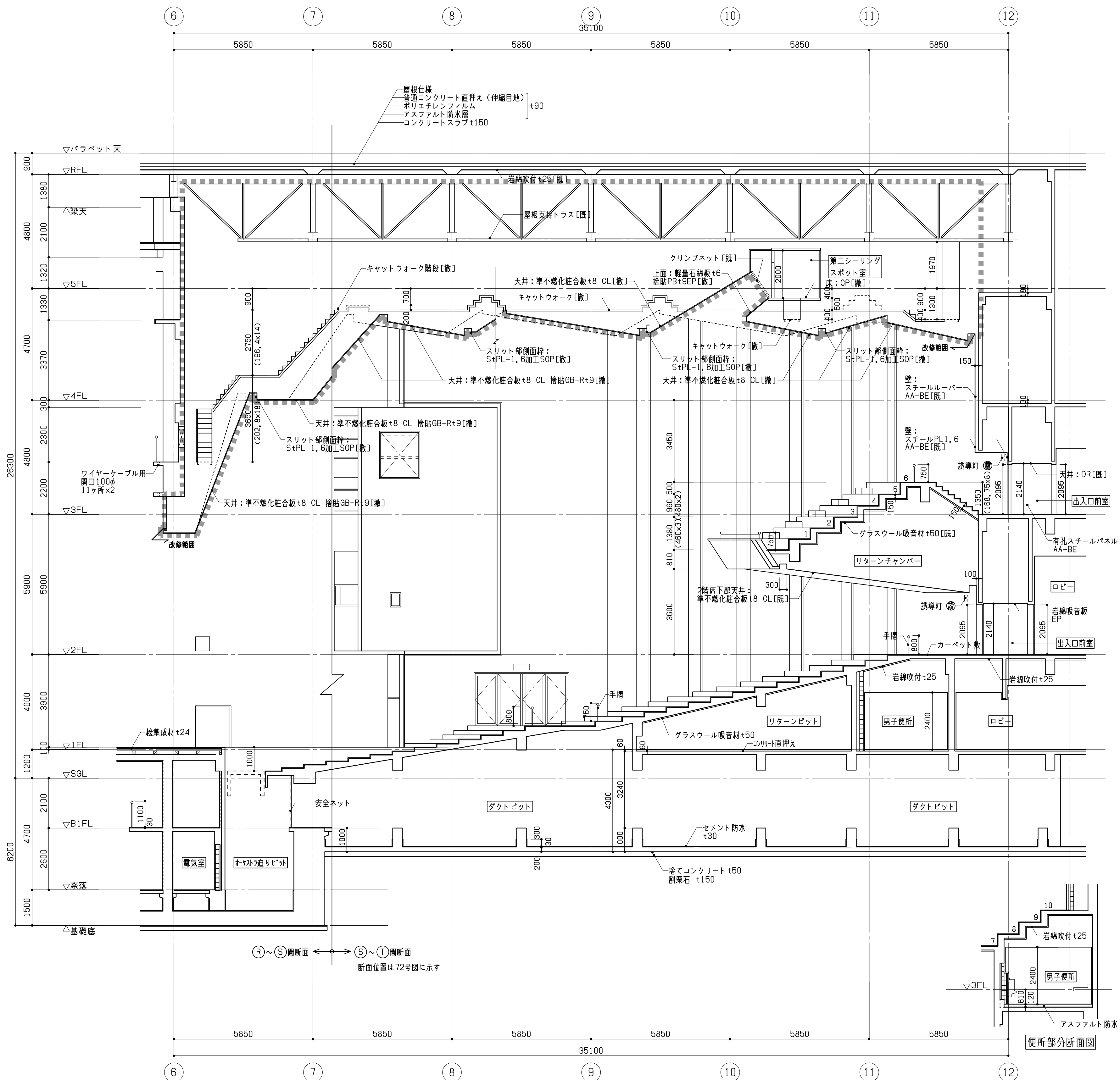




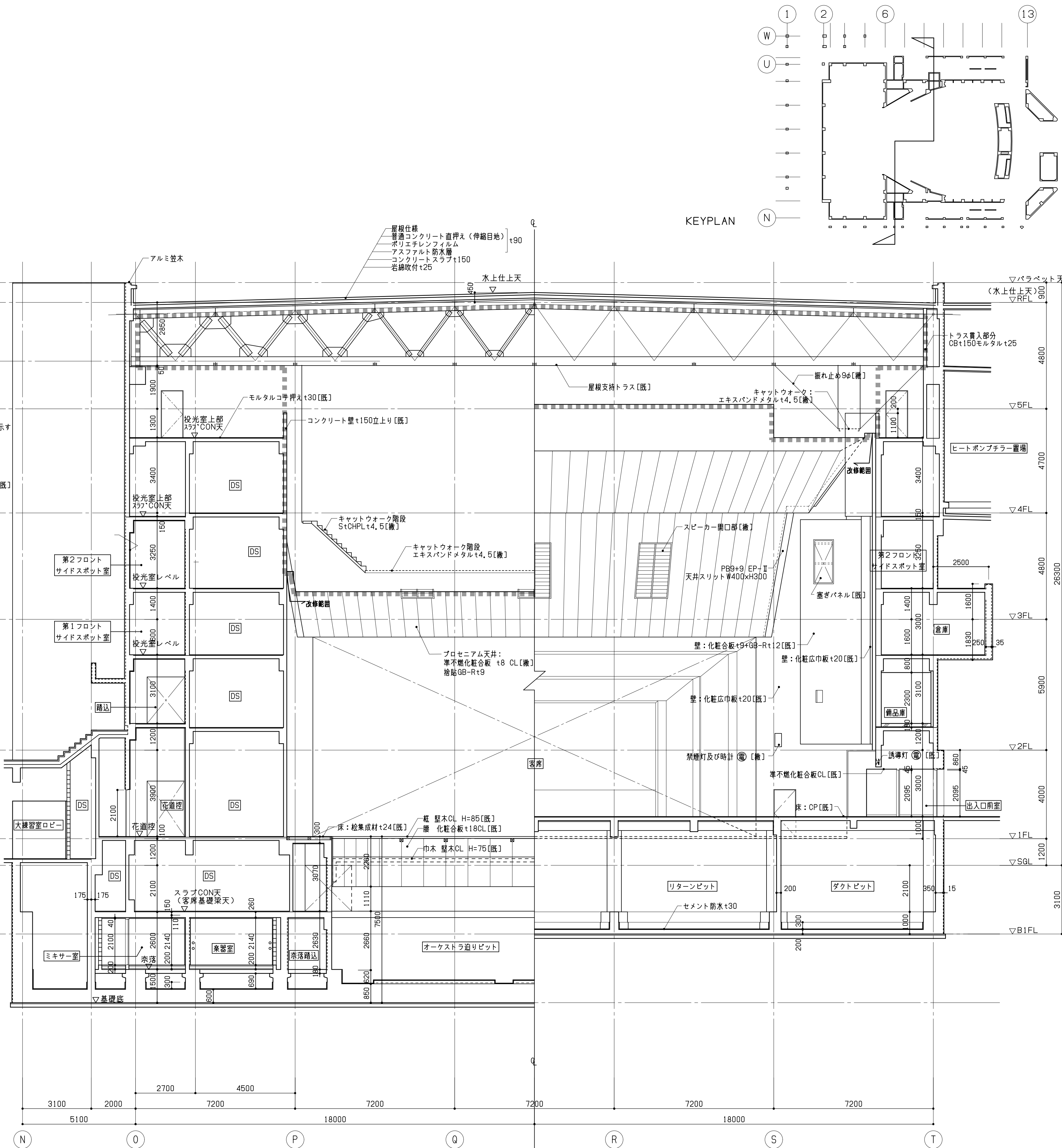
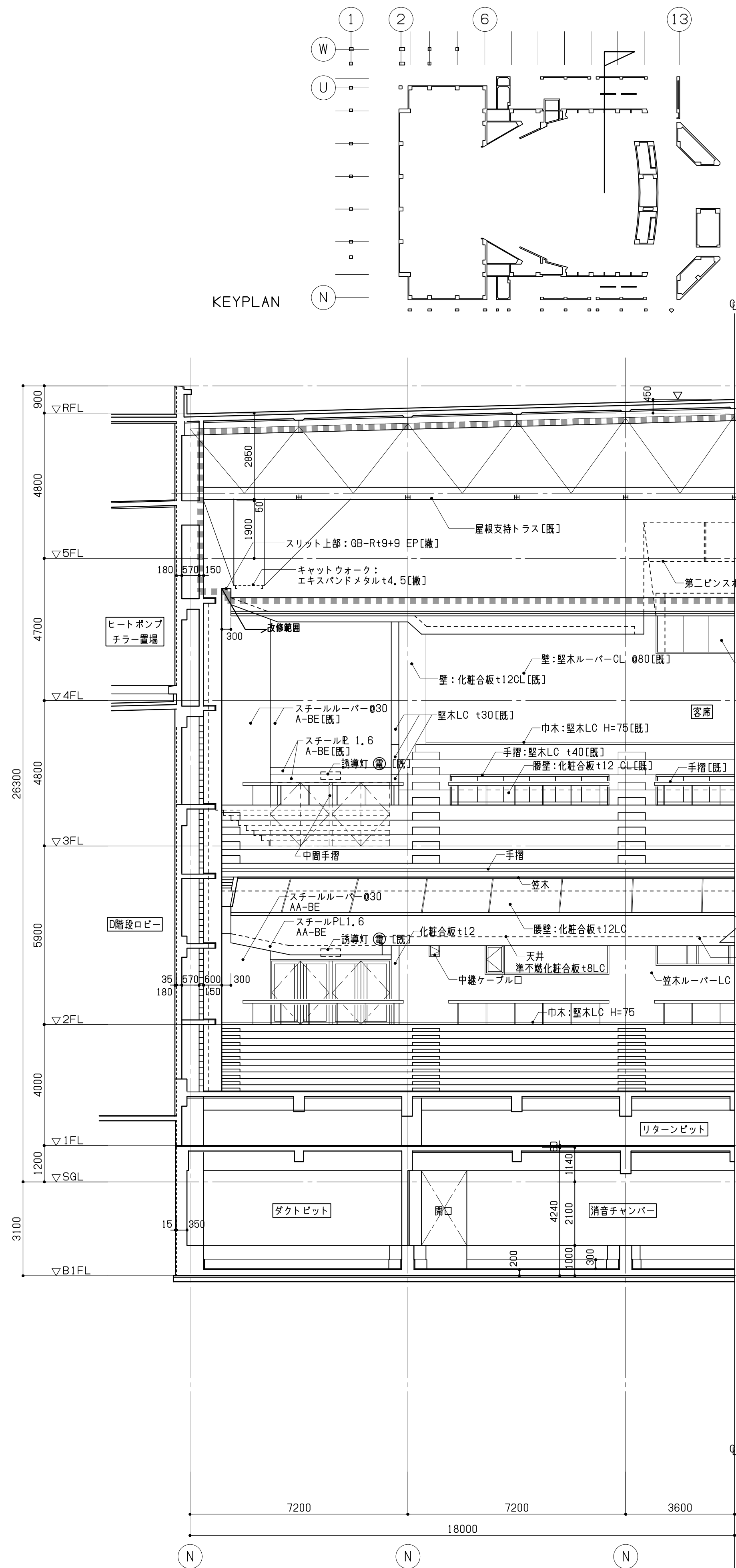
整理番号	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		A-028
A 5 - 05	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221号 高橋 淳	第一ホール天井内補強図 (現況及び撤去図)	
		<table><tr><td>A1:1/100</td></tr><tr><td>A3:1/200</td></tr></table>	
A1:1/100			
A3:1/200			
	鹿児島市建設局建築部建築課		

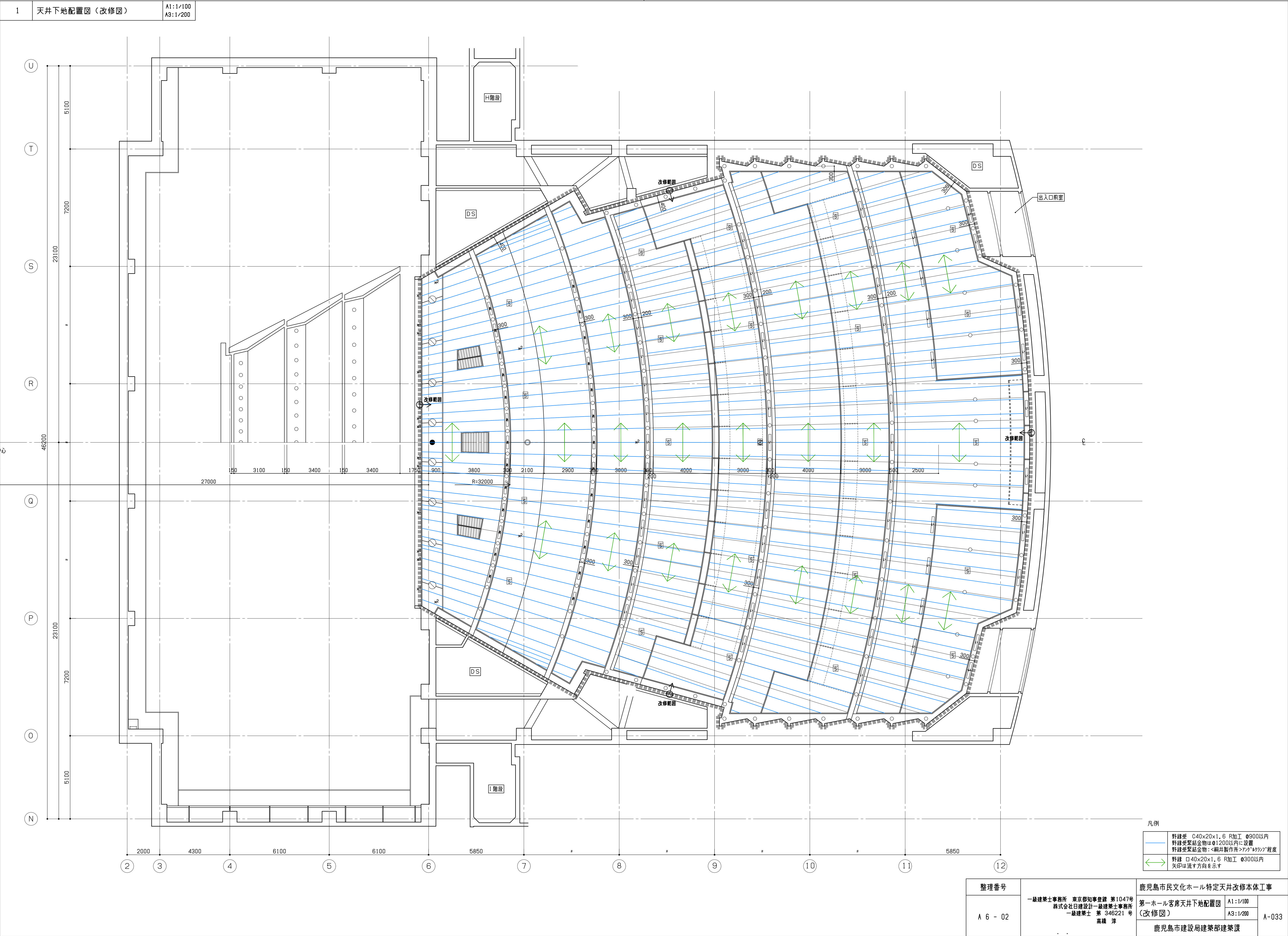


整理番号	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿兒島市文化ホール特定天井改修本体工事		A-029
		第一ホール席間中央部縦断面図 (現況及び撤去図)	A1:1/100 A3:1/200	
A 5 - 06		鹿兒島市建設局建築部建築課		

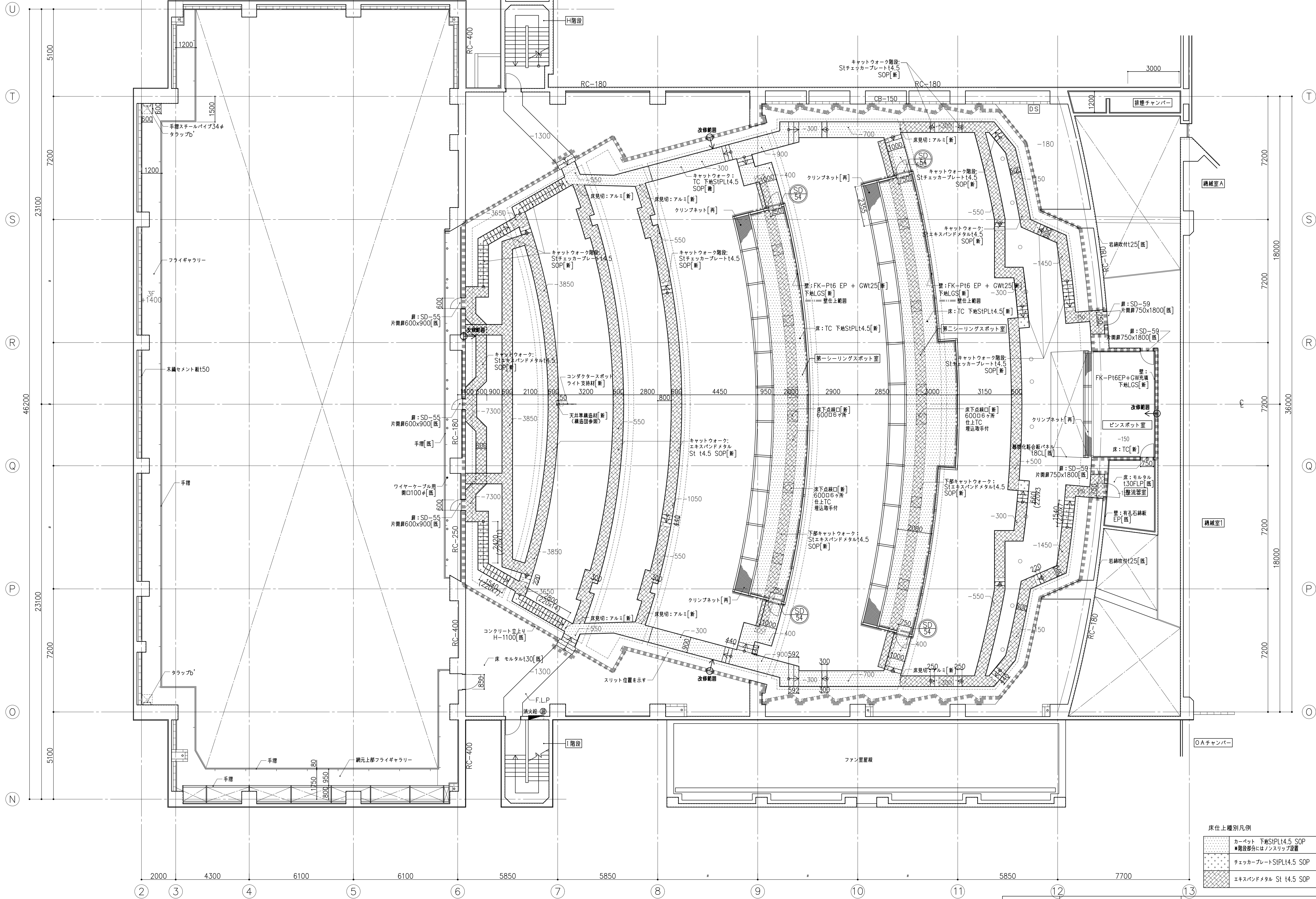


KEYPLAN



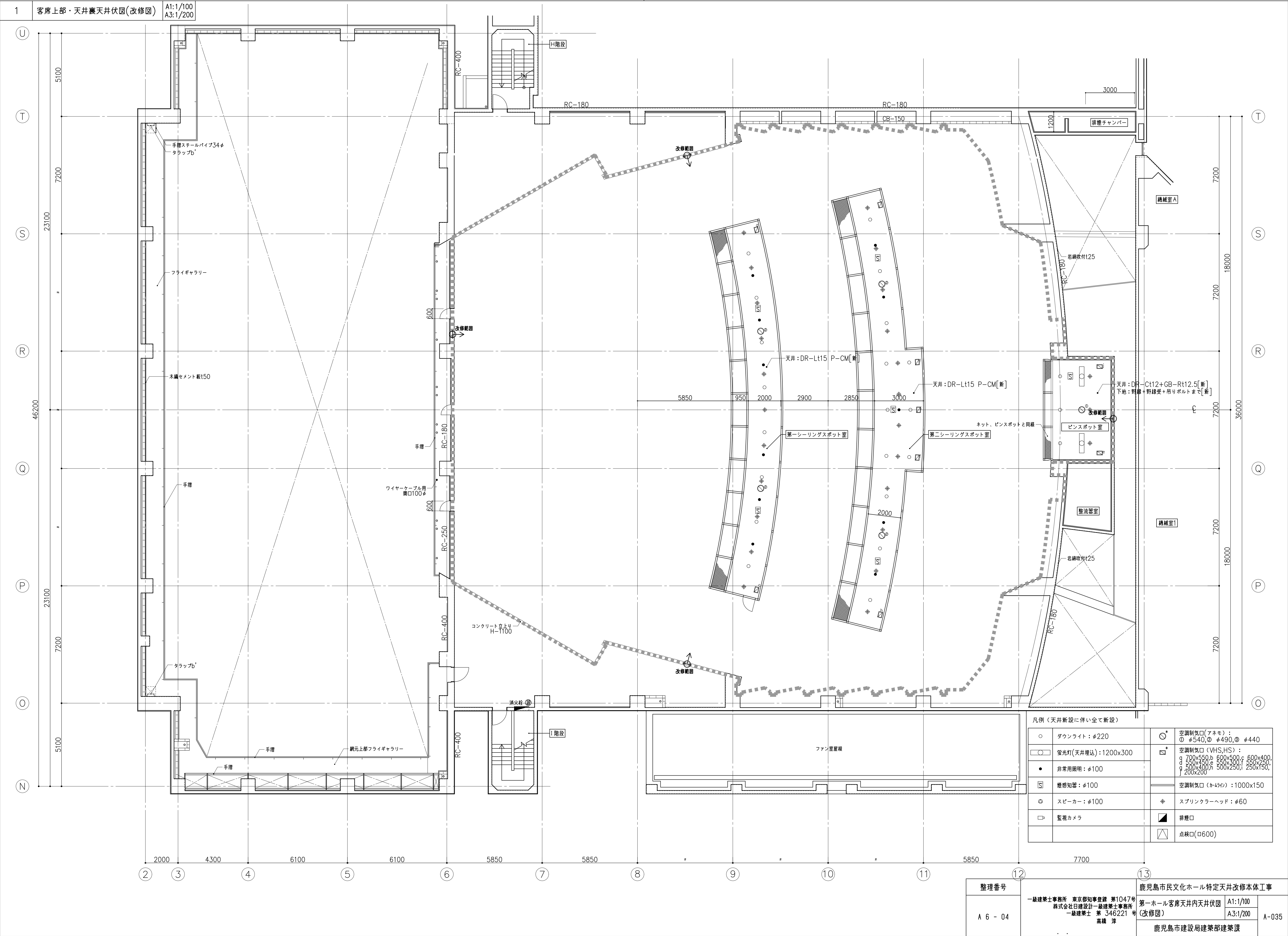


整理番号	第一建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 第一建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール 特定天井改修本体工事
A 6 - 02	第一ホール客席天井地下配置図 (改修図)	A1:1/100 A3:1/200 A-033
鹿児島市建設局建築部建築課		



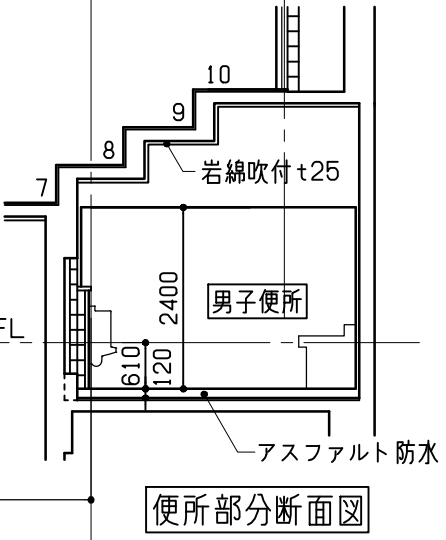
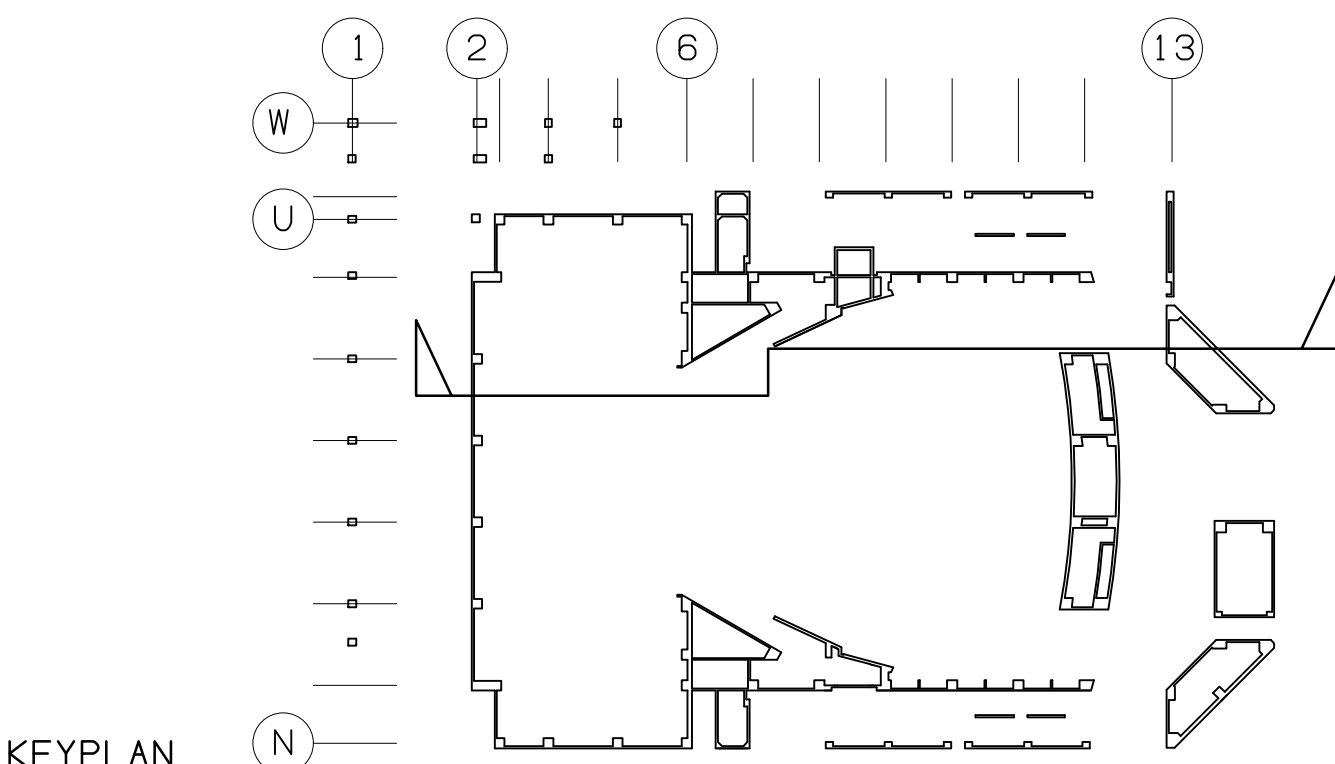
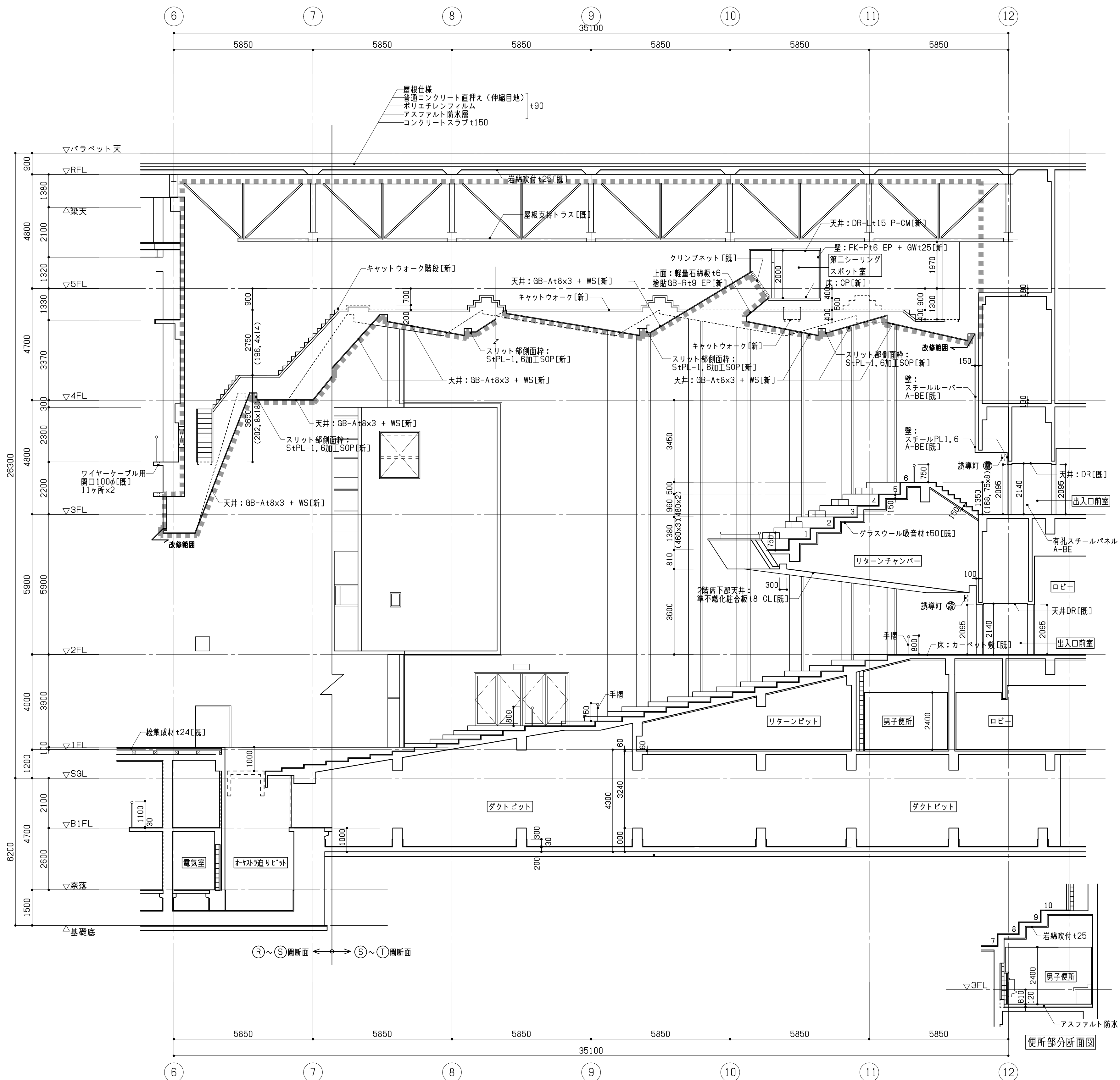
天井裏平面図のレベルは5FLを基準とする

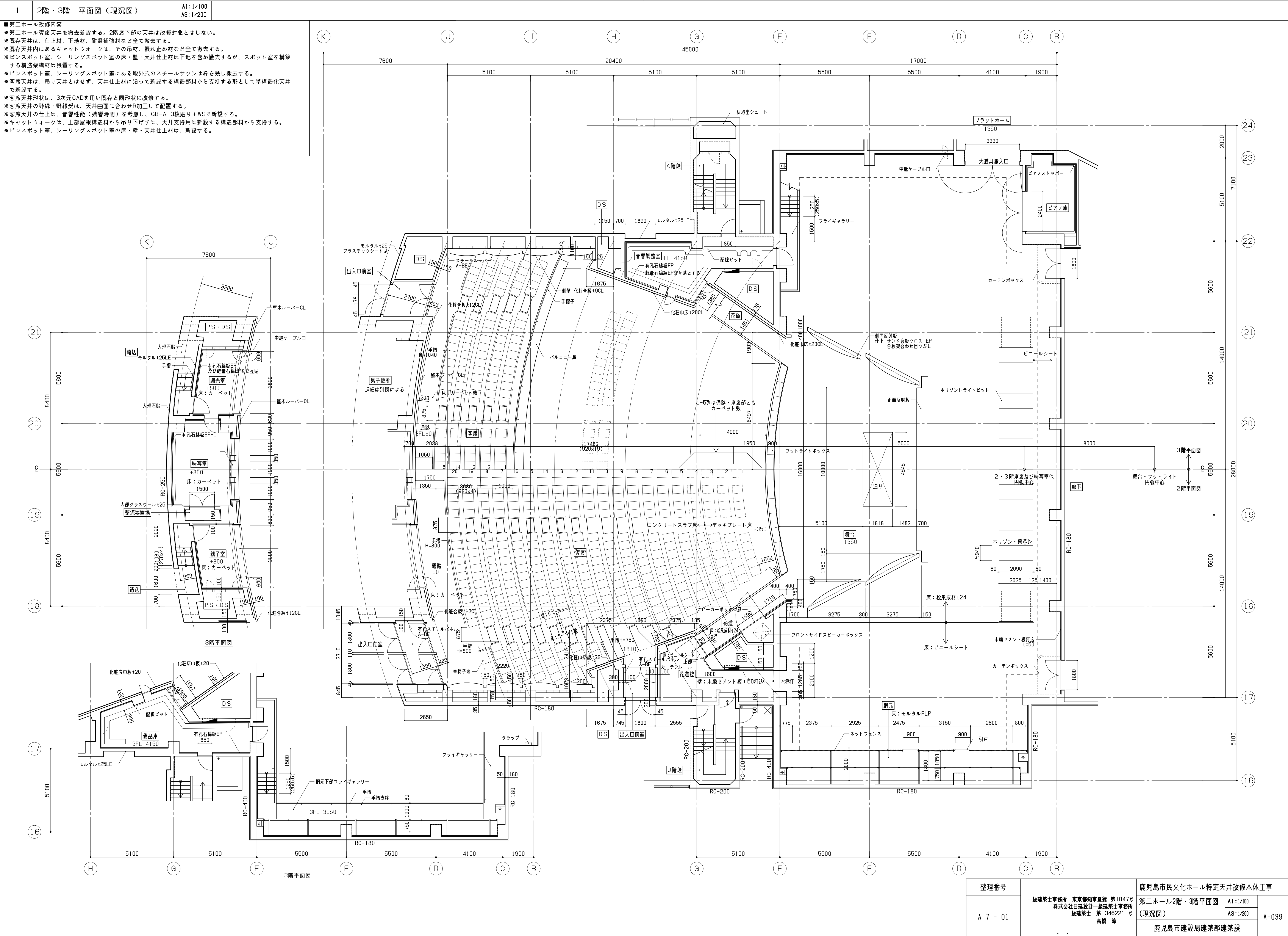
整理番号		鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事			
A 6 - 03	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳		第一ホール客席天井内平面図 (改修図)		A1:1/100 A3:1/200
					A-034
			鹿児島市建設局建築部建築課		

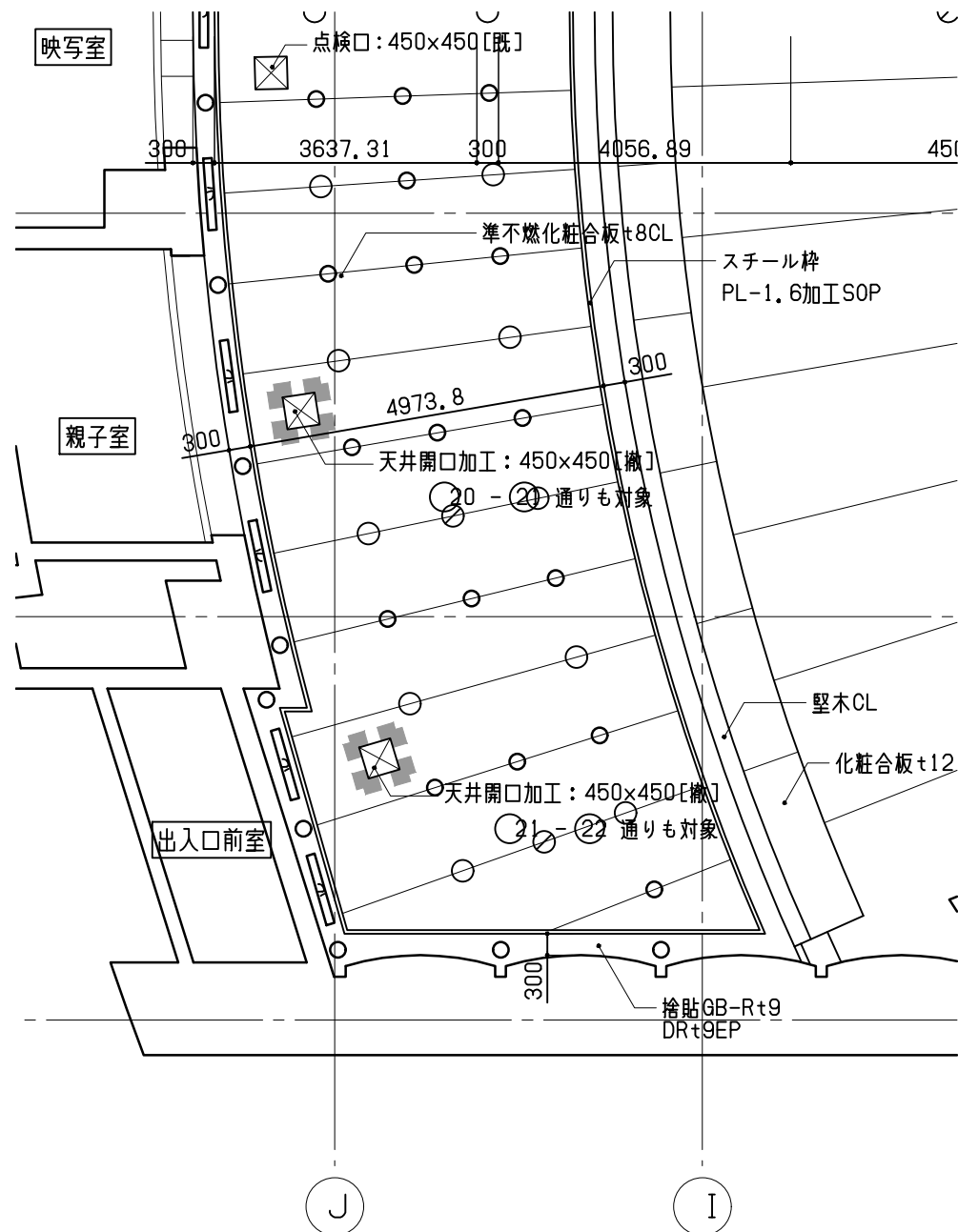


凡例（天井新設に伴い全て新設）			
○	ダウンライト：φ220	⊙	空調制気口（アネモ）： ① φ540, ② φ490, ③ φ440
□	蛍光灯（天井埋込）：1200x300	⊞	空調制気口（VHS, HS）： a 700x550, b 600x500, c 600x400, d 500x400, e 500x200, f 550x250, g 500x400, h 500x250, i 250x150, j 200x200
●	非常用照明：φ100	≡	空調制気口（ホーパ）：1000x150
㊦	煙感知器：φ100	⊕	スプリンクラーヘッド：φ60
⊗	スピーカー：φ100	▣	排煙口
□	監視カメラ	◻	点検口（□600）

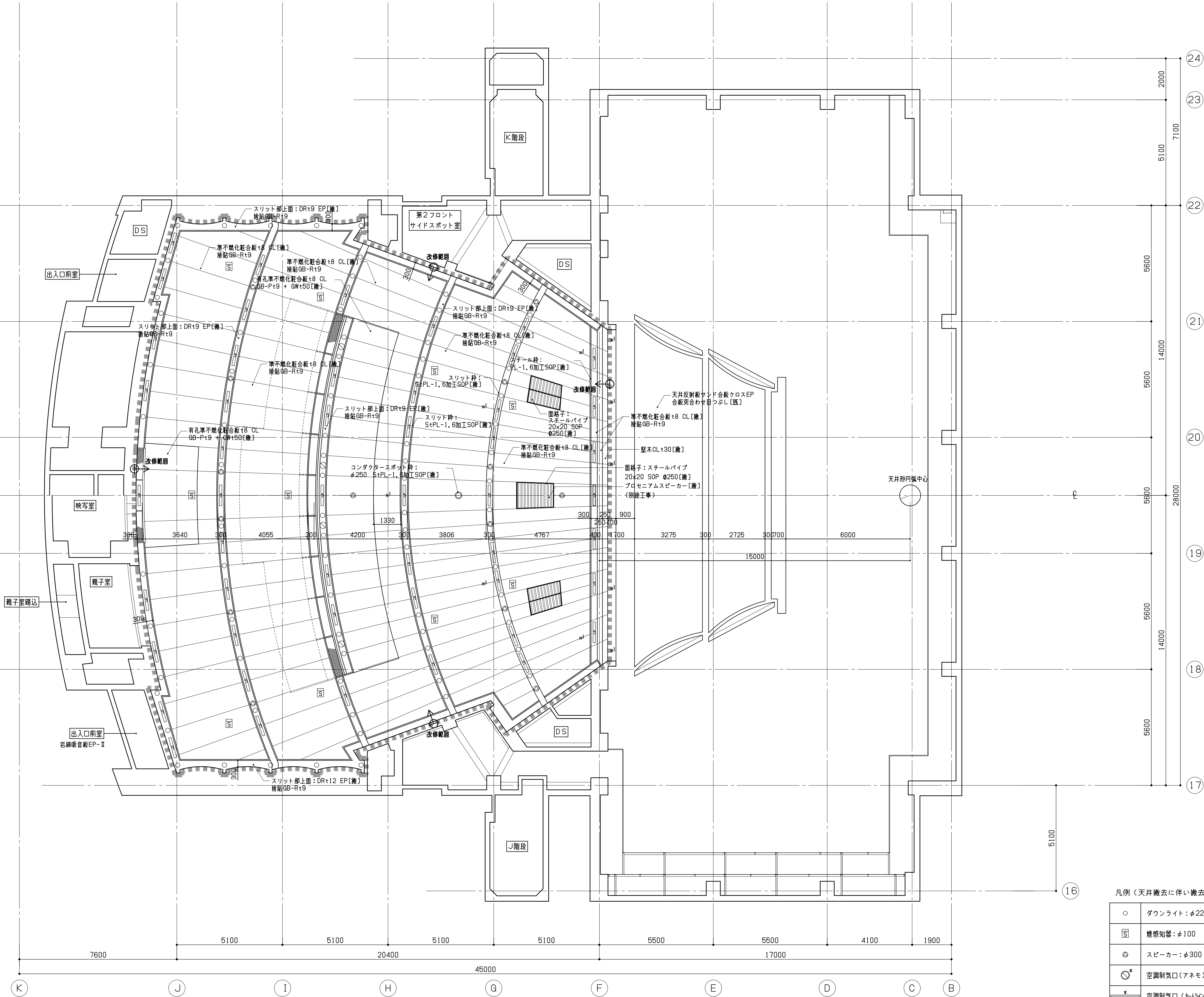
整理番号	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
		第一ホール客席天井内天井伏図 (改修図)	A1:1/100 A3:1/200	A-035
			鹿児島市建設局建築部建築課	





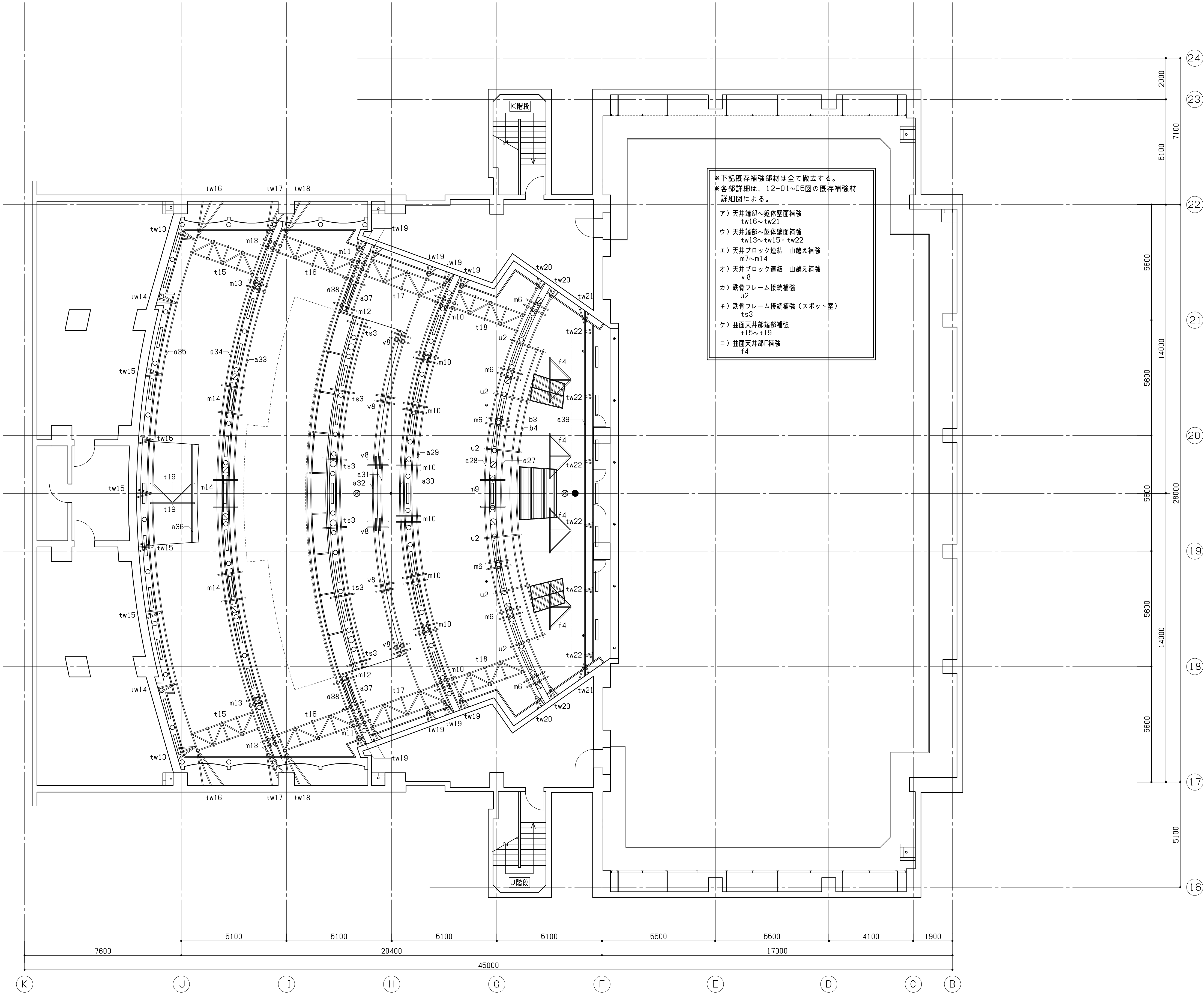


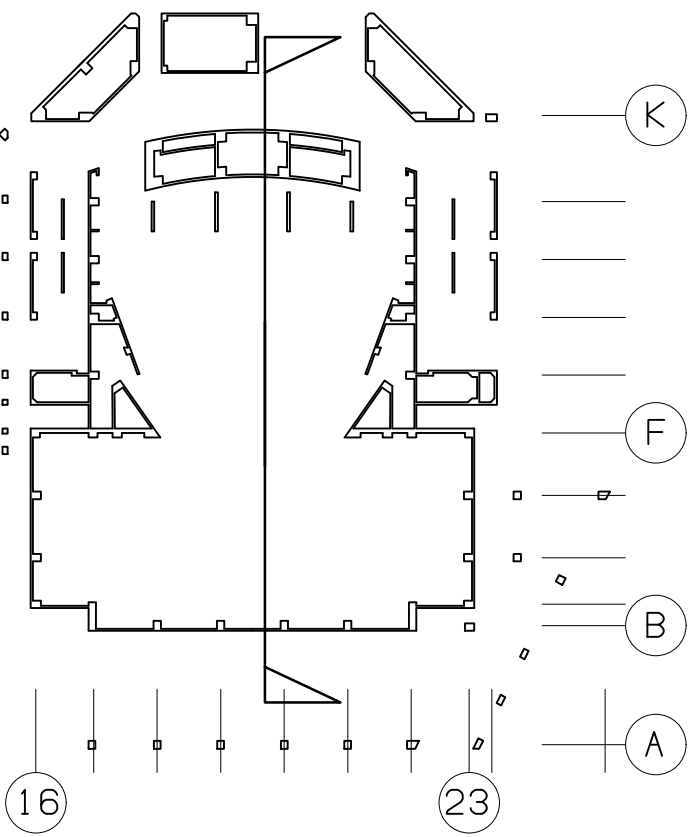
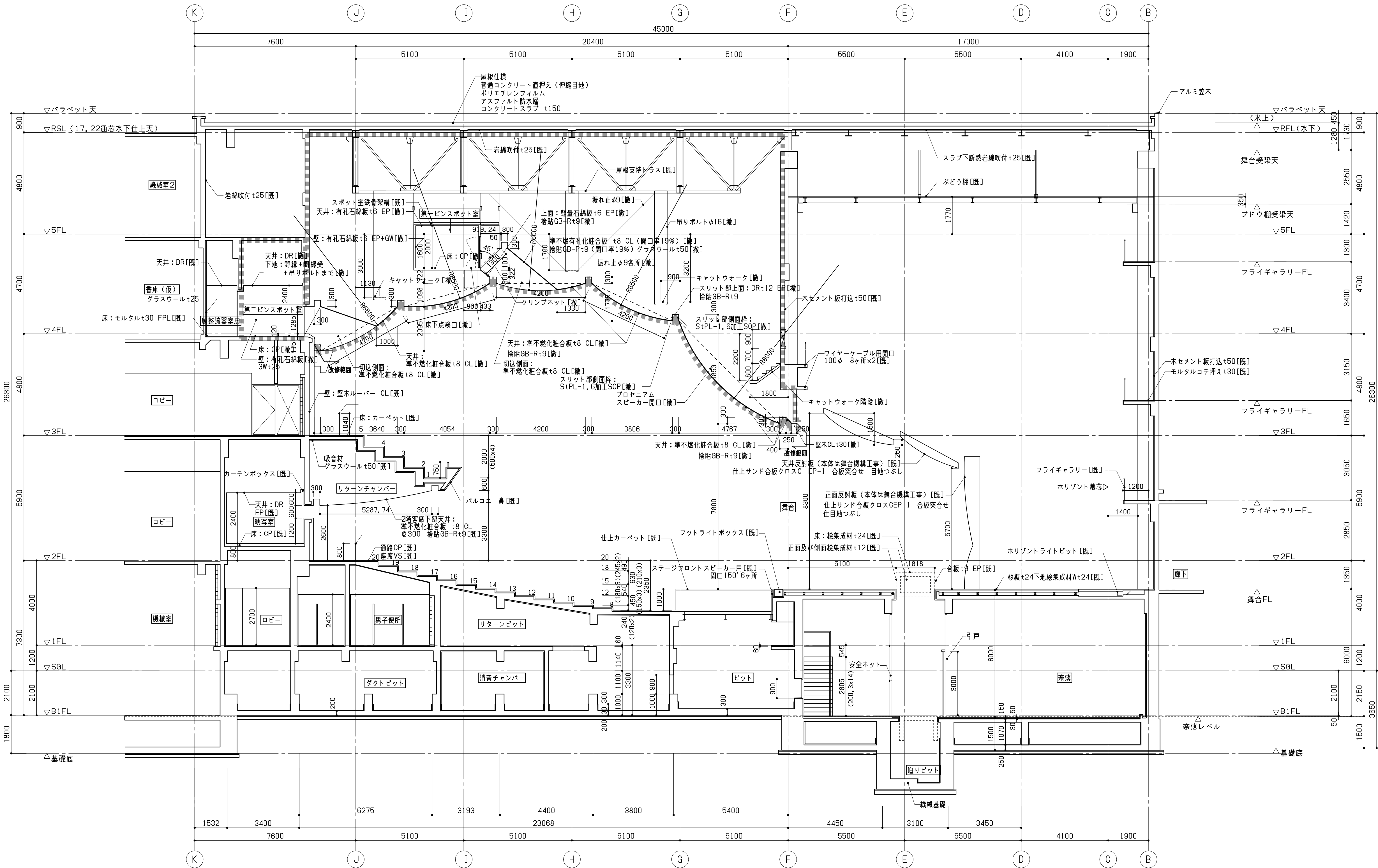
2階席下天井伏図（現況図）



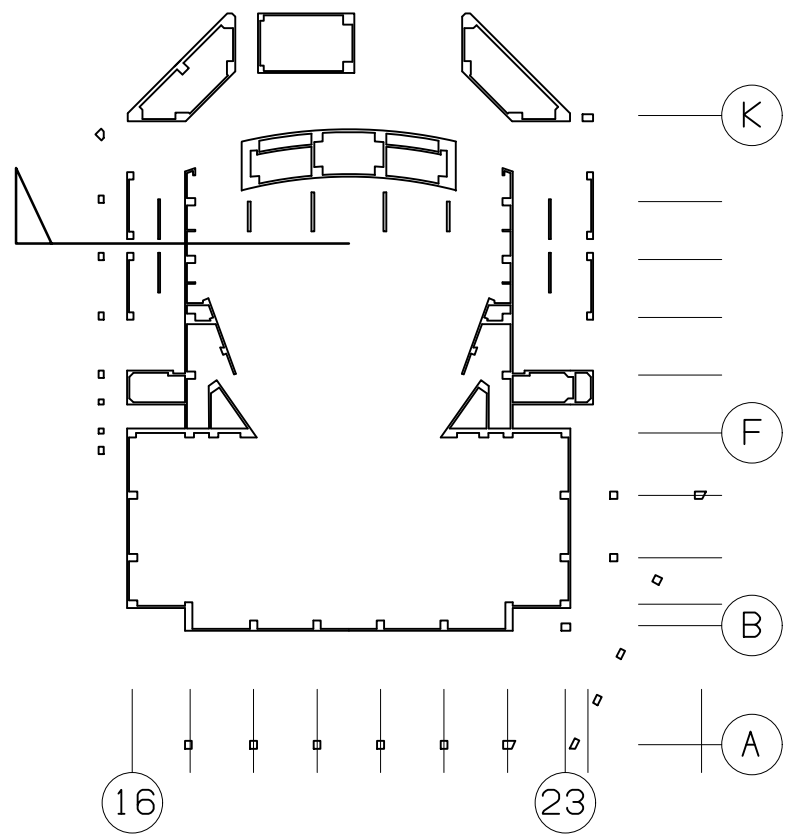
凡例（天井撤去に伴い撤去）

○	ダウンライト：φ220
□	煙感知器：φ100
⊙	スピーカー：φ300
⊗	空調制気口（アネモ）：φ300
*	空調制気口（カムタン）：う1000x120
※	マイク用ワイヤー開口：1 φ100 2 φ50

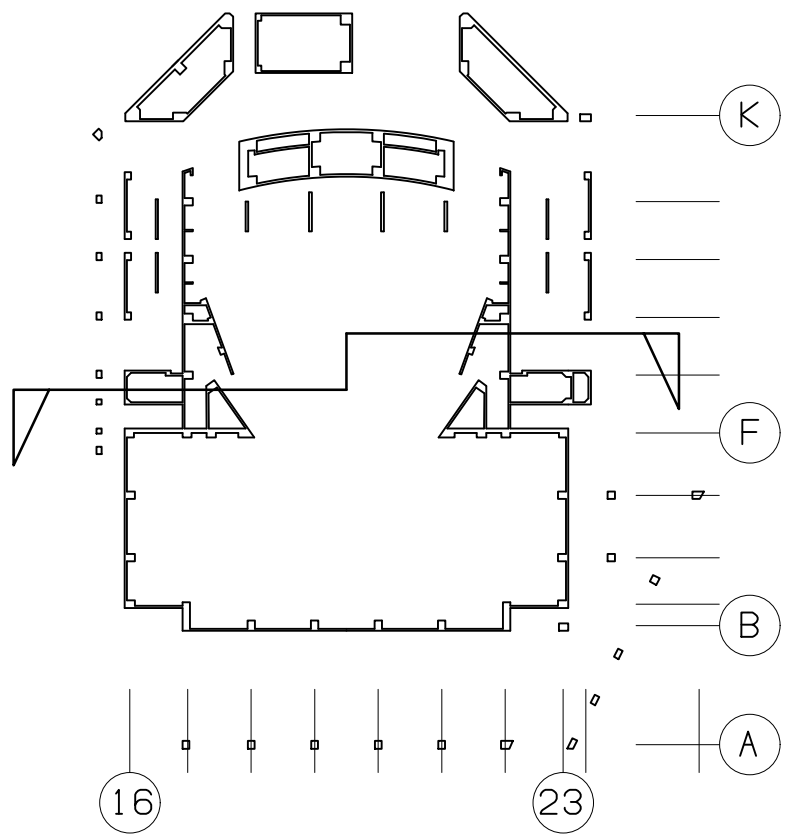
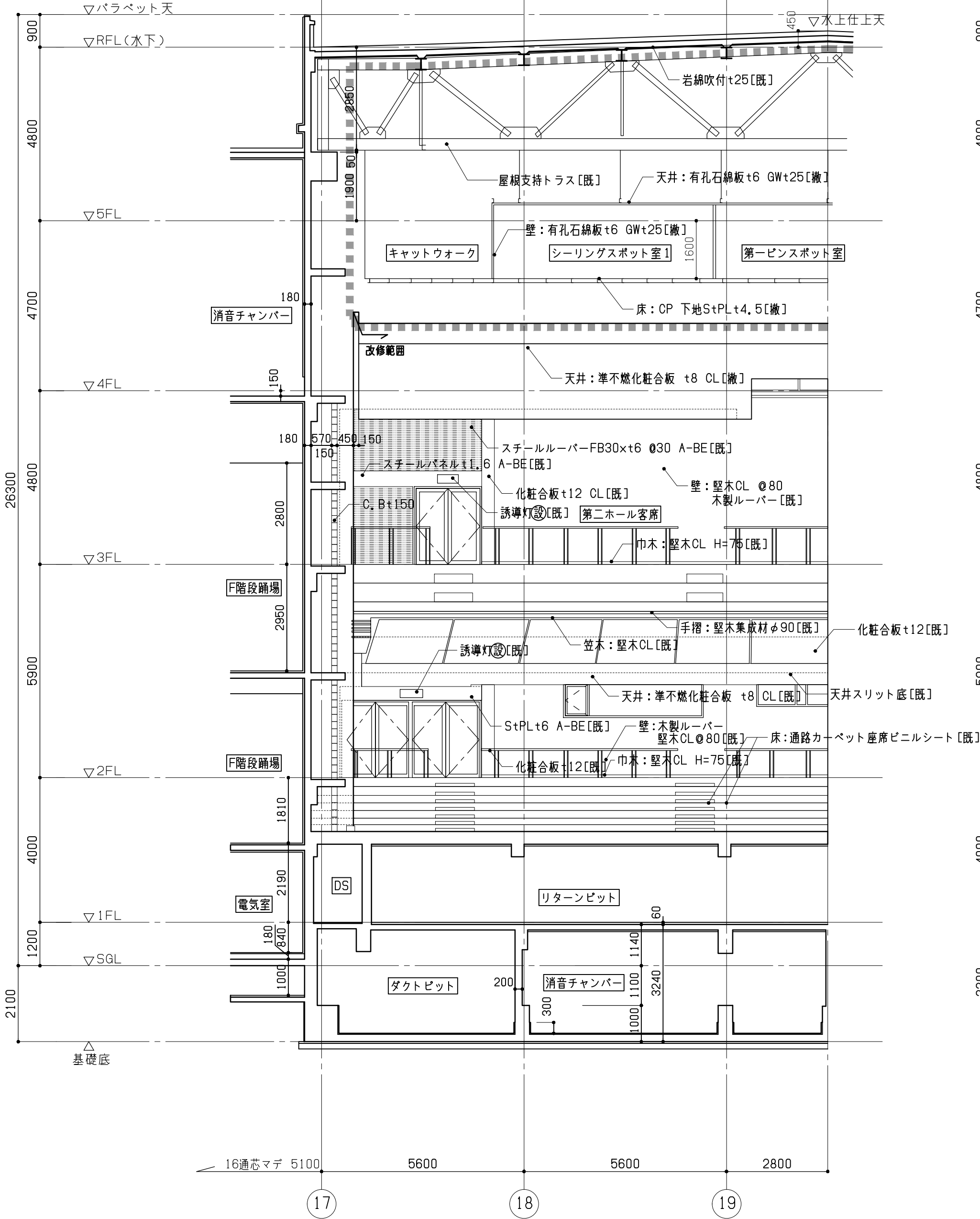




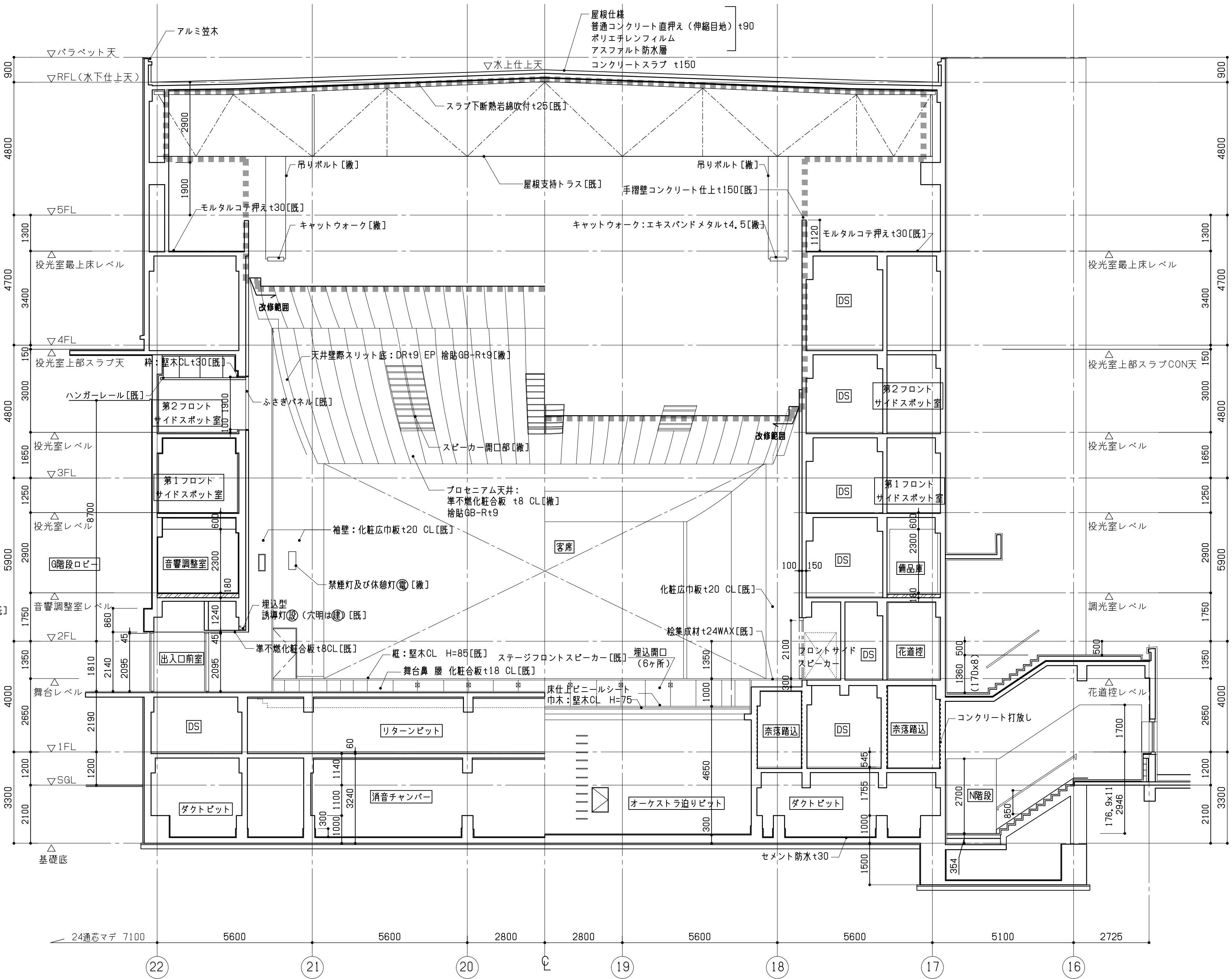
KEYPLAN

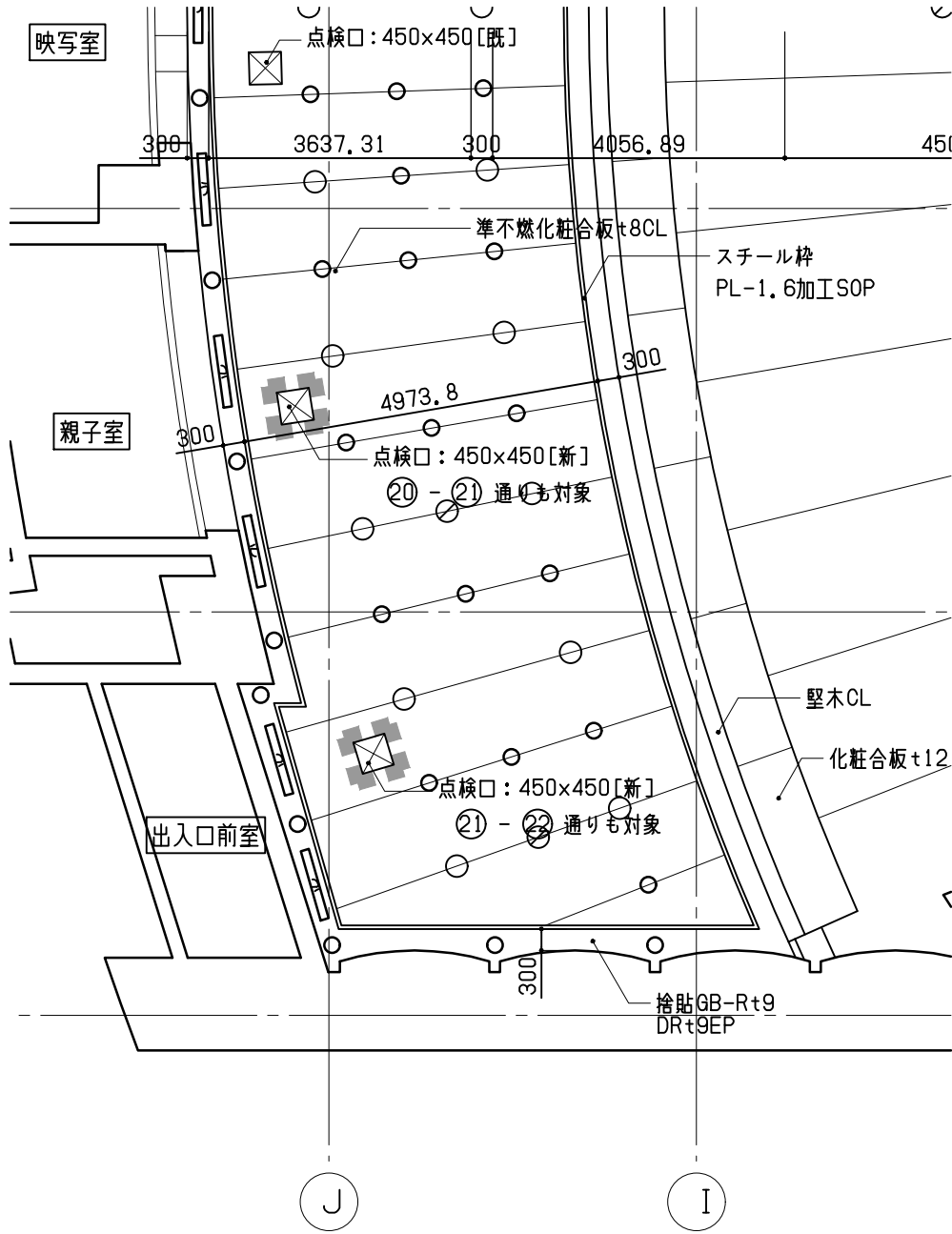


KEYPLAN

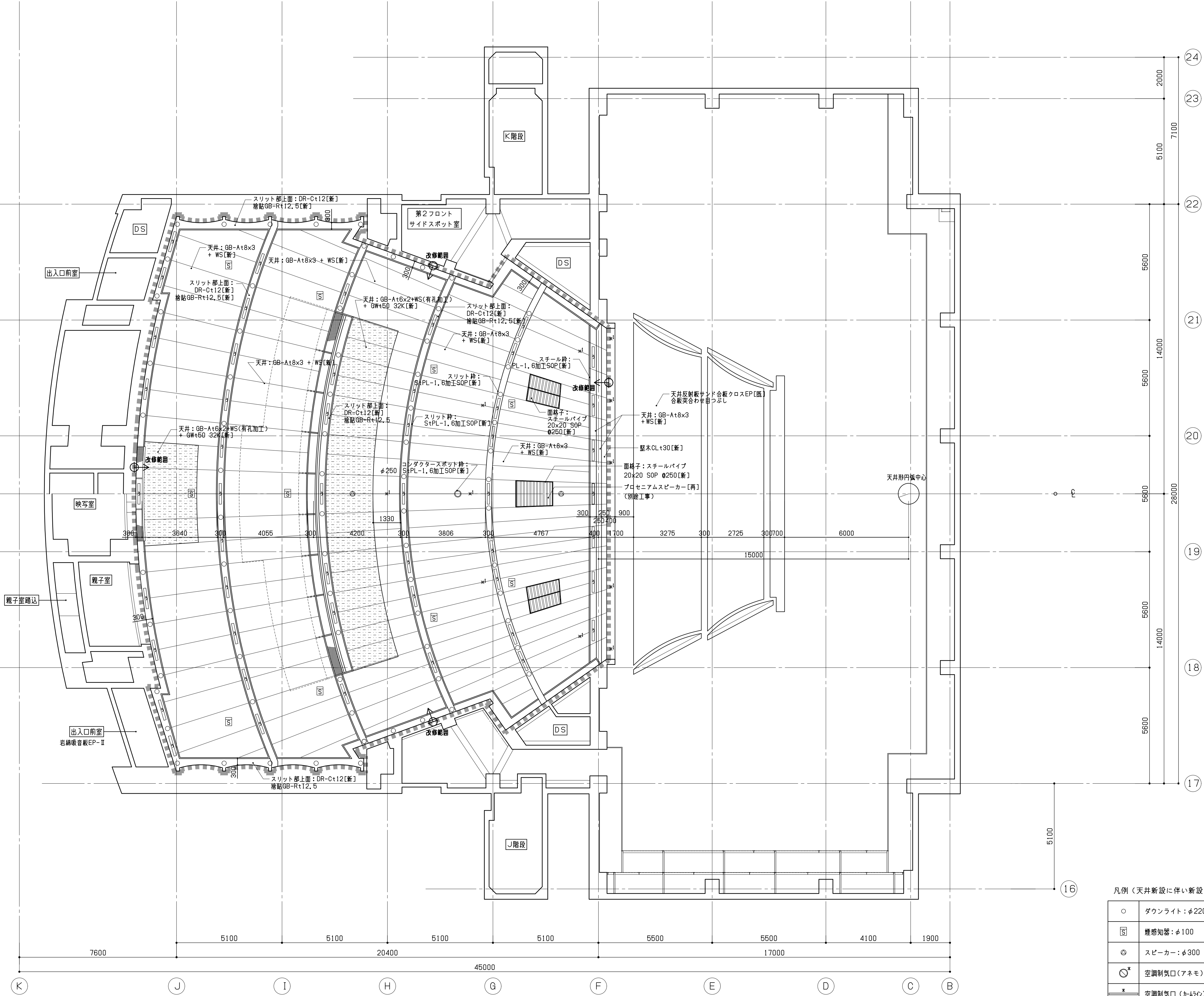


KEYPLAN

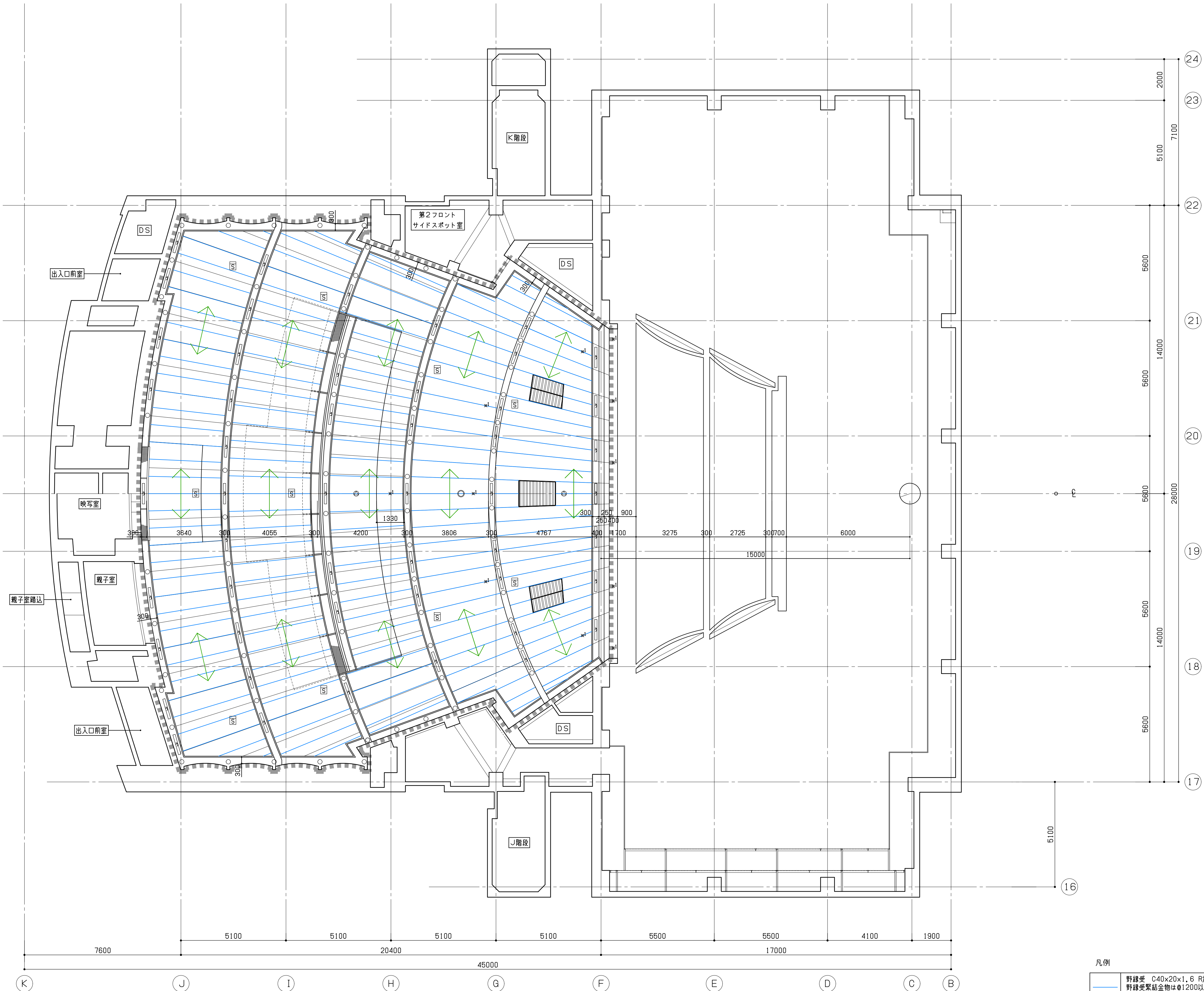




2階席下天井伏図（改修図）



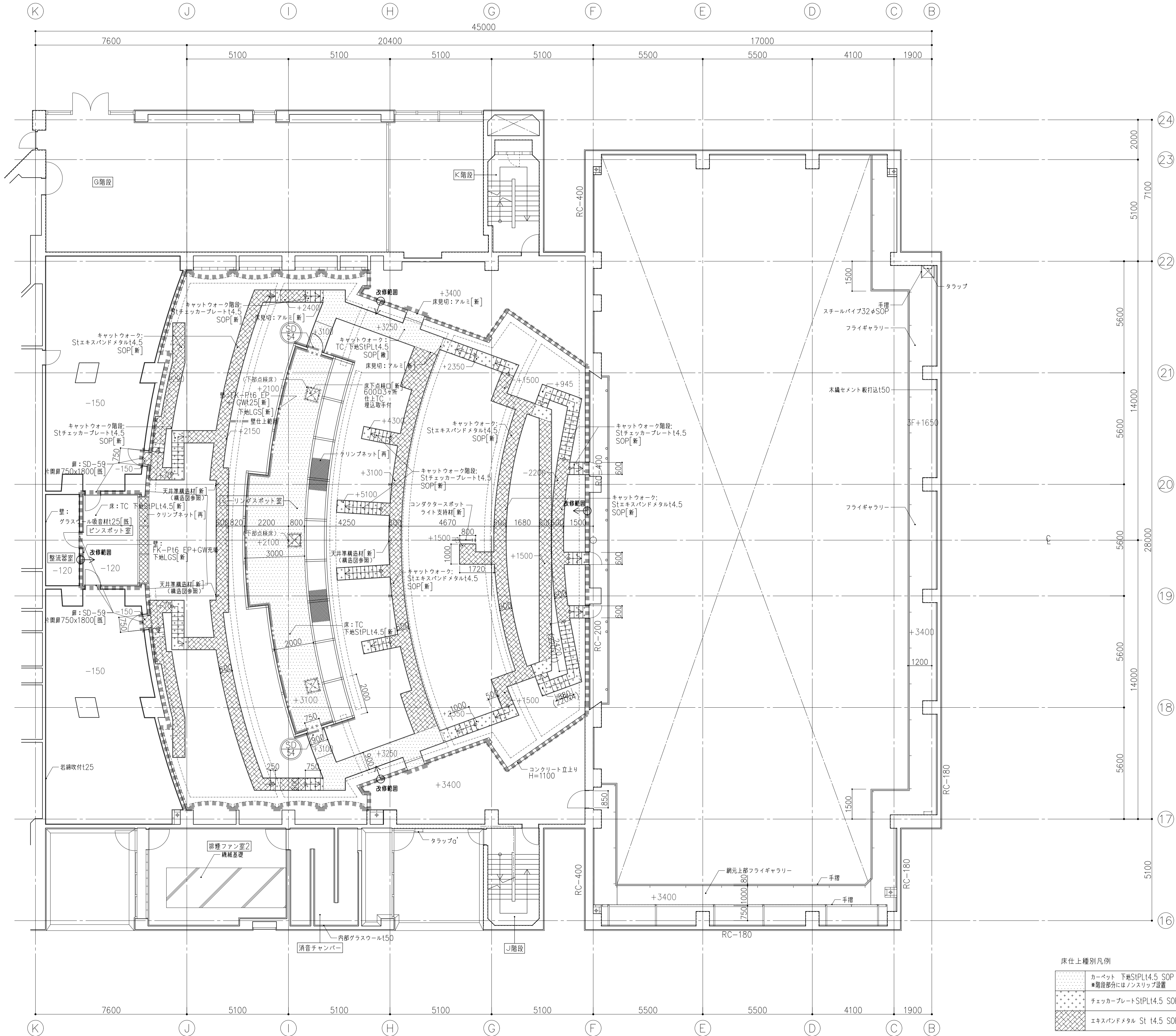
凡例（天井新設に伴い新設）	
○	ダウンライト: φ220
□	煙感知器: φ100
⊙	スピーカー: φ300
⊗	空調制気口(アネモ): φ300
*	空調制気口(カムラン): う1000x120
*x	マイク用ワイヤー開口: 1 φ100 2 φ50



凡例

	野縁受 040×20×1.6 R加工 Ø900以内 野縁受系結金物はØ1200以内に設置 野縁受系結金物：<鋼井製作所>フタ Mカラク程度
	野縁 040×20×1.6 R加工 Ø300以内 矢印は流す方向を示す

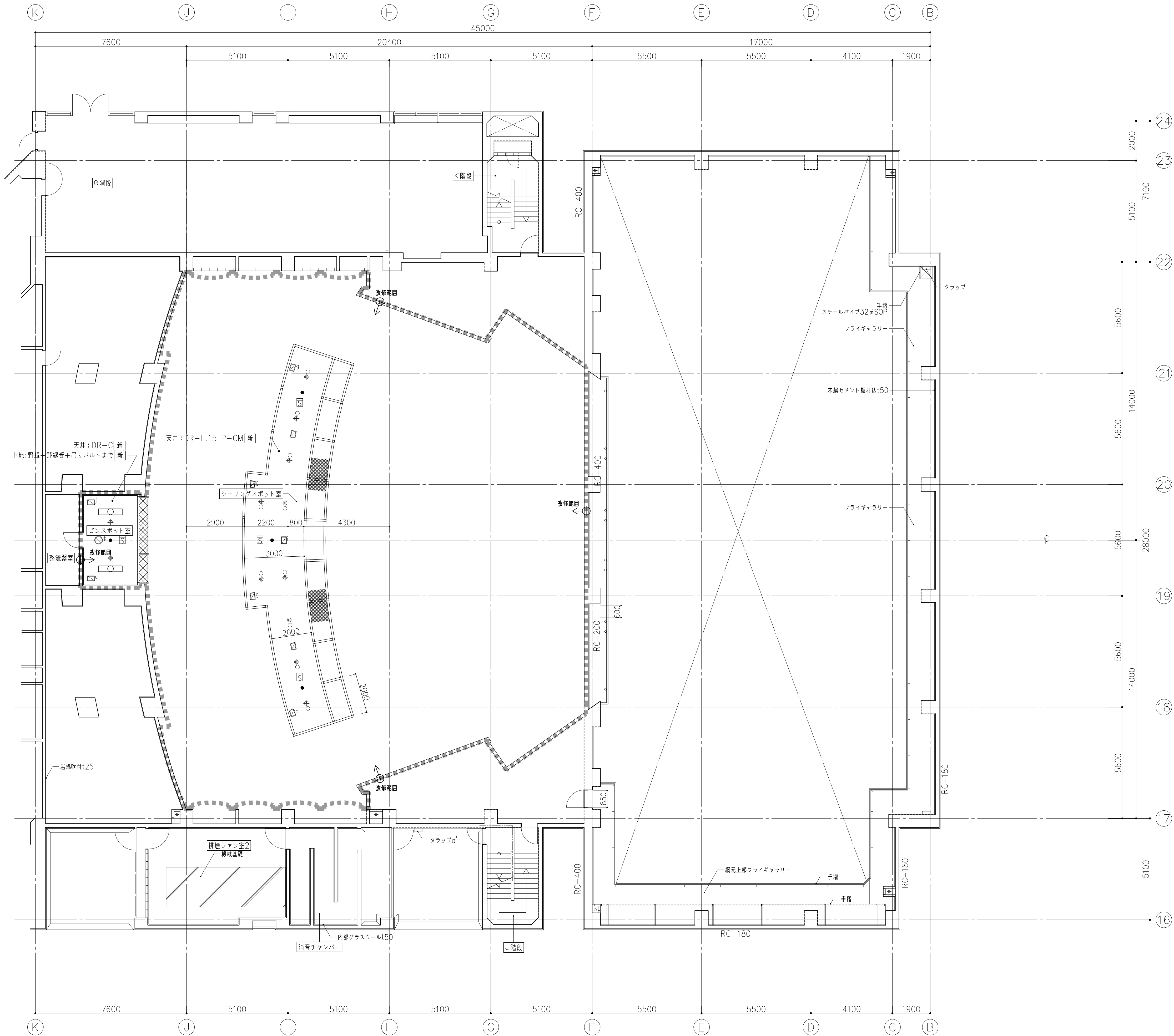
整理番号 A 8 - 02	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事	
		第二ホール客席天井伏図 (改修図)	A1:1/100 A3:1/200
		鹿児島市建設局建築部建築課	A-048



床仕上種別凡例	
	カーペット 下地StPLt4.5 SOP
	チェッカープレートStPLt4.5 SOP
	エキスパンドメタル St t4.5 SOP

天井裏平面図のレベルは4FLを基準とする

整理番号	A 8 - 03	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事 第二ホール客席天井内平面図 (改修図)	A1:1/100 A3:1/200	A-049
				鹿児島市建設局建築部建築課	

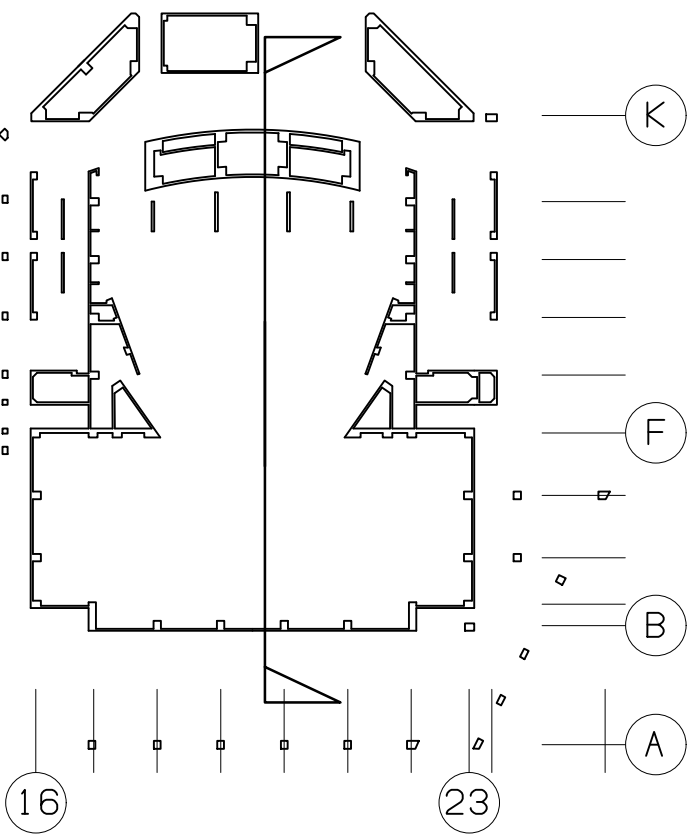
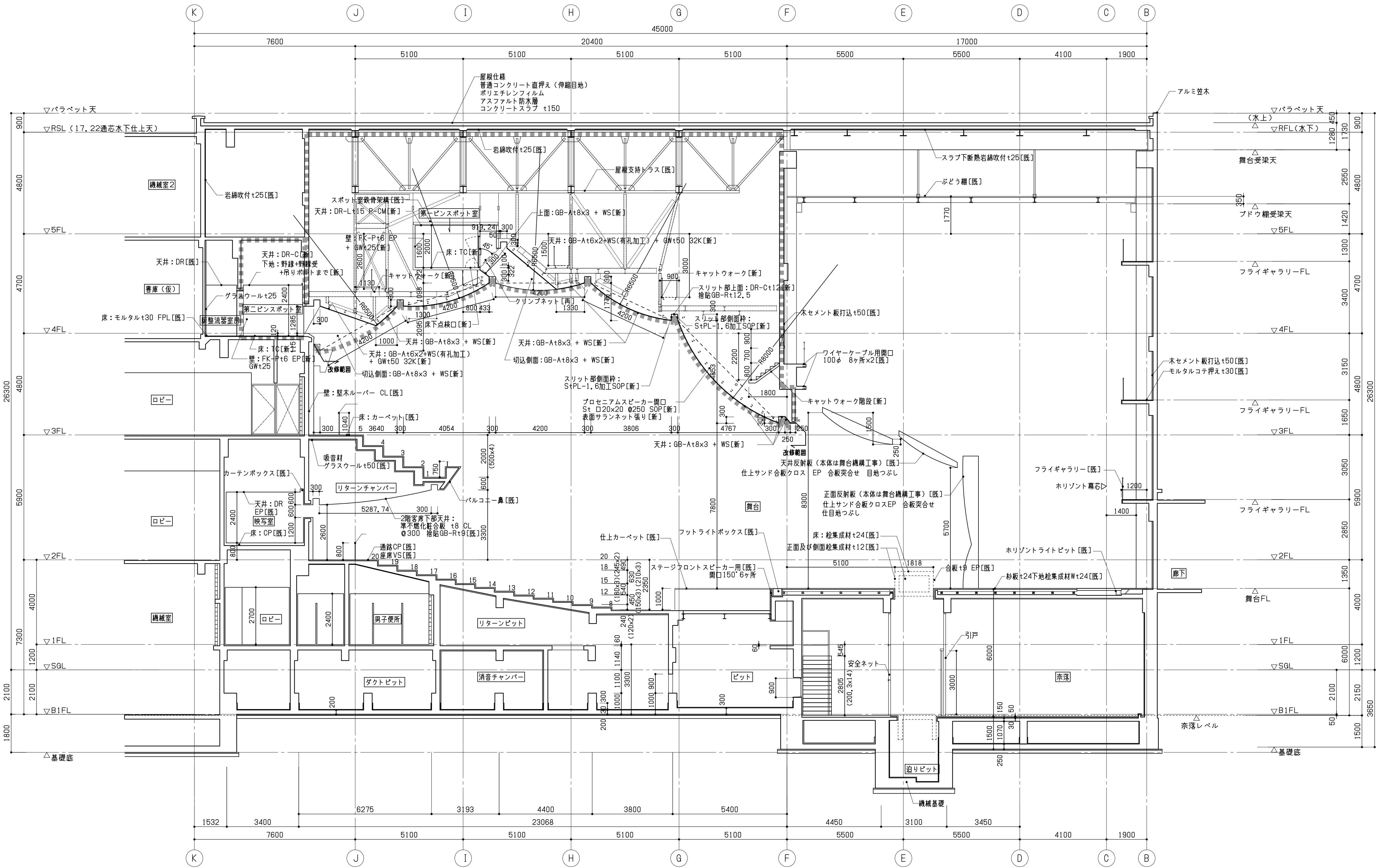


凡例（天井新設に伴い新設）

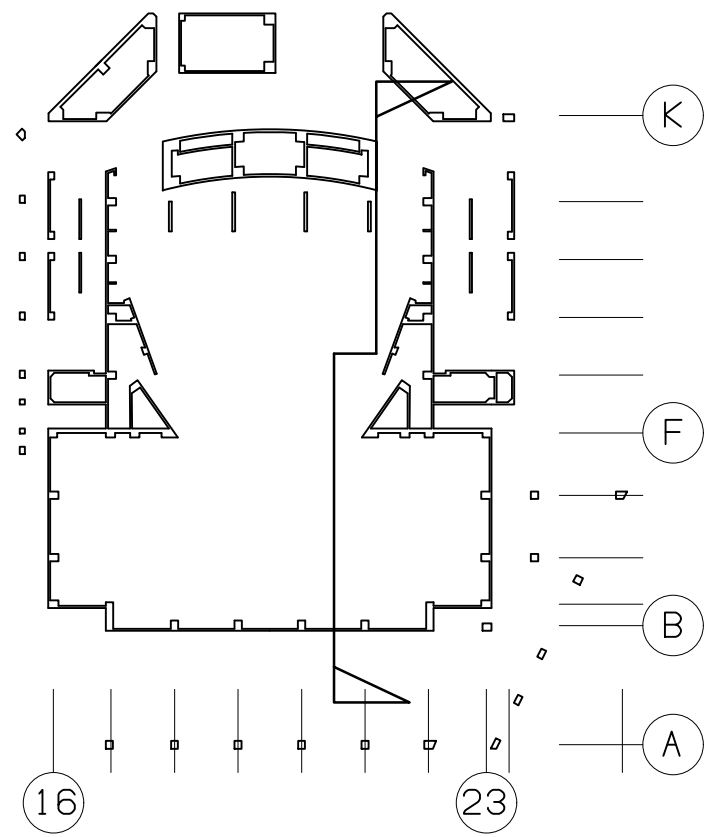
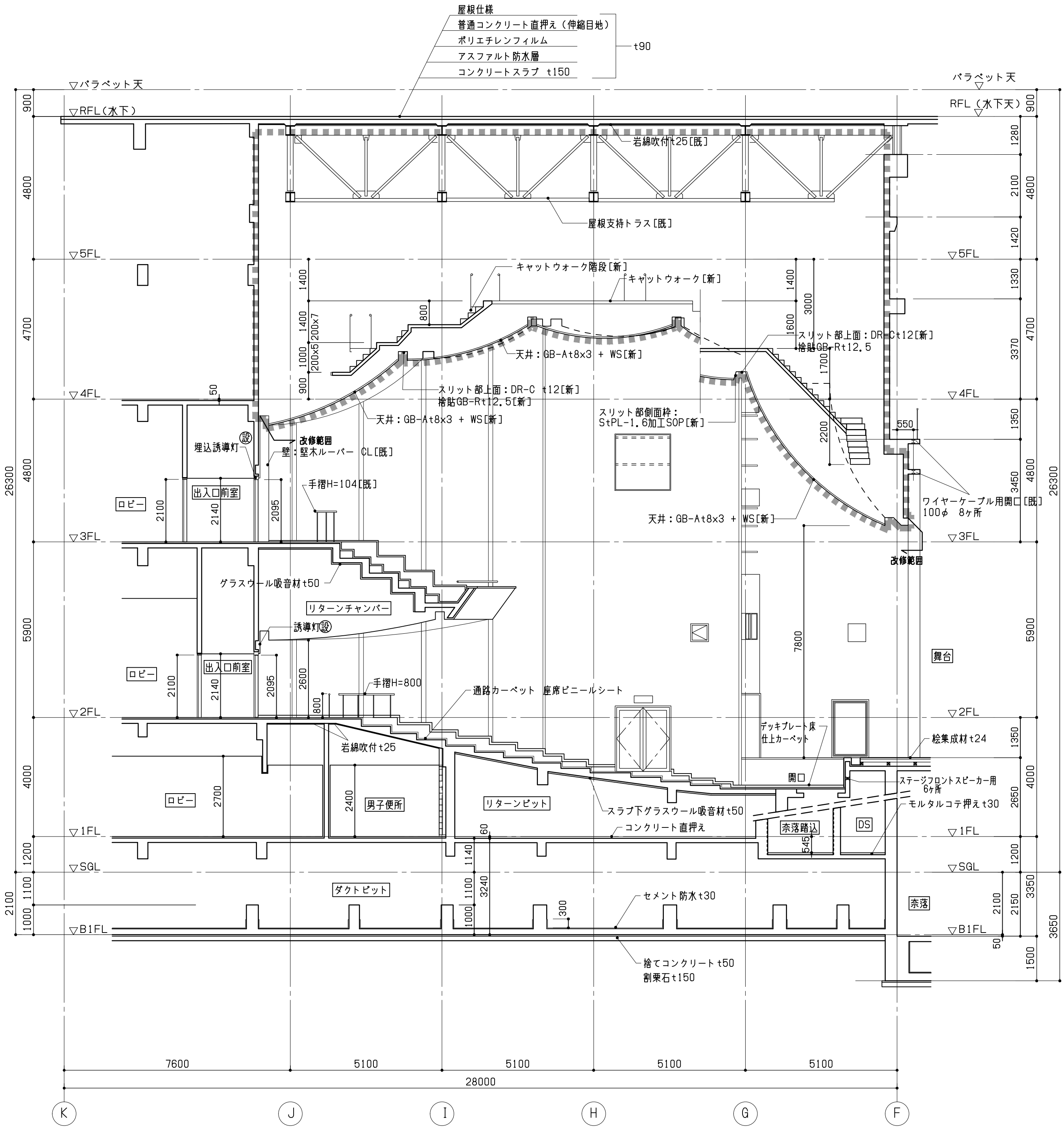
○	ダウンライト：φ220	⊙	空調制気口（アネモ）： ① φ540, ② φ440
□○	蛍光灯（天井埋込）：1200x300	⊠	空調制気口（VHS,HS）： a 700x550, b 600x500, c 550x450, d 550x450, e 550x300, f 550x250, g 500x400, h 500x250, i 250x150, j 200x200
●	非常用照明：φ100	—	空調制気口（h-57w）：1000x150
⊞	煙感知器：φ100	⊕	スプリンクラーヘッド：φ60
⊙	スピーカー：φ100	■	排煙口
□	監視カメラ	▽	点検口（φ600）

○ 天井裏平面図のレベルは4FLを基準とする

整理番号	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事 第二ホール客席天井内天井伏図 (改修図)	A1:1/100 A3:1/200	A-050
A 8 - 04		鹿児島市建設局建築部建築課		



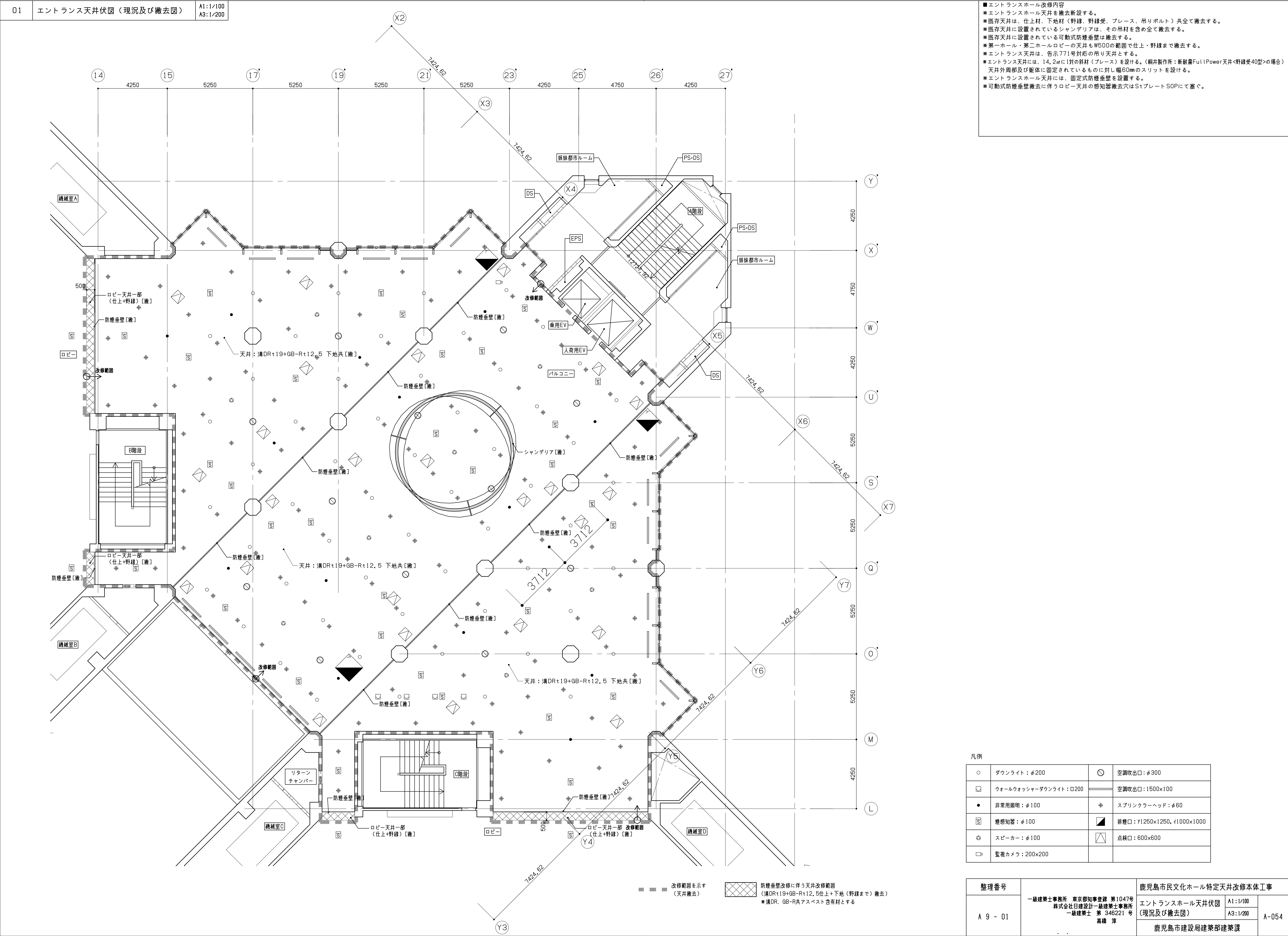
KEYPLAN



KEYPLAN

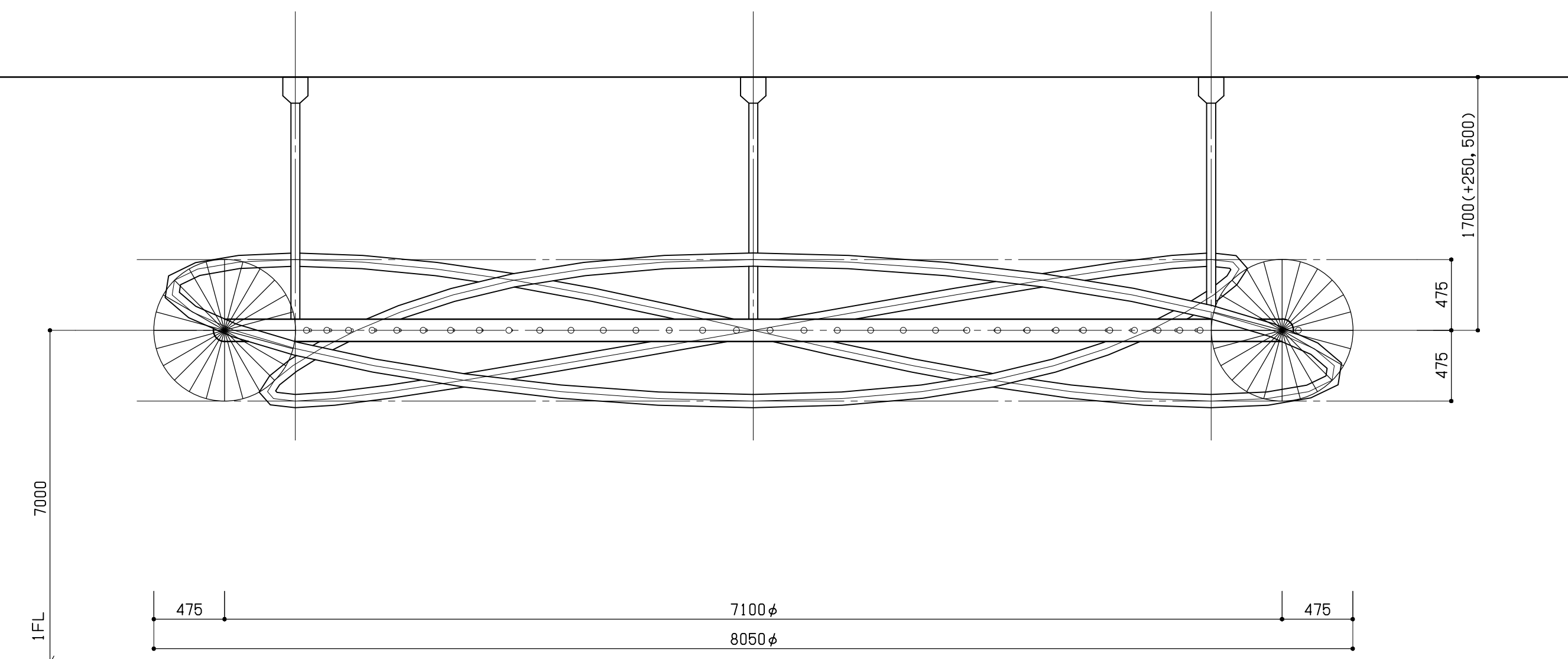


整理番号 A 8 - 07	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第346221号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
		第二ホール客席横断面図 (改修図)	A1:1/100 A3:1/200	A-053
		鹿児島市建設局建築部建築課		

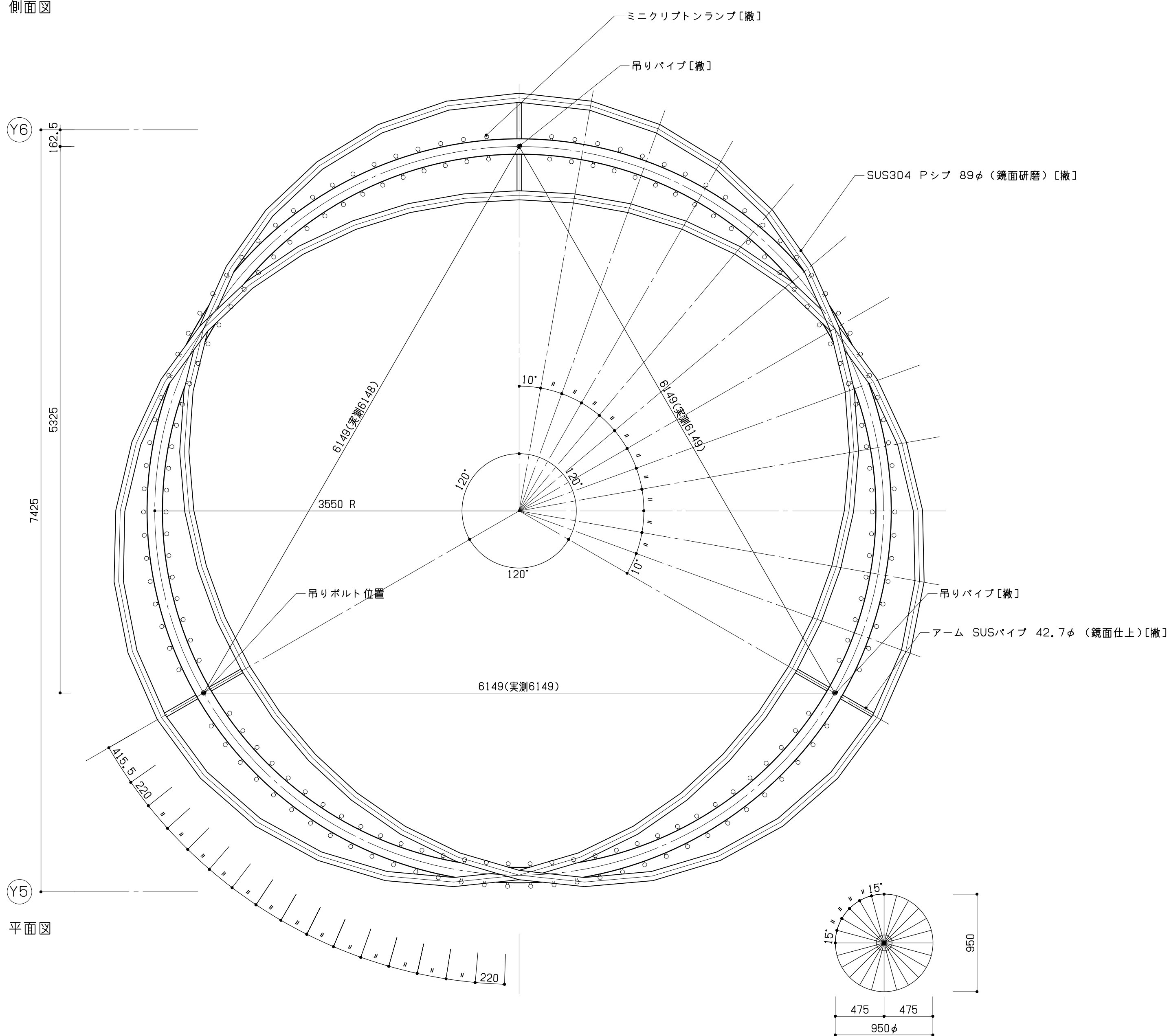


○	ダウンライト：φ200	⊙	空調吹出口：φ300
☑	ウォールウォッシャーダウンライト：□200	▬	空調吹出口：1500×100
●	非常用照明：φ100	⊕	スプリンクラーヘッド：φ60
⊠	煙感知器：φ100	▴	排煙口：71250×1250，1000×1000
⊗	スピーカー：φ100	▱	点検口：600×600
□	監視カメラ：200×200		

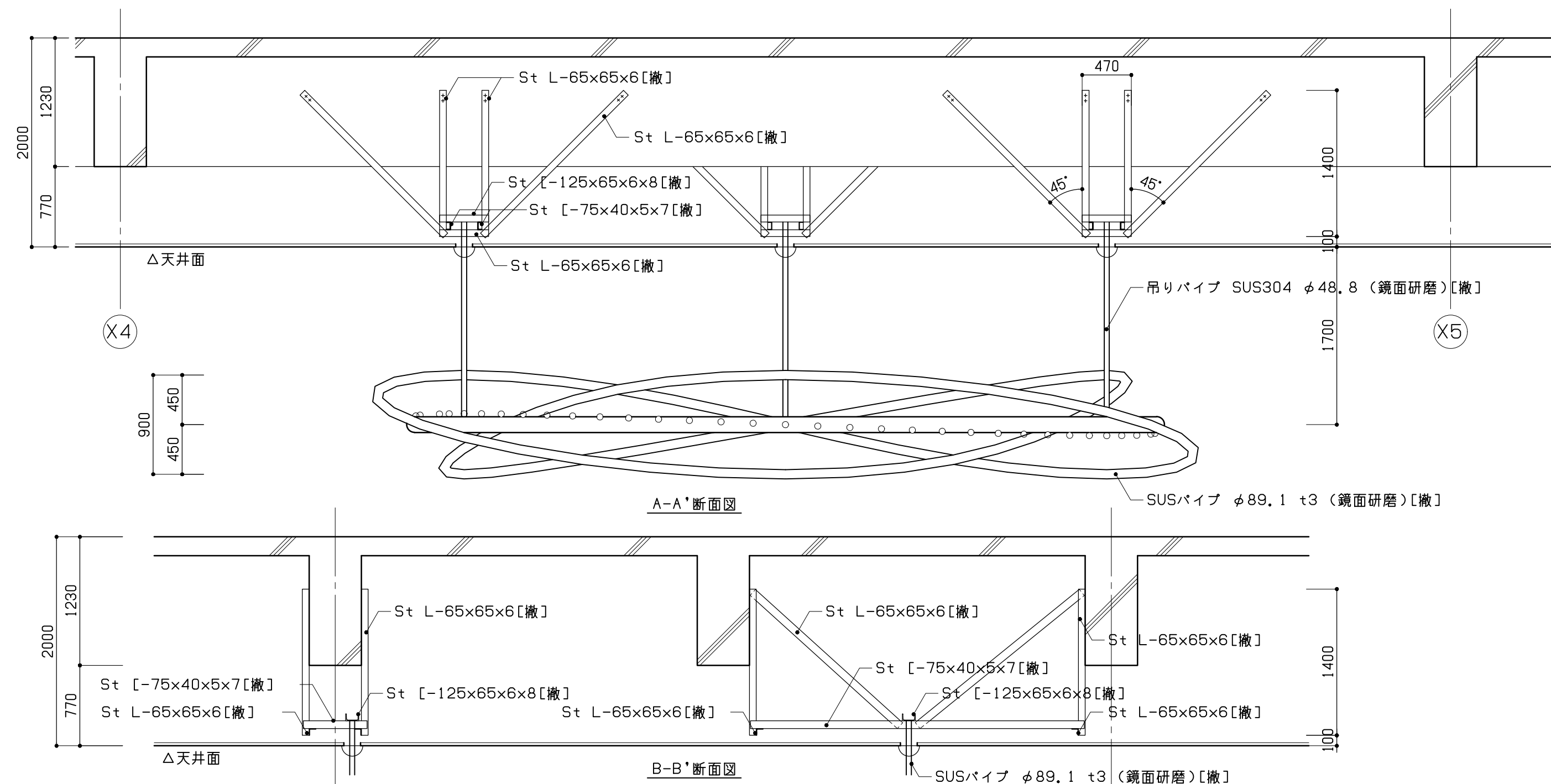
整理番号	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事	
A 9 - 01	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	エントランスホール天井伏図 （現況及び撤去図） A1:1/100 A3:1/200
	鹿児島市建設局建築部建築課	A-054



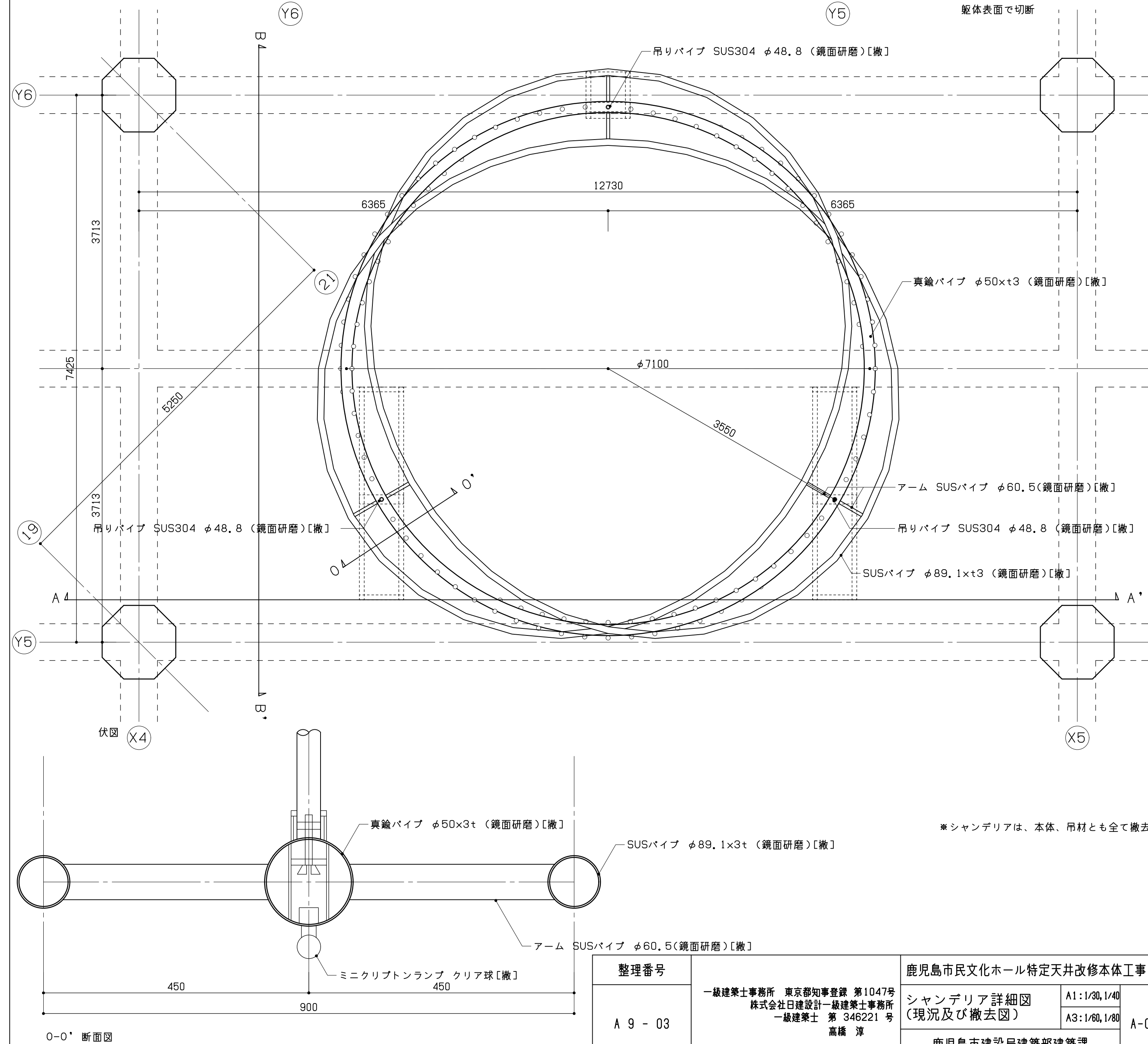
側面図



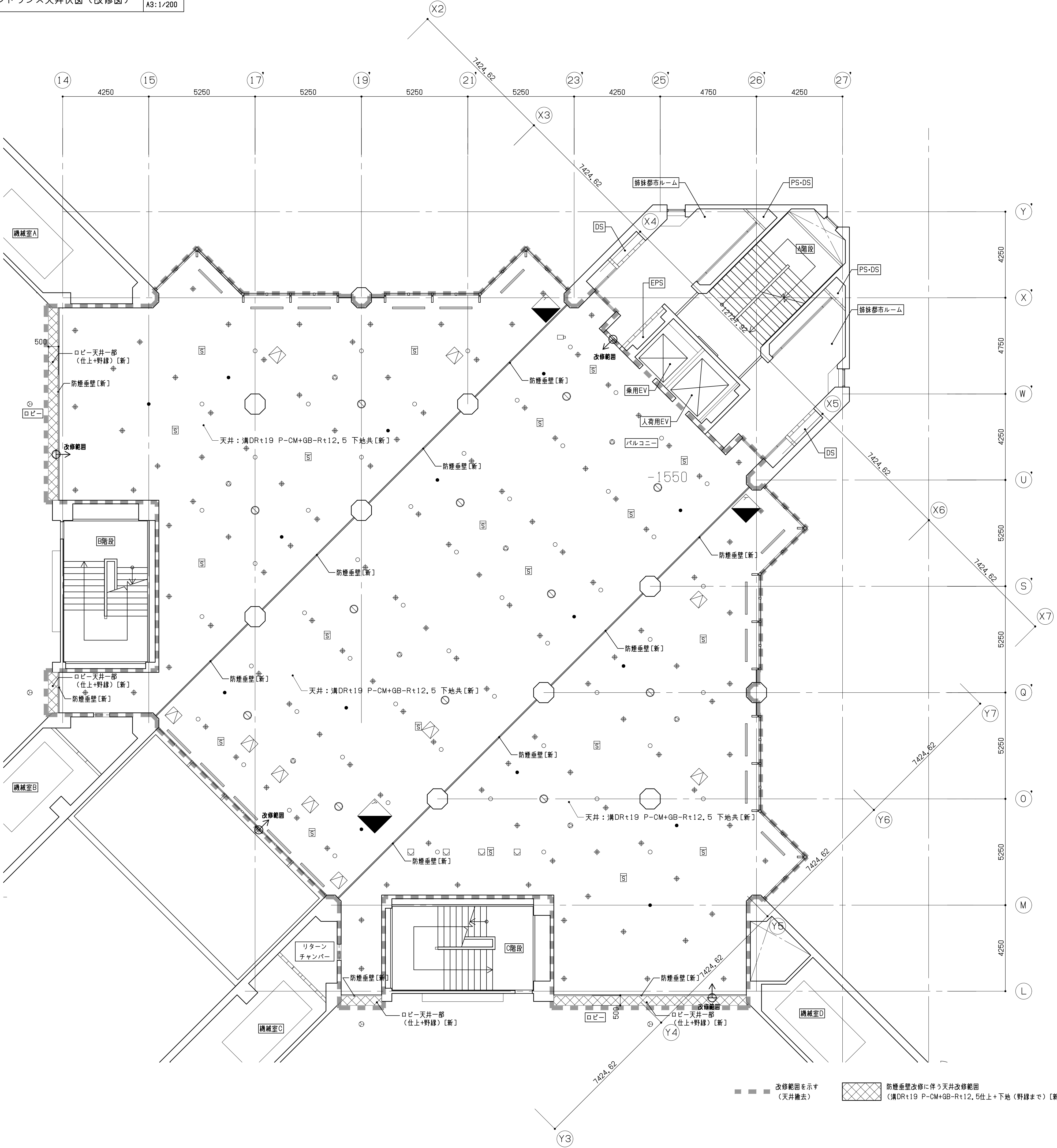
平面图



※ 既存アンカーボルトは支持鋼材撤去の後、
躯体表面で切断



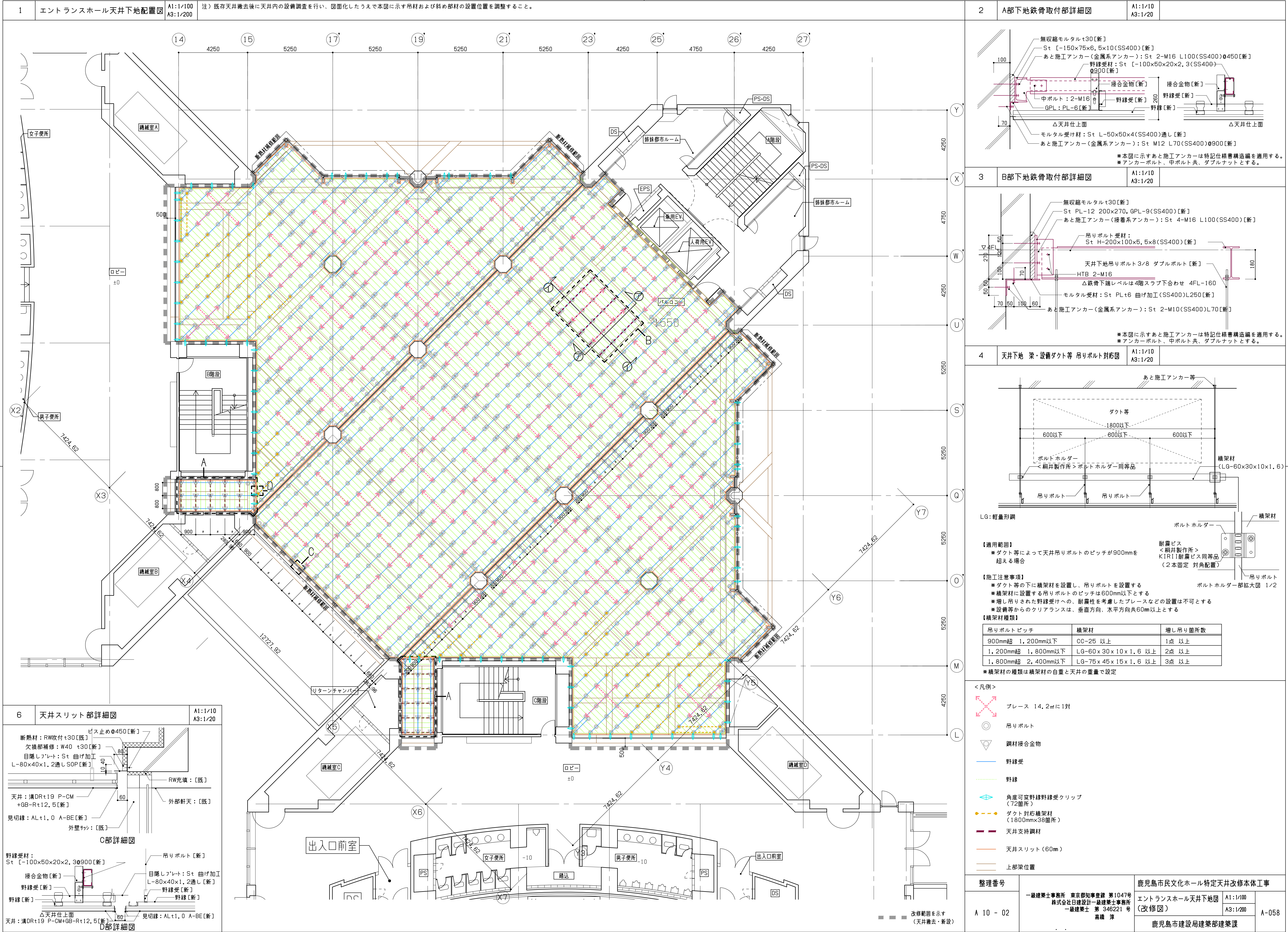
※シャンデリアは、本体、吊材とも全て撤去

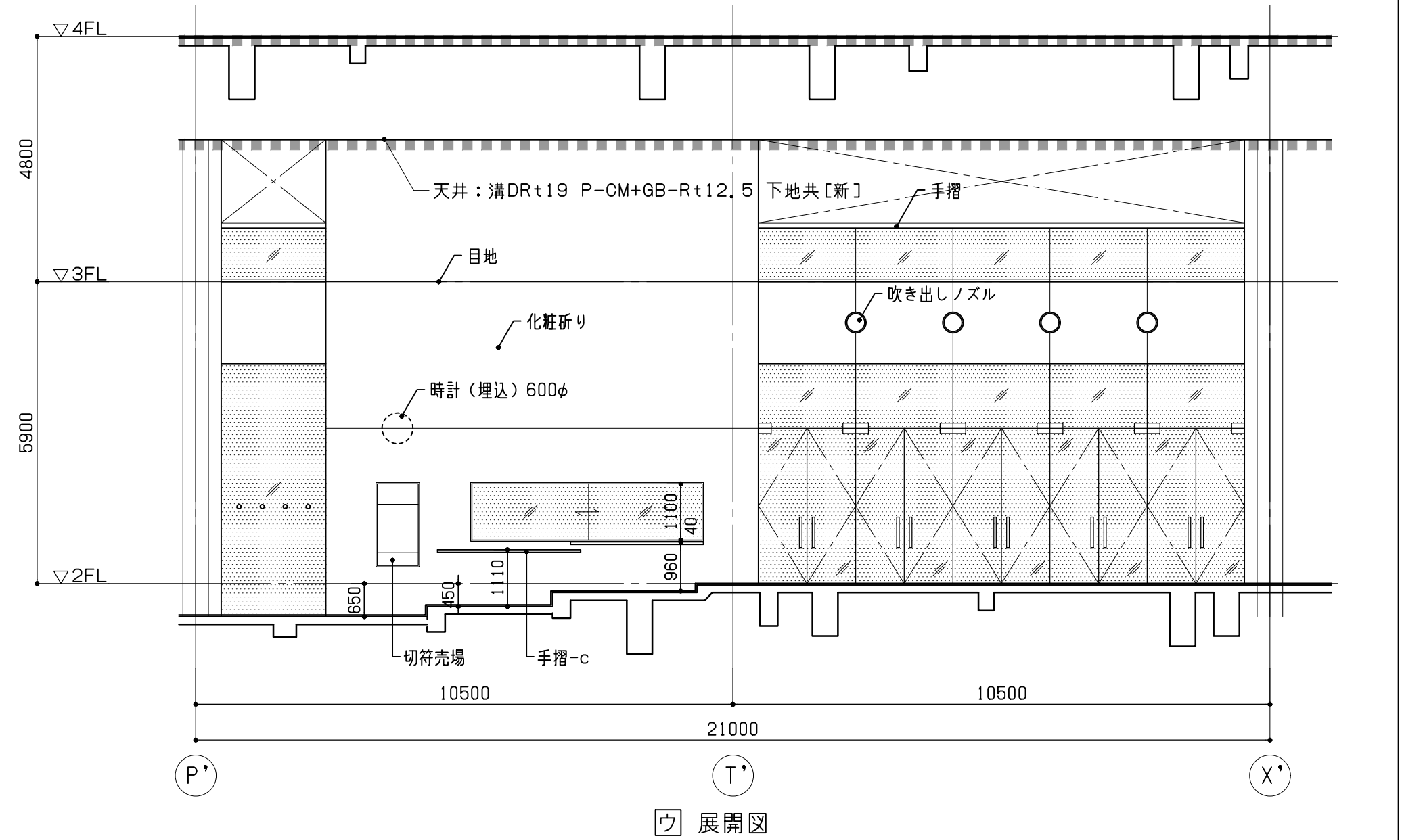
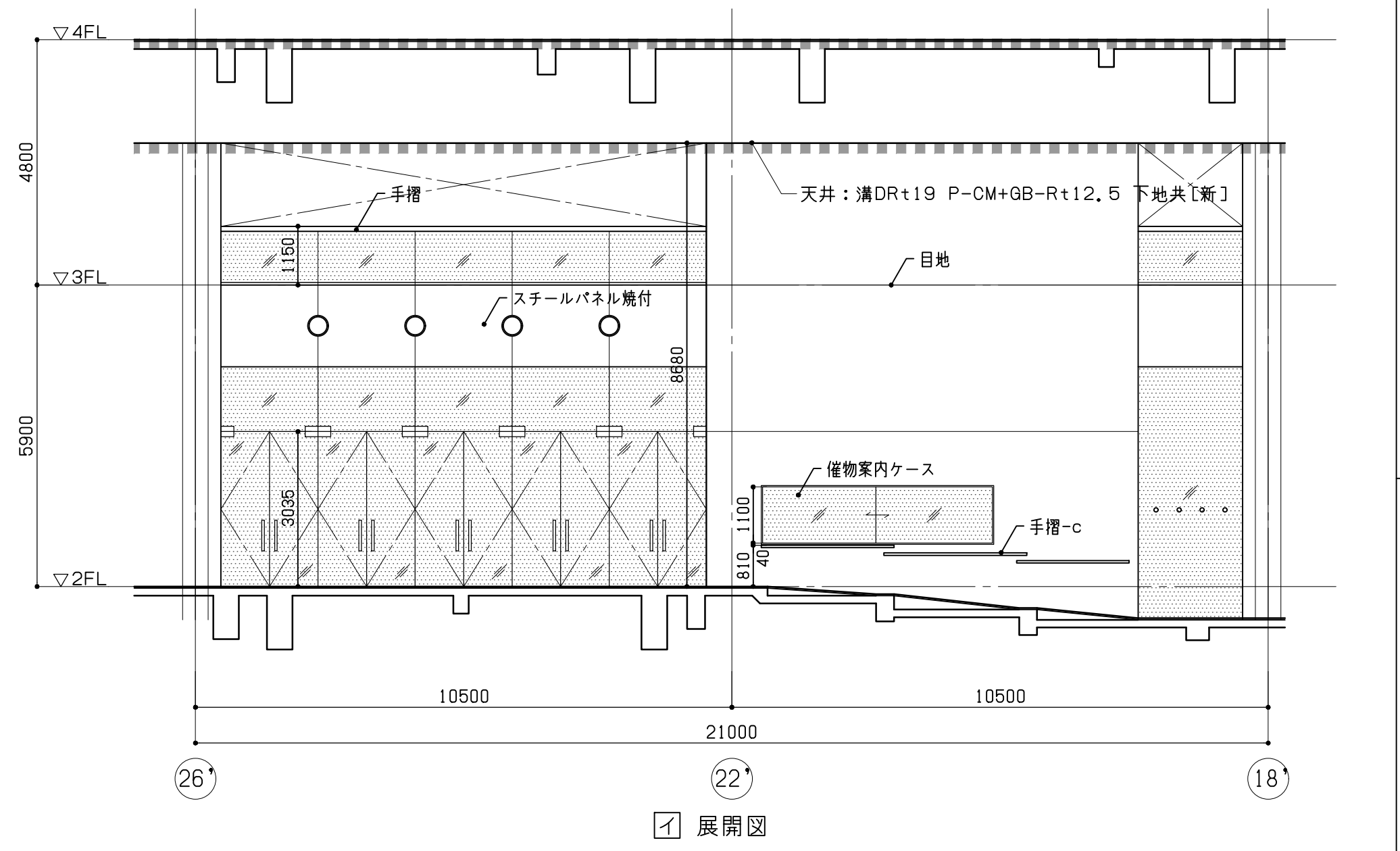
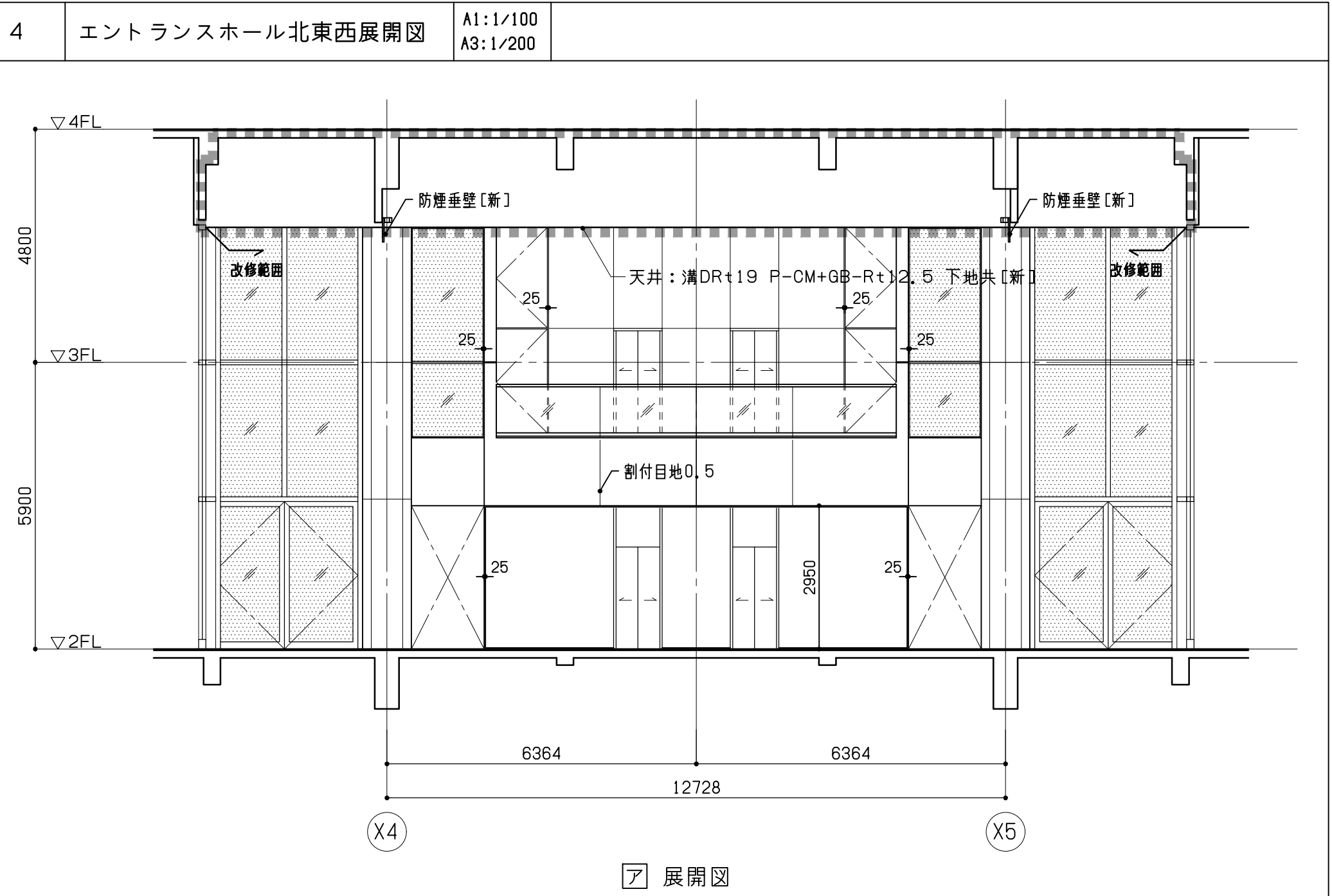
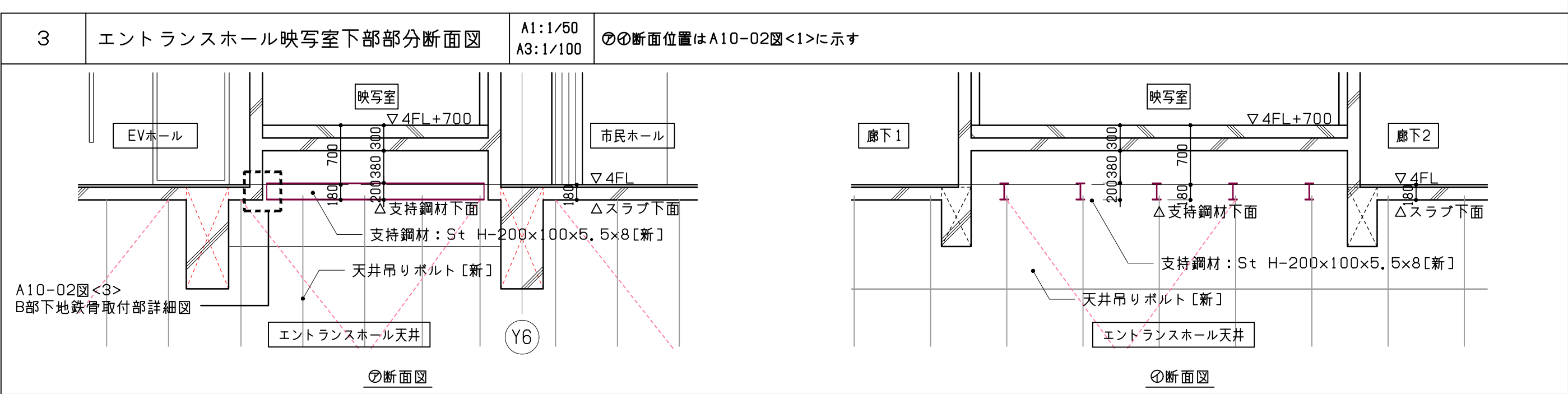
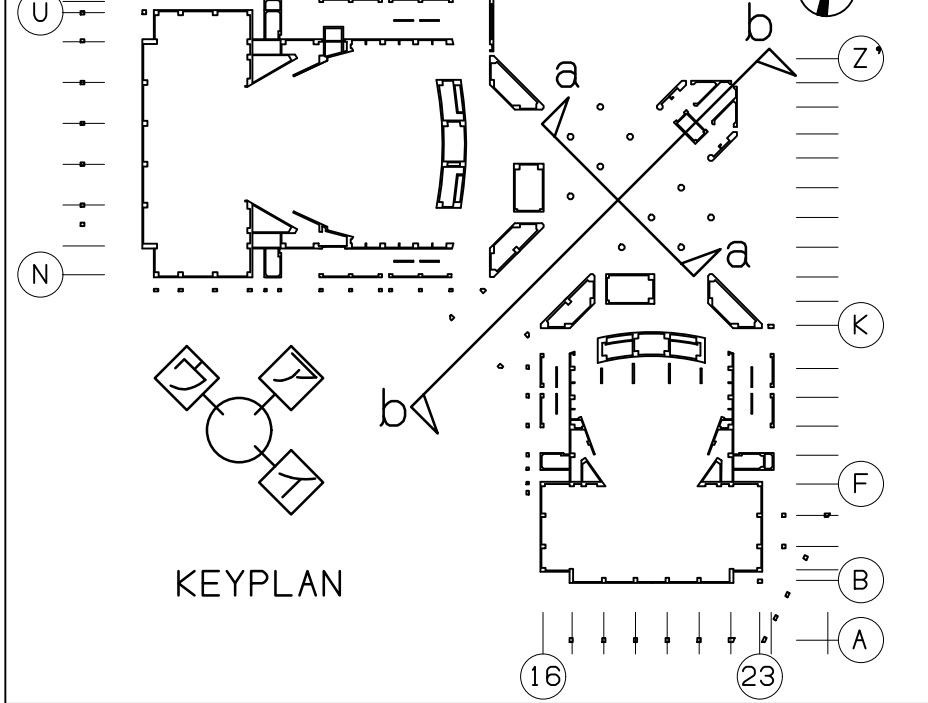
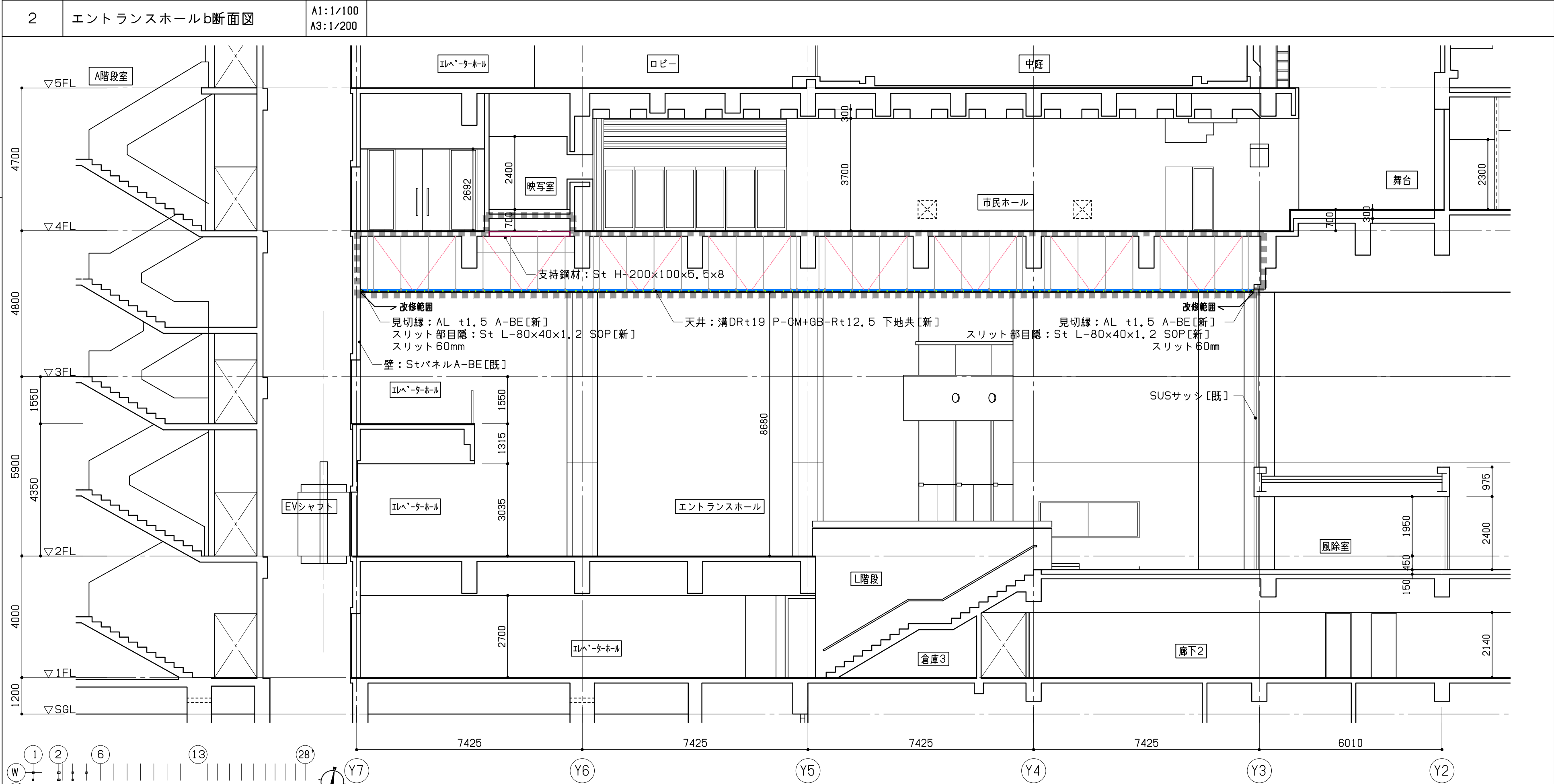
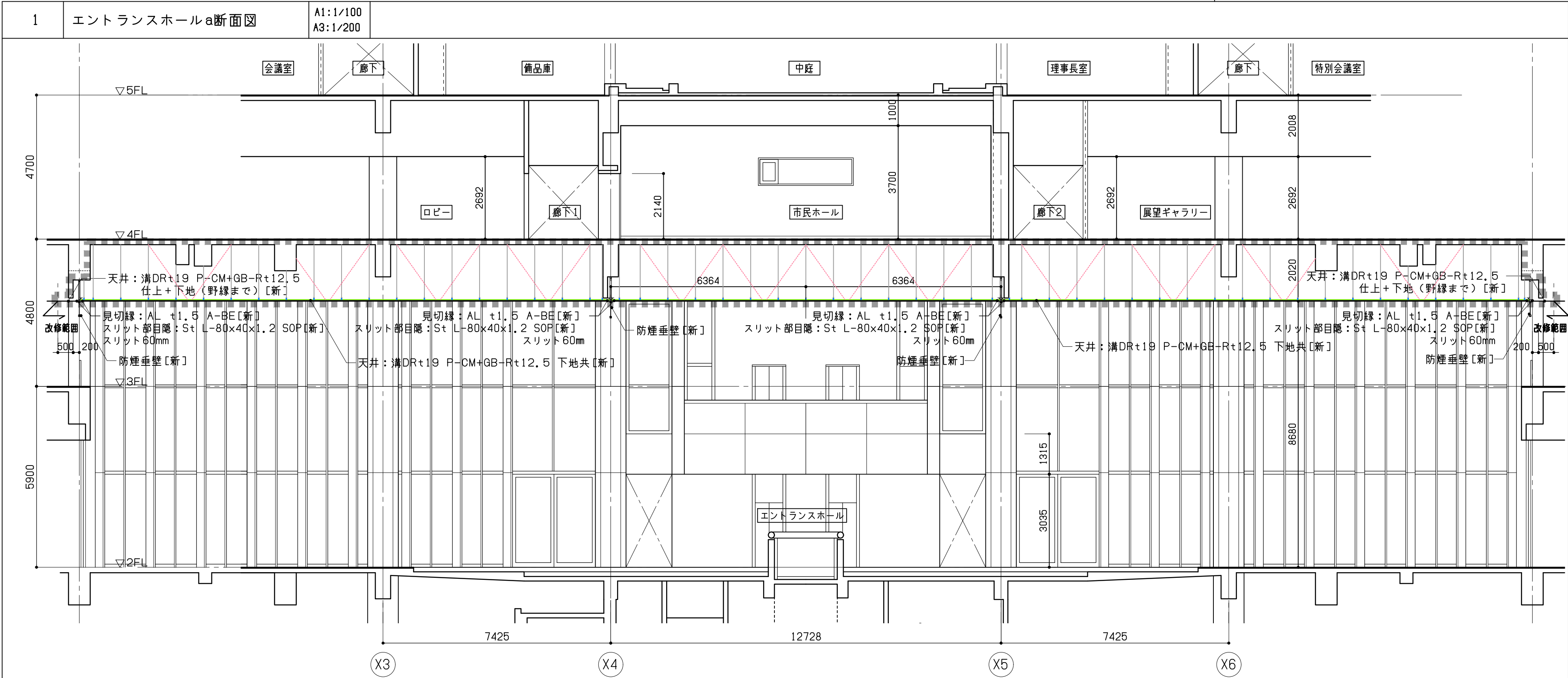


凡例

○	ダウンライト：φ200	⊙	空調吹出口：φ300
☑	ウォールウォッシャーダウンライト：□200	▬	空調吹出口：1500×100
●	非常用照明：φ100	⌘	スプリンクラーヘッド：φ60
⌘	煙感知器：φ100	▴	排煙口：71250×1250, 11000×1000
⊙	スピーカー：φ100	▱	点検口：600×600
□	監視カメラ：φ150	⊗	開口差ぎプレート：φ150 St t1.2 SOP

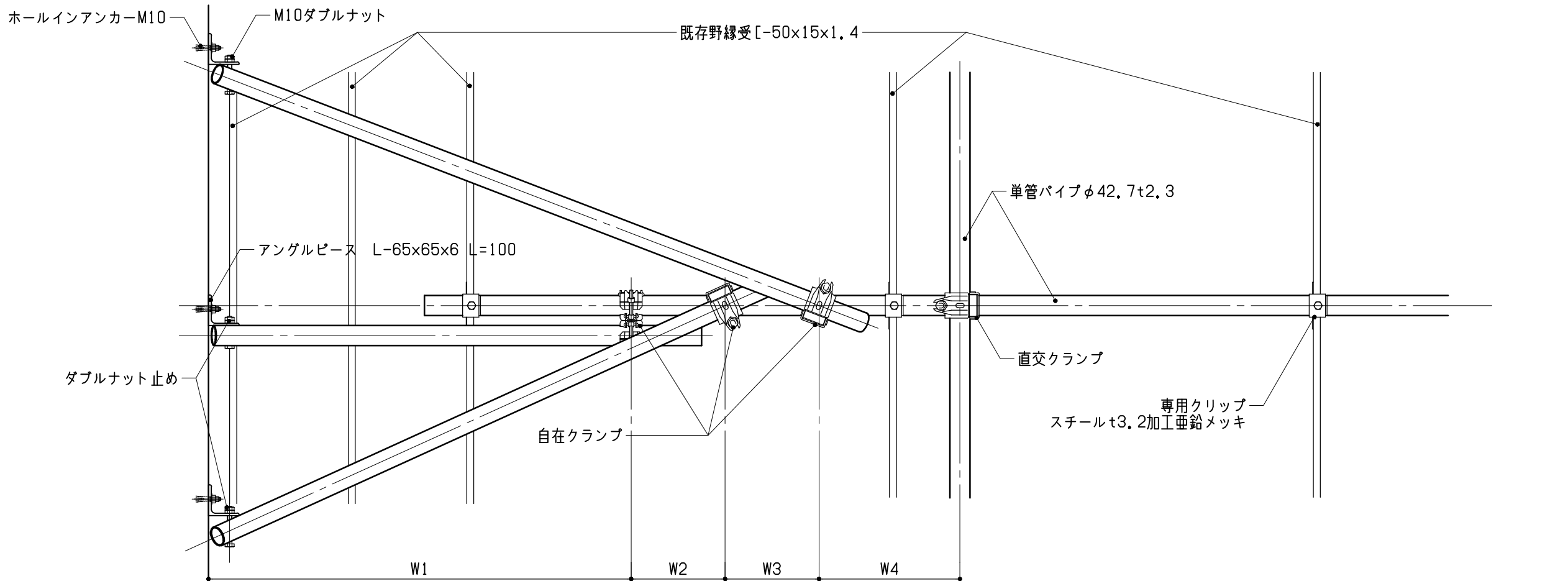
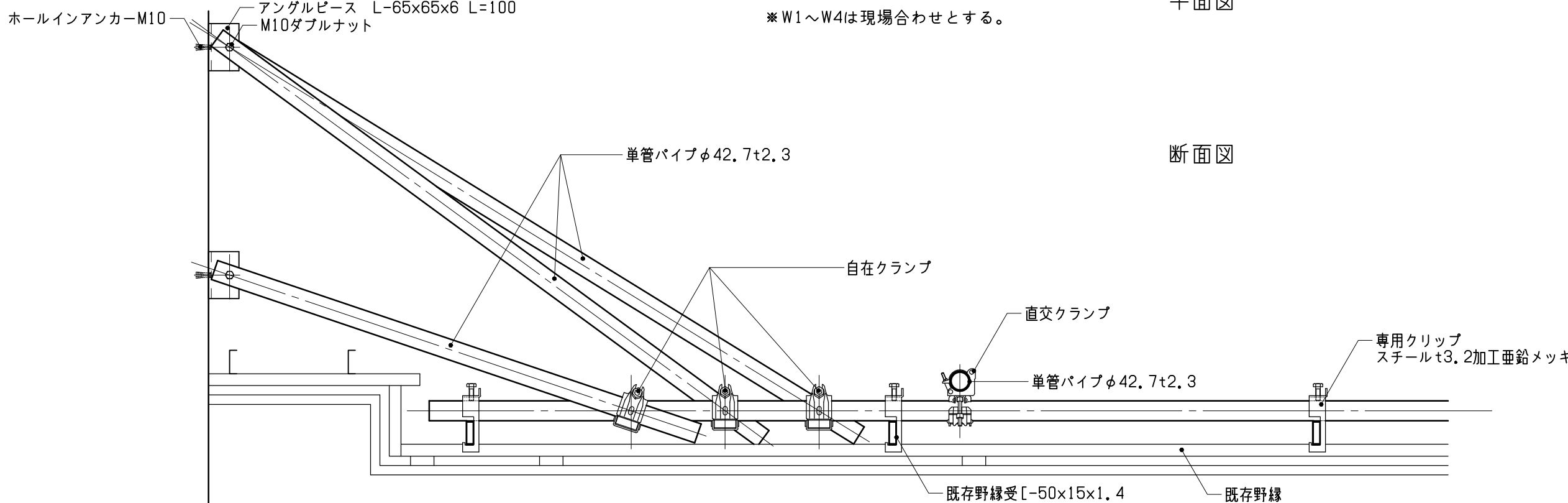
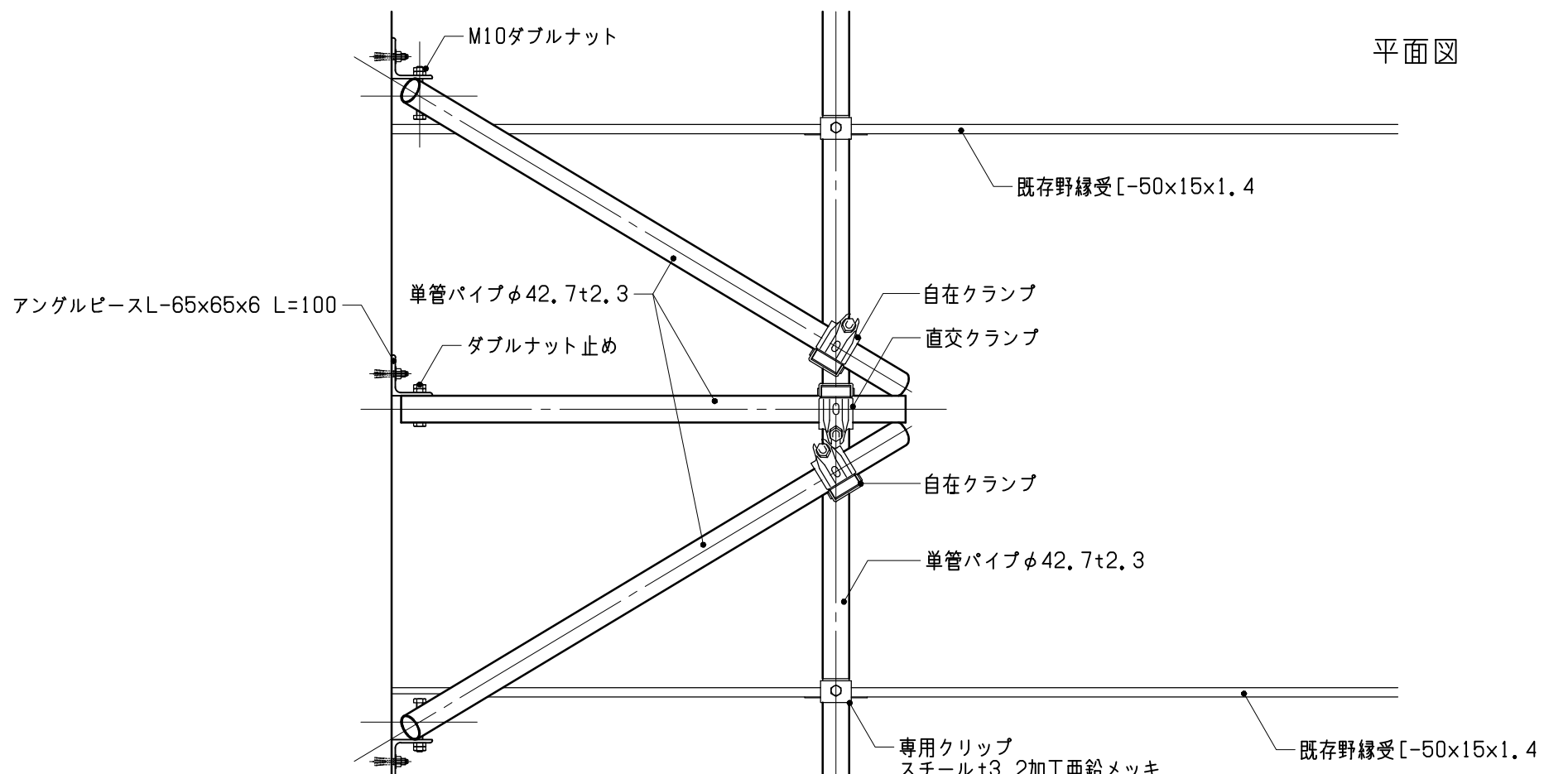
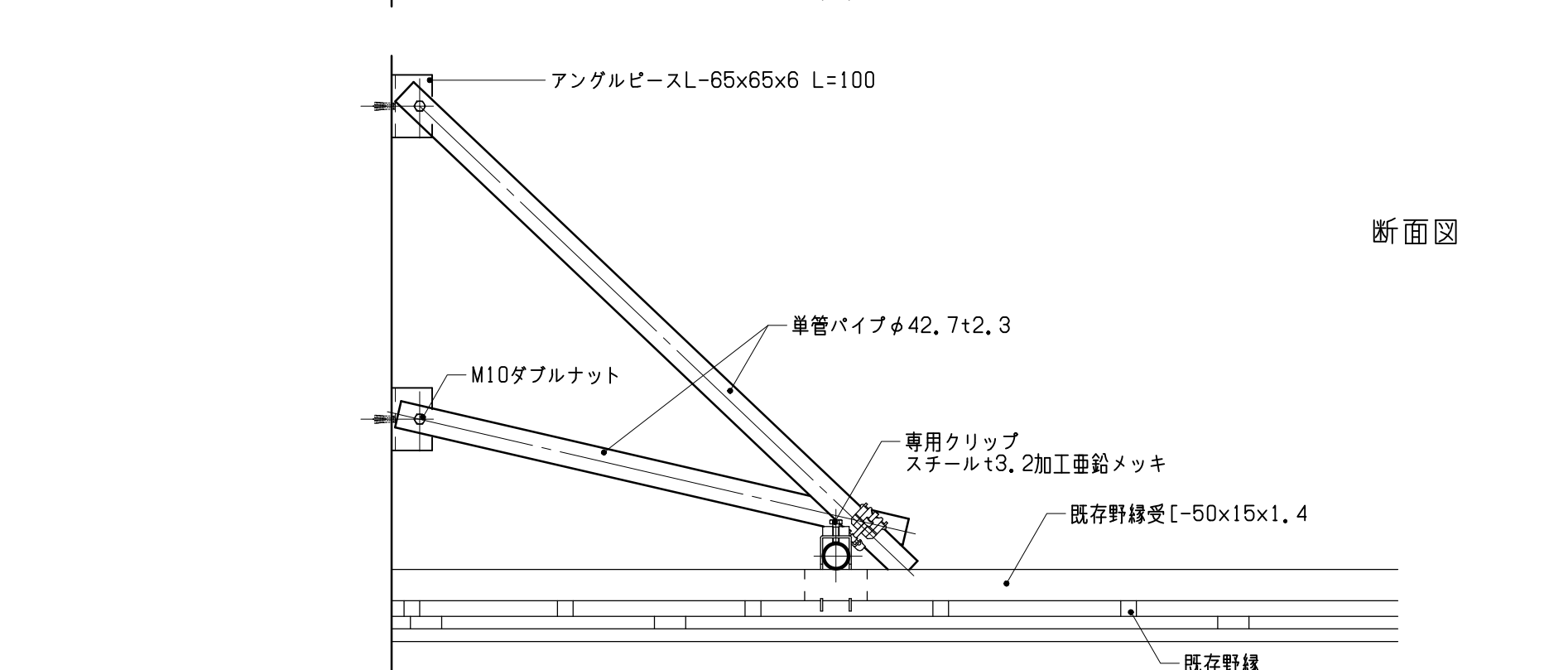
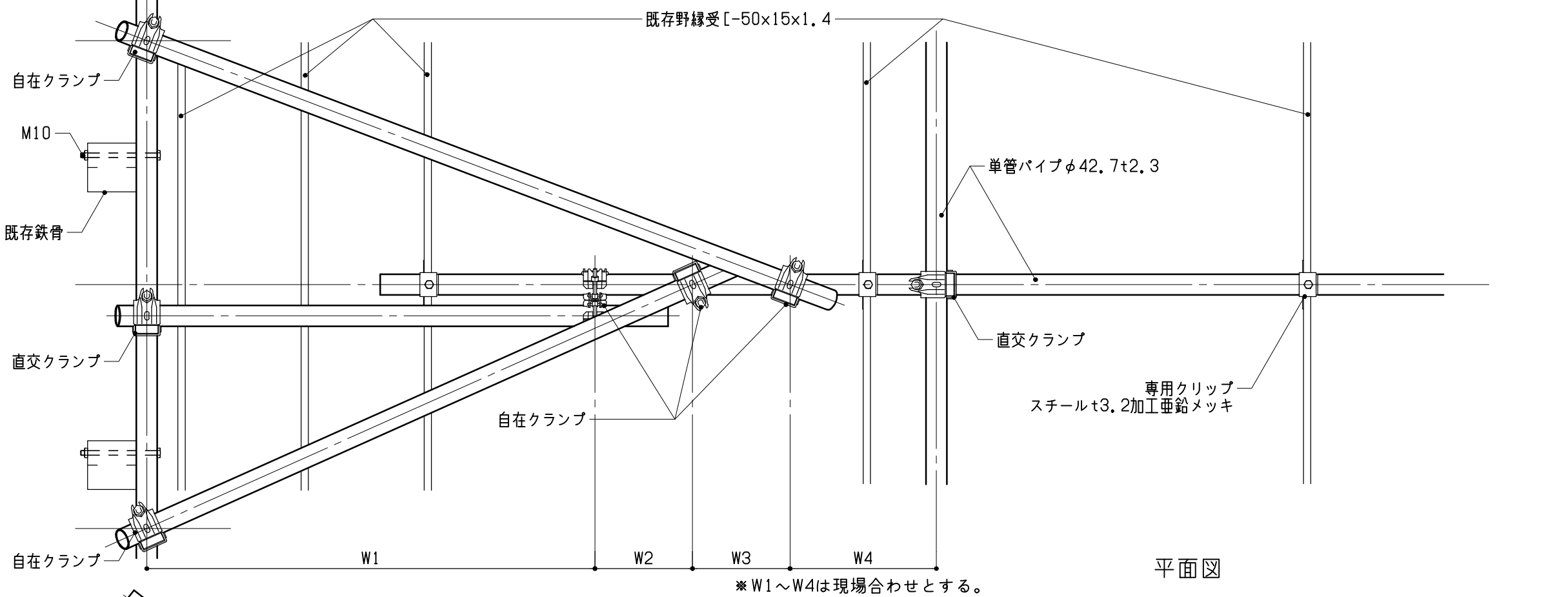
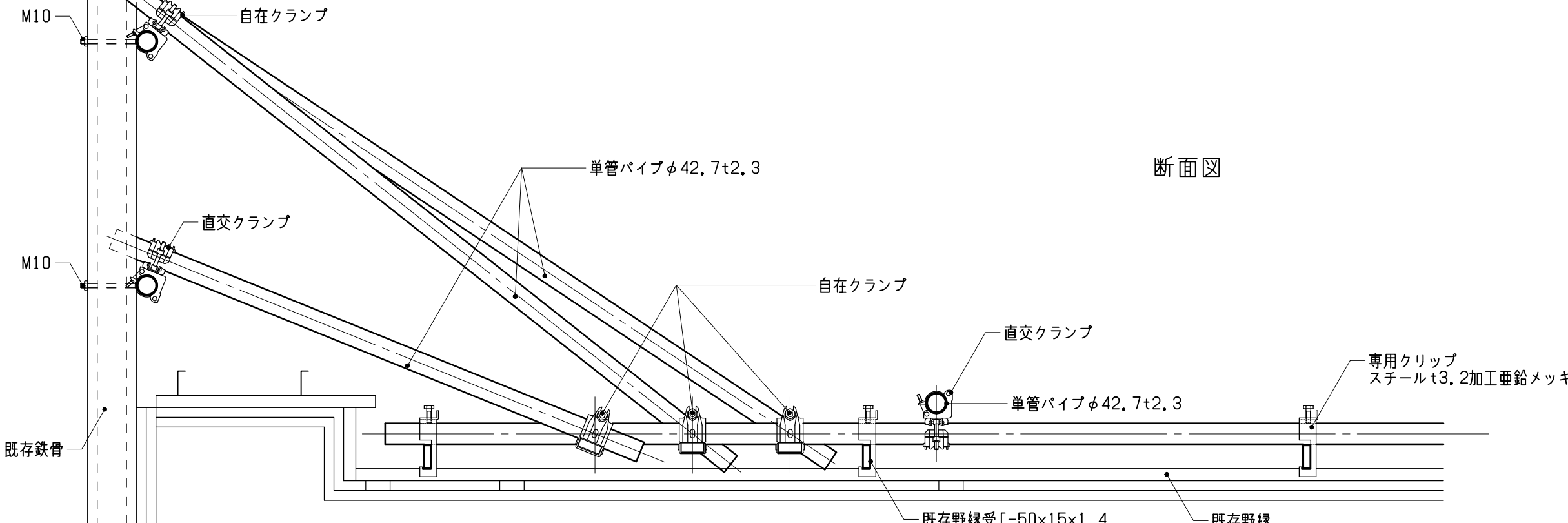
整理番号	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事	
A 10 - 01	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	エントランスホール天井伏図 (改修図)
	A1:1/100 A3:1/200	A-057
	鹿児島市建設局建築部建築課	

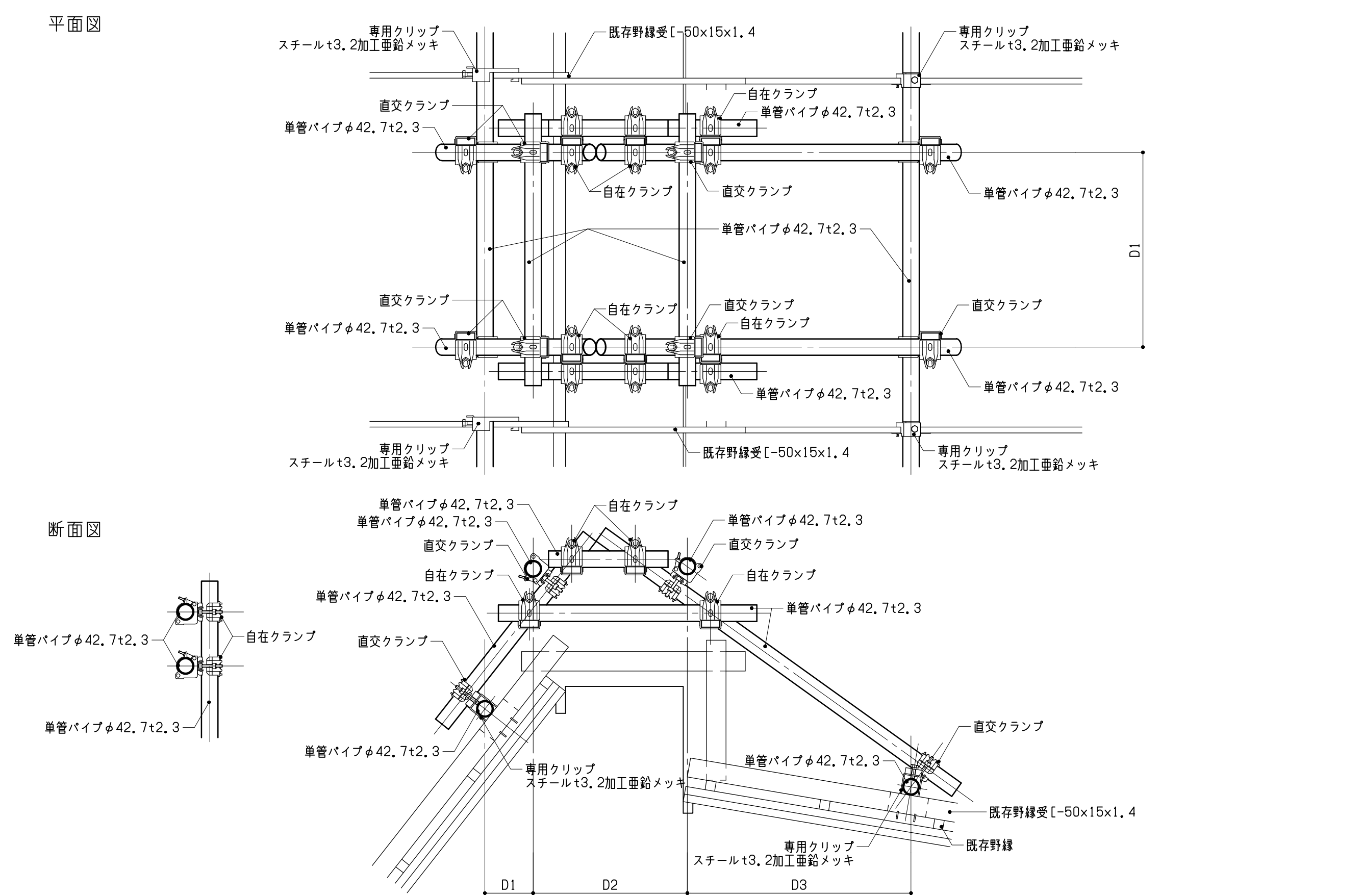
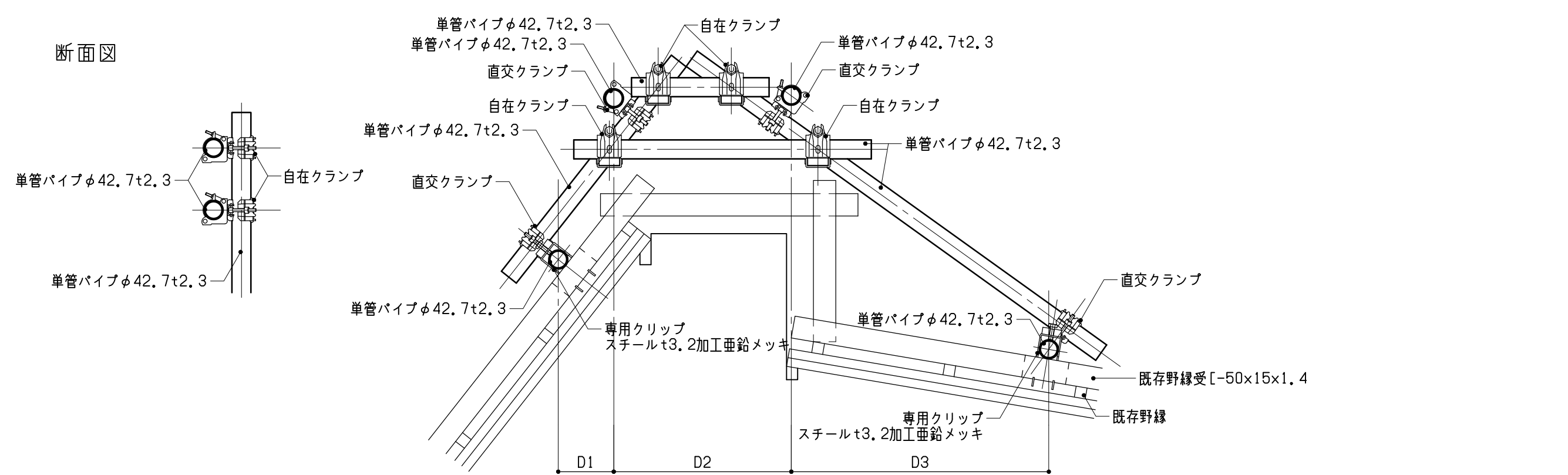
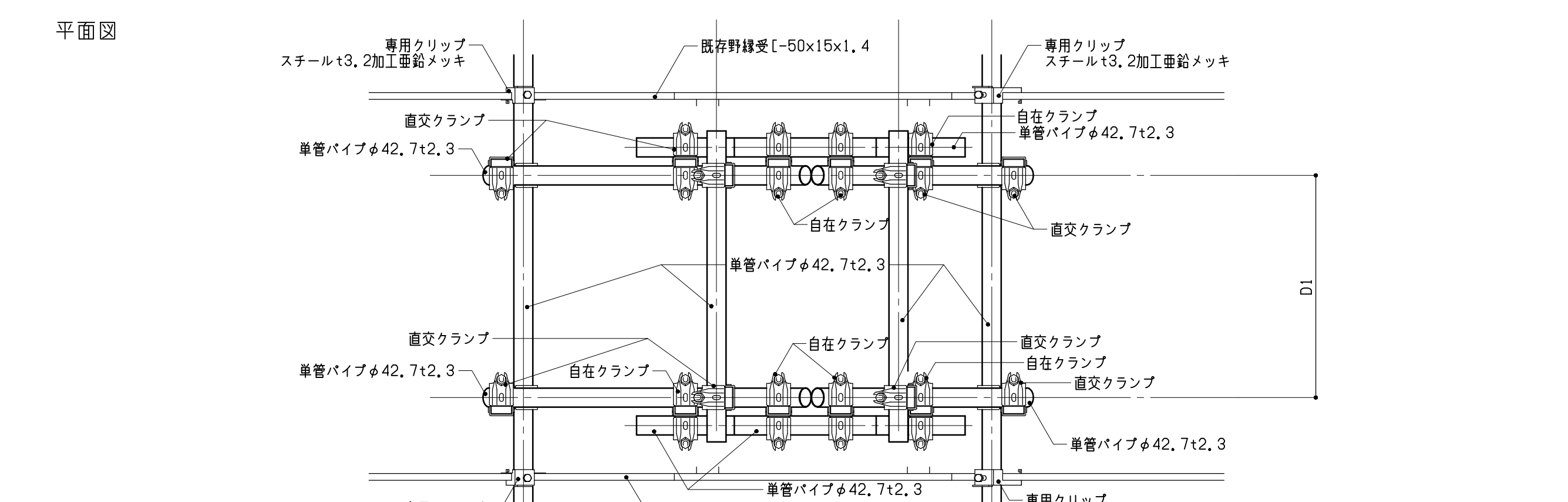
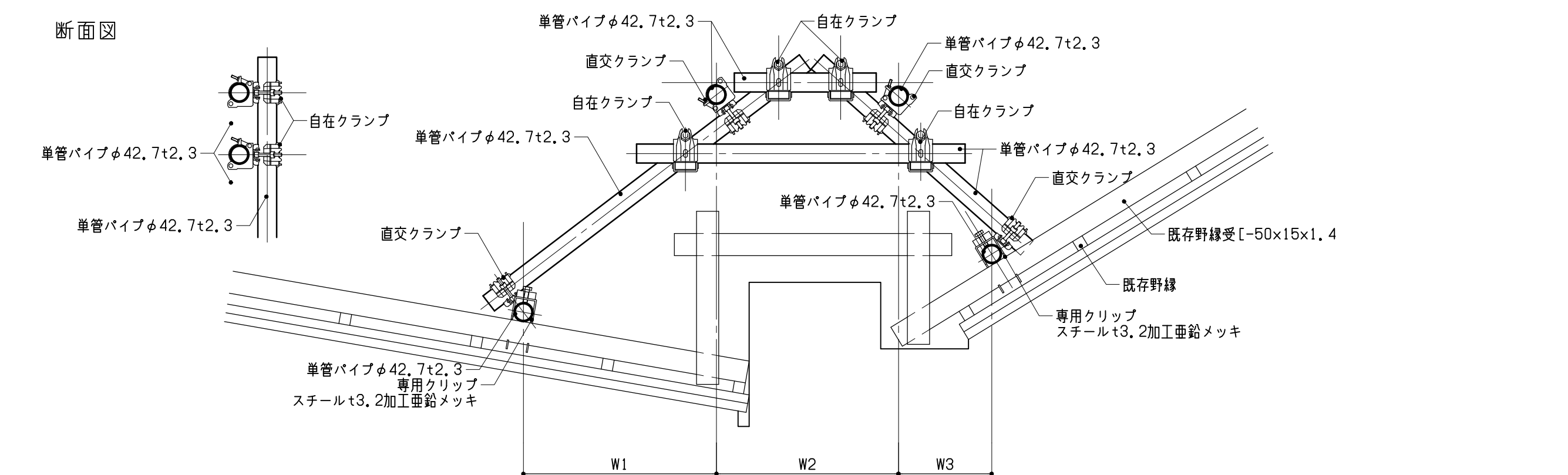
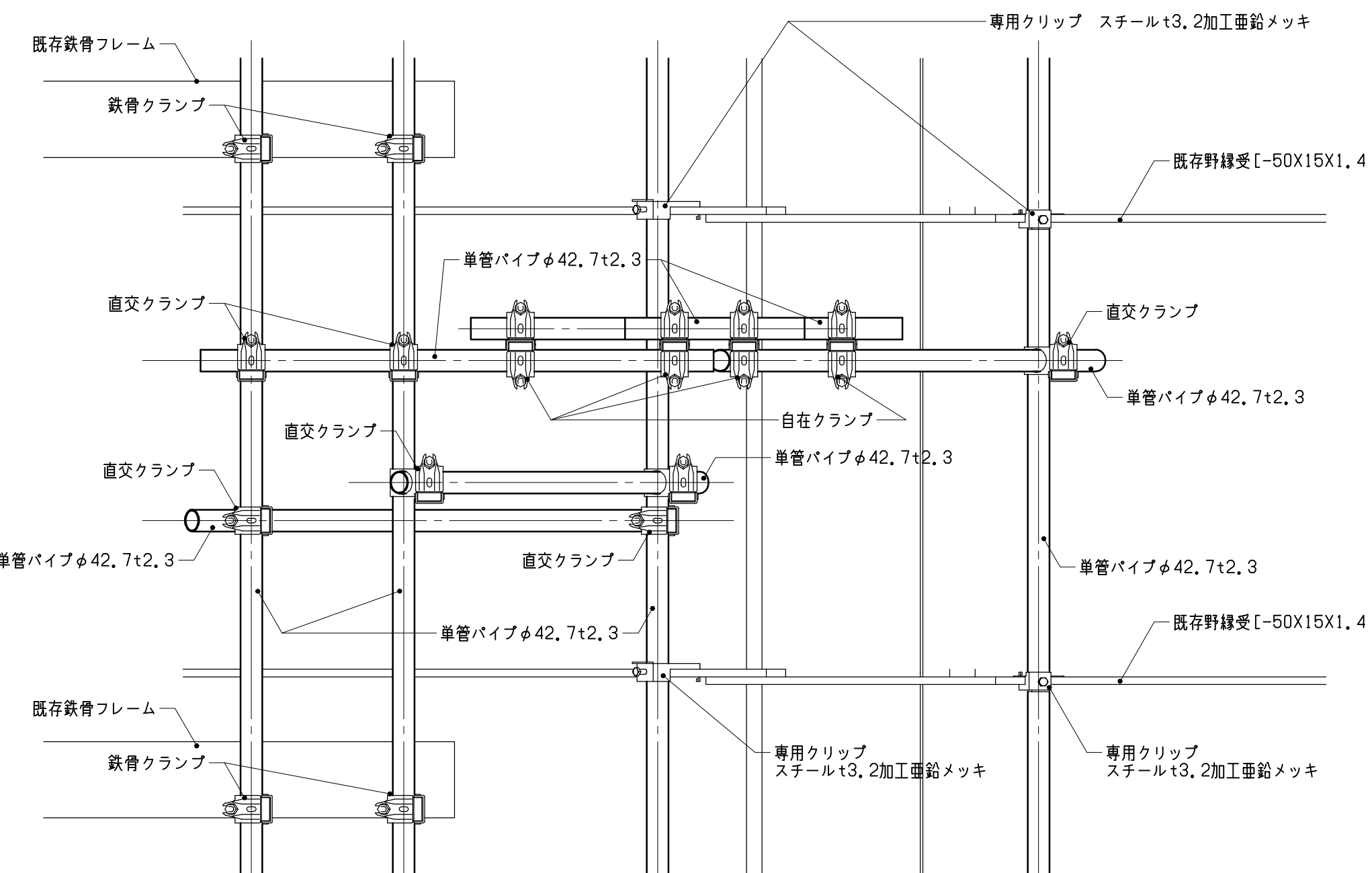




整理番号		鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事	
A 10 - 03	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	エントランスホール断面図 A1:1/100 ・展開図(改修図) A3:1/200	A-059
		鹿児島市建設局建築部建築課	

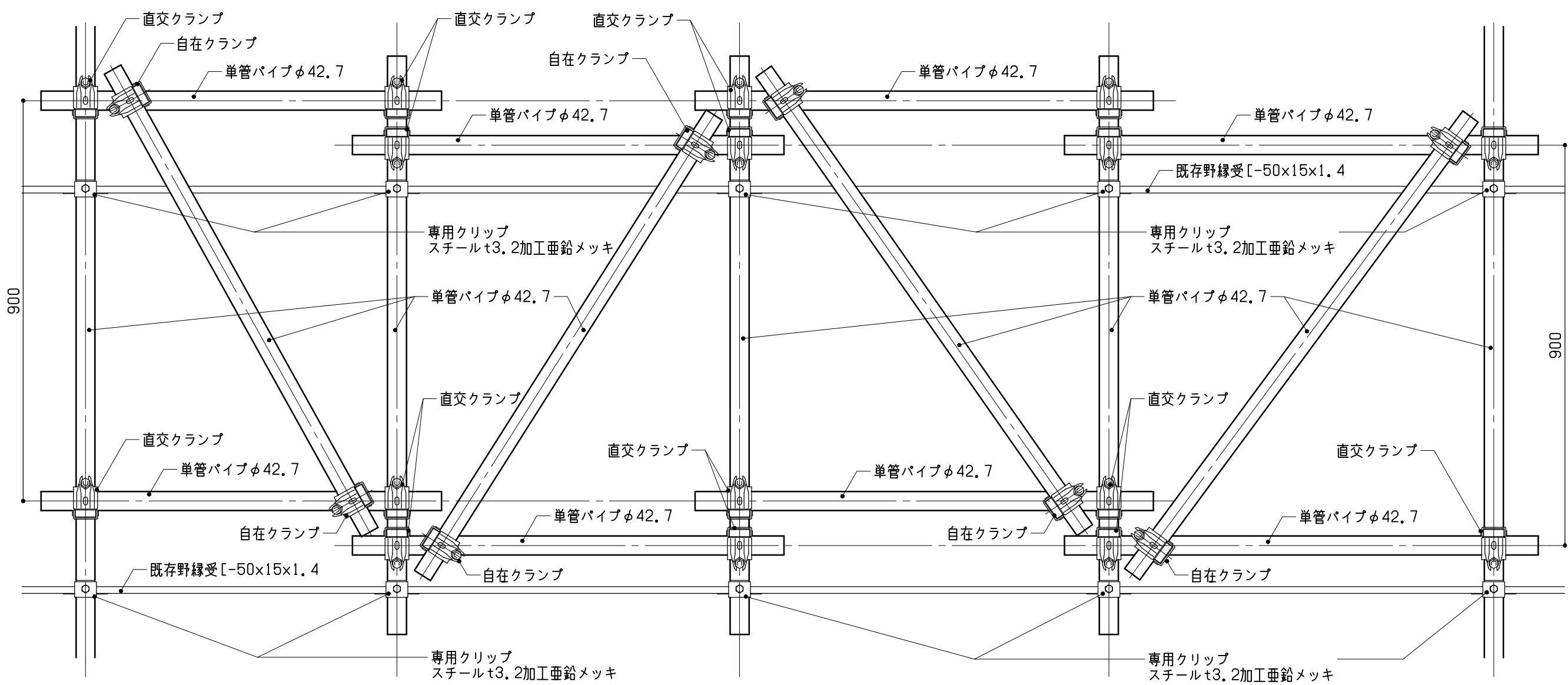
共通事項									
a.本表は建具関連の符号・標準枠納まりなどを示しているが、本表に記載のない仕様は標準仕様書・特記仕様書（5章・6章・3章・7章）を適用する。 b.トイレブース・SK戸・戸棚・カウンター戸その他これらに類する建具は別図によるものとし、本表には含まない。 c.本表に記載の符号などは、本表以外の設計図にも適用する。 d.建具表備考欄に「防」「特」「不」とあるのは、防火設備・特定防火設備・不燃建具を示し、開き戸はノンストップクローザー、埋込み戸は煙感知器連動閉鎖装置付きとする。 e.建具表にない建具（家具に付属する建具などは、平面詳細図・展開図・部分詳細図による。 f.表中、※印を付した事項を適用する。・印を○にした場合は、○印を優先して適用する。 g.●○印とした場合は、両方を適用する。 h.建具金物は、建具の大きさ・重量に適した品番を選定する。									
既存		新規		図面表示(平面図の記載例)					
窓枠三方枠の改修工法・かぶせ工法		窓枠三方枠の改修工法・かぶせ工法		窓枠三方枠の改修工法・かぶせ工法					
撤去・改修の区分 ■：撤去建具 改：改修建具		撤去・改修の区分 ■：撤去建具 改：改修建具		撤去・改修の区分 ■：撤去建具 改：改修建具					
建具の種類と符号		建具の種類と符号		建具の種類と符号					
符 号	種 類	符 号	種 類	符 号	種 類	符 号	種 類	符 号	種 類
AD	アルミニウム製戸	SSW	ステンレス製窓	OHD-S	鋼製オーバーヘッドドア	AD	アルミニウム製戸	SSW	ステンレス製窓
(SD)	鋼製戸	1W	強化ガラス窓	OHD-A	アルミニウム製オーバーヘッドドア	(SD)	鋼製戸	1W	強化ガラス窓
SD-S	標準型钢製戸	WW	窓用網戸	OHD-F	ファイバークラス製オーバーヘッドドア	SD-S	標準型钢製戸	WW	窓用網戸
LD	鋼製軽量戸	WW	木製窓	AG	アルミニウム製ガラリ	LD	鋼製軽量戸	WW	木製窓
LD-S	標準型钢製軽量戸	H	ふすま	SG	鋼製ガラリ	LD-S	標準型钢製軽量戸	H	ふすま
SSD	ステンレス製戸	P	紙張り障子	SSG	ステンレス製ガラリ	SSD	ステンレス製戸	P	紙張り障子
TD	強化ガラス戸	SS	鋼製重量シャッター	WG	木製ガラリ	TD	強化ガラス戸	SS	鋼製重量シャッター
WD	木製戸	SSS	ステンレス製重量シャッター	GSH	ガラス製防煙垂壁	WD	木製戸	SSS	ステンレス製重量シャッター
XD	鉛入り鋼製戸	LS	鋼製軽量シャッター	MSH	可動式防煙垂壁	XD	鉛入り鋼製戸	LS	鋼製軽量シャッター
AW	アルミニウム製窓	ALS	アルミニウム製軽量シャッター	SP	可動両仕切(パーティション)	AW	アルミニウム製窓	ALS	アルミニウム製軽量シャッター
(SW)	鋼製窓	LGS	ステンレス製リクグリルシャッター	MP	移動両仕切(スライディングウォール)	(SW)	鋼製窓	LGS	ステンレス製リクグリルシャッター
XW	鉛入り鋼製窓	FSC	防火防煙スクリーン	TL	トップライト	XW	鉛入り鋼製窓	FSC	防火防煙スクリーン
ガラスの種類・符号・性能									
符 号	種 類	項 目	単 位	性 能 値	符 号	種 類	項 目	単 位	性 能 値
FL	フロート板ガラス	-	-	-	FL	フロート板ガラス	-	-	-
F	型板ガラス	-	-	-	F	型板ガラス	-	-	-
T	強化ガラス	-	-	-	T	強化ガラス	-	-	-
HS	倍強度ガラス	-	-	-	HS	倍強度ガラス	-	-	-
(NP)	網入板ガラス	-	-	-	(NP)	網入板ガラス	-	-	-
NF	網入型板ガラス	-	-	-	NF	網入型板ガラス	-	-	-
WP	線入板ガラス	-	-	-	WP	線入板ガラス	-	-	-
WF	線入型板ガラス	-	-	-	WF	線入型板ガラス	-	-	-
HRC	耐熱結晶化ガラス	-	-	-	HRC	耐熱結晶化ガラス	-	-	-
HRT	耐熱強化ガラス	-	-	-	HRT	耐熱強化ガラス	-	-	-
LEFR	低膨張防火ガラス	-	-	-	LEFR	低膨張防火ガラス	-	-	-
HR	熱線反射ガラス	日射熱取得率	-	-	HR	熱線反射ガラス	日射熱取得率	-	-
TN	熱線吸収板ガラス	日射熱取得率	-	-	TN	熱線吸収板ガラス	日射熱取得率	-	-
RS	放射線遮蔽ガラス	-	-	-	RS	放射線遮蔽ガラス	-	-	-
LM	合わせガラス	-	-	-	LM	合わせガラス	-	-	-
IGU	複層ガラス	熱貫流率	W/m ² ・K	-	IGU	複層ガラス	熱貫流率	W/m ² ・K	-
LE	Low-E複層ガラス	熱貫流率	W/m ² ・K	-	LE	Low-E複層ガラス	熱貫流率	W/m ² ・K	-
GB	ガラスブロック	-	-	-	GB	ガラスブロック	-	-	-
注)下表における製造者・品番は、製品グレードを示し、同等品以上とする。									
区分		種 類		材質・性能など		製造者・品番・備考		区分	
錠・締り金物		空錠		※シリンダー箱錠のシリンダーなしタイプ		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
PD		本締り錠		框戸・自動ドアなどは、納まり寸法に 応じて同等性能品から選定する。		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
- E		同上 電気錠		美和ロック AL3M程度 ゴール EM程度		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
- EK		同上 電気錠(非常時解錠装置付き)		カバー式		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
OP		シリンダー箱錠		バックセット <標準> ※76mm以上 ・64mm以上 <レバーハンドル> ・76mm以上 ・64mm以上 ・50mm以上		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
- L		同上 自動施錠タイプ		美和ロック LAL程度 ゴール HLT程度		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
- E		同上 電気錠		美和 AU程度 ゴール EU程度		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
- HK		同上 非常時解錠装置付き		カバー式 解錠信号(※なし ・あり)		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
- H		同上 表示付き		非常開装置付き		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
HL		ホテル錠		・キータイプ ・カードタイプ(・差込み・非接触)		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
SL-1		引戸錠(鍵錠)		静音タイプ		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
SL-2		引戸錠(上吊り戸用・ロッドタイプ)		美和ロック UD程度 ゴール TSD程度		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
G-1		グレモン錠		ハンドル(※亜鉛合金 ・ステンレス)		製造者・品番・備考		錠・締り金物	
G-2		グレモン錠(脱着ハンドル)				製造者・品番・備考		錠・締り金物	
</									

01	ア) 天井端部～躯体壁面補強詳細 tw2～tw4・tw8・tw10	A1:1/10 A3:1/20	 <p>平面図</p>  <p>断面図</p>	03	ウ) 天井端部～躯体壁面補強詳細 tw1・tw9・tw11・tw12	A1:1/10 A3:1/20	 <p>平面図</p>  <p>断面図</p>										
02	イ) 天井端部～躯体壁面補強詳細 tw5～tw7	A1:1/10 A3:1/20	 <p>平面図</p>  <p>断面図</p>	<div>※ 01～03図に示す補強部材は全て撤去</div> <table><tr><td rowspan="2">整理番号 A 12 - 02</td><td rowspan="2">一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳</td><td colspan="2">鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事</td></tr><tr><td>既存天井補強材詳細図〔2〕 (現況及び撤去図)</td><td>A1:1/10 A3:1/20 A-062</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">鹿児島市建設局建築部建築課</td></tr></table>				整理番号 A 12 - 02	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		既存天井補強材詳細図〔2〕 (現況及び撤去図)	A1:1/10 A3:1/20 A-062			鹿児島市建設局建築部建築課	
整理番号 A 12 - 02	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事															
		既存天井補強材詳細図〔2〕 (現況及び撤去図)	A1:1/10 A3:1/20 A-062														
		鹿児島市建設局建築部建築課															

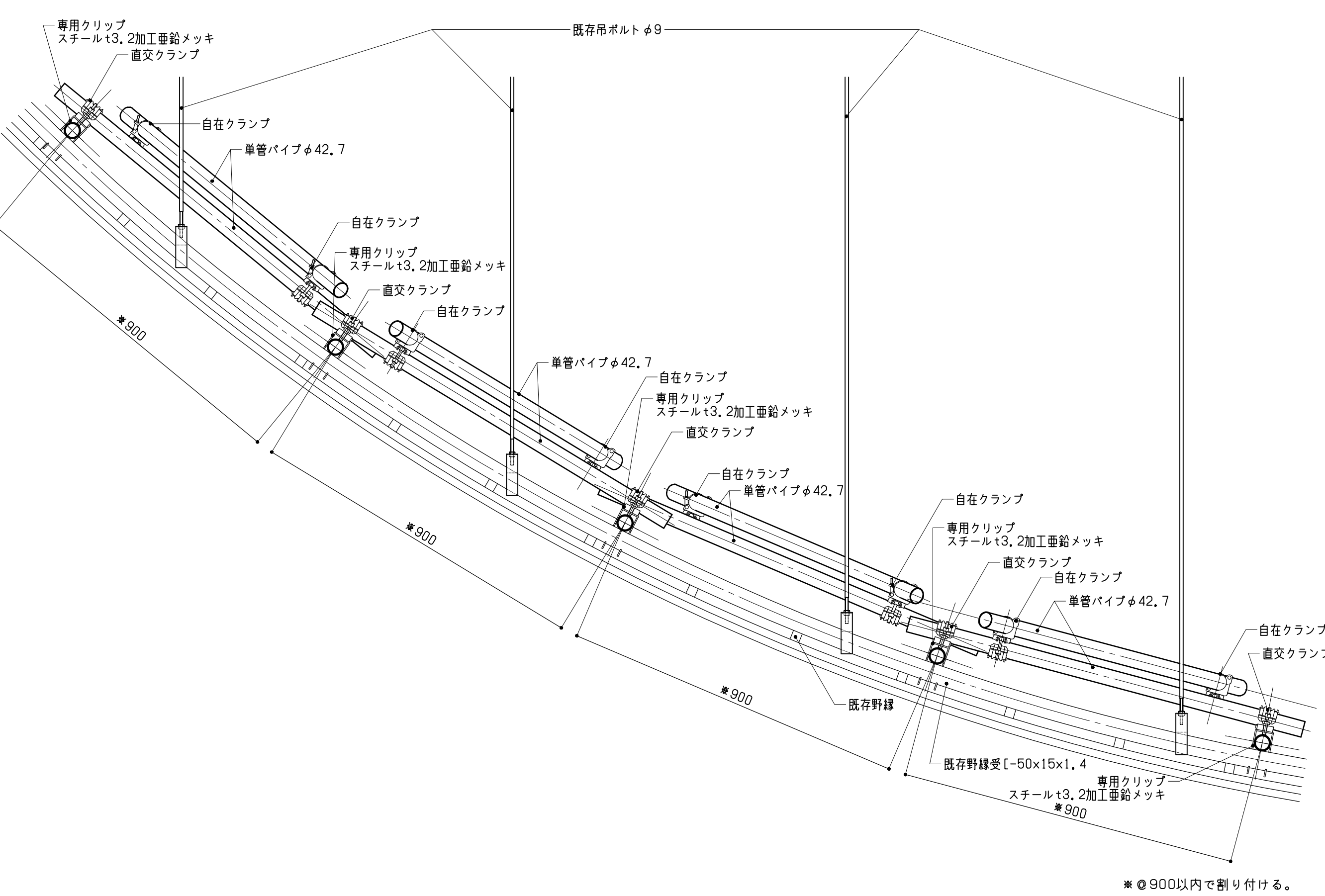
01	エ) 天井ブロック連結 山越え補強詳細 m1～m7	A1:1/10 A3:1/20	<div>平面図</div>  <div>断面図</div> 			※ W1～W3・D1は現場合わせとする。	
02	オ) 天井ブロック連結 谷越え補強詳細 v1～v7	A1:1/10 A3:1/20	<div>平面図</div>  <div>断面図</div> 			※ W1～W3・D1は現場合わせとする。	
03	カ) 鉄骨フレーム接続部補強詳細 (Aブロック部) u1	A1:1/10 A3:1/20	<div>平面図</div> 			※ W1～W3は現場合わせとする。	
※ 01～03図に示す補強部材は全て撤去			整理番号 A 12 - 03	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事 既存天井補強材詳細図(3) (現況及び撤去図)	A1:1/10 A3:1/20	A-063
			鹿児島市建設局建築部建築課				

01	キ) 鉄骨フレーム接続部補強詳細 (スポット室) ts1・ts2	A1:1/10 A3:1/20		02	ク) 平天井端部補強詳細 t1～t14	A1:1/10 A3:1/20	
<p>平面図</p> <p>断面図</p>				<p>平面図</p> <p>断面図</p>			
※ 01～02図に示す補強部材は全て撤去						整理番号 A 12 - 04	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳
						鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事 既存天井補強材詳細図(4) (現況及び撤去図)	
						A1:1/10 A3:1/20	A-064
						鹿児島市建設局建築部建築課	

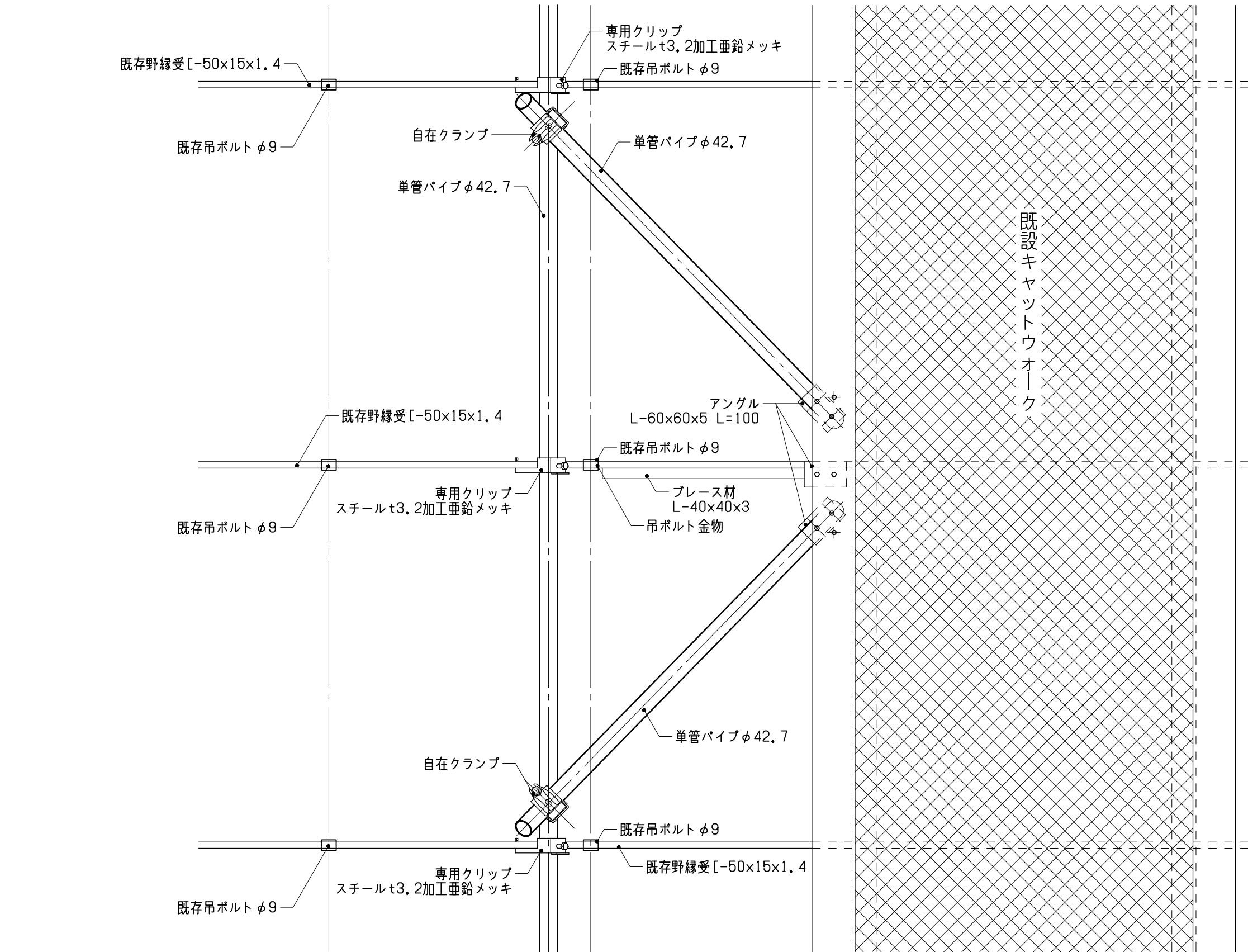
平面図



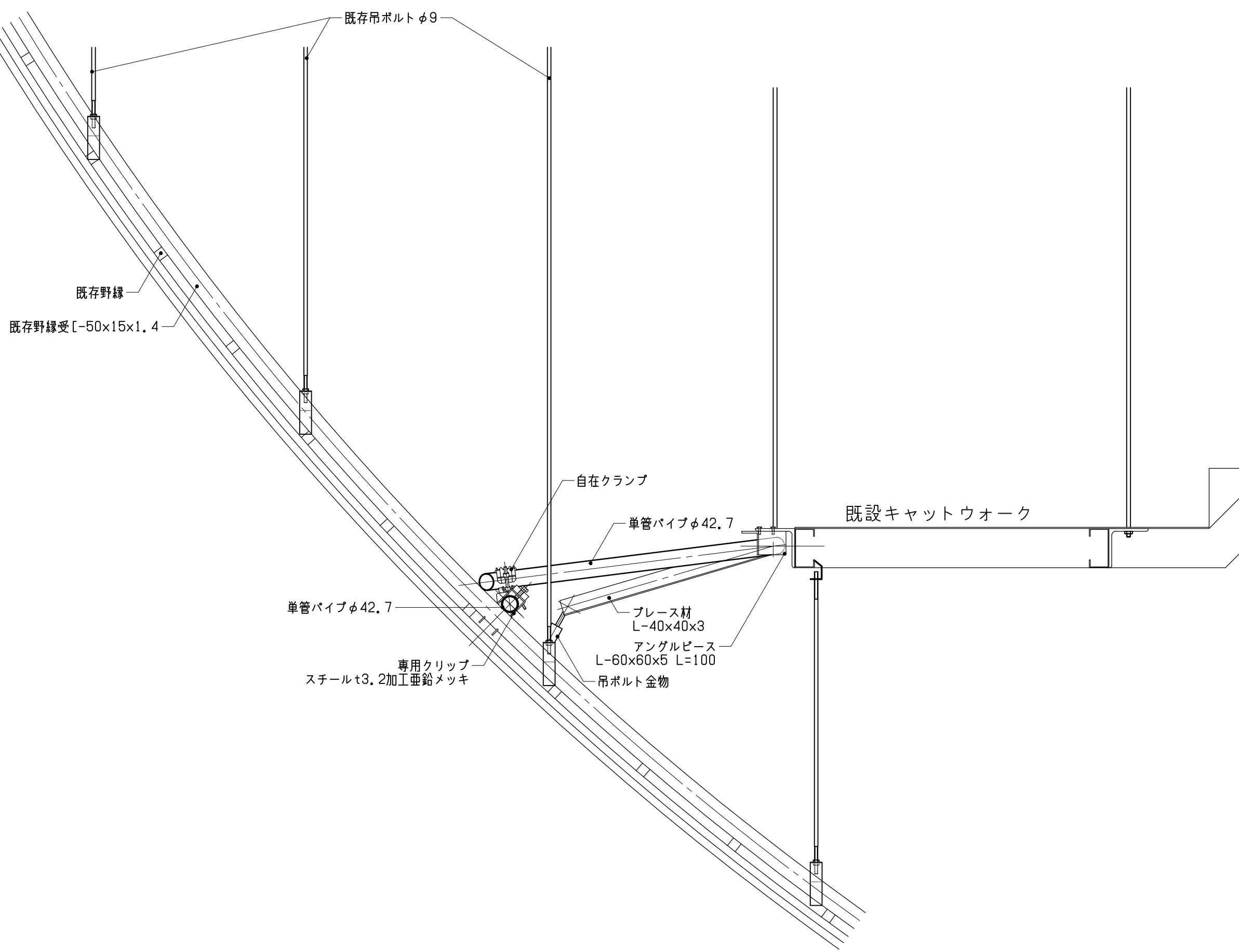
断面図



平面図



断面図



※01～02図に示す補強部材は全て撤去

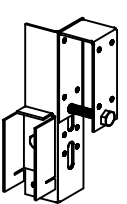
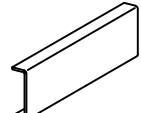

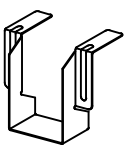
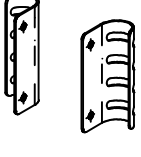
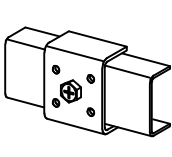
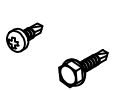
整理番号	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
12 - 05	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計 一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	既存天井補強材詳細図(5)	A1:1/10
		(現況及び撤去図)	A3:1/20
		鹿児島市建設局建築部建築課	
			A-065

鹿児島市建設局建築部建築課

1	第二ホール天井詳細図(現況及び撤去図)	A1:1/30 A3:1/60	<div></div>
2	第一・第二ホール 後方壁詳細図(現況図)	A1:1/30 A3:1/60	<div></div>
3	第二ホール天井詳細図(改修図)	A1:1/30 A3:1/60	<div></div>
4	第一・第二ホール 後方壁詳細図(改修図)	A1:1/30 A3:1/60	<div></div>
整理番号			第一・第二ホール 後方壁詳細図(改修図)
A 12 - 07			第二ホール天井部分詳細図
A1:1/100 A3:1/200			鹿児島市建設局建築部建築課
A-067			鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事

標準仕様	
※支持構造部材・・・・・・C-100×50×20×3.2	※支持構造部支持ピッチ・・・・900mm以下
※支持構造部材ピッチ・・・・900mm以下	※アングルクランプ設置・・・・900mm以下

1 部材一覧

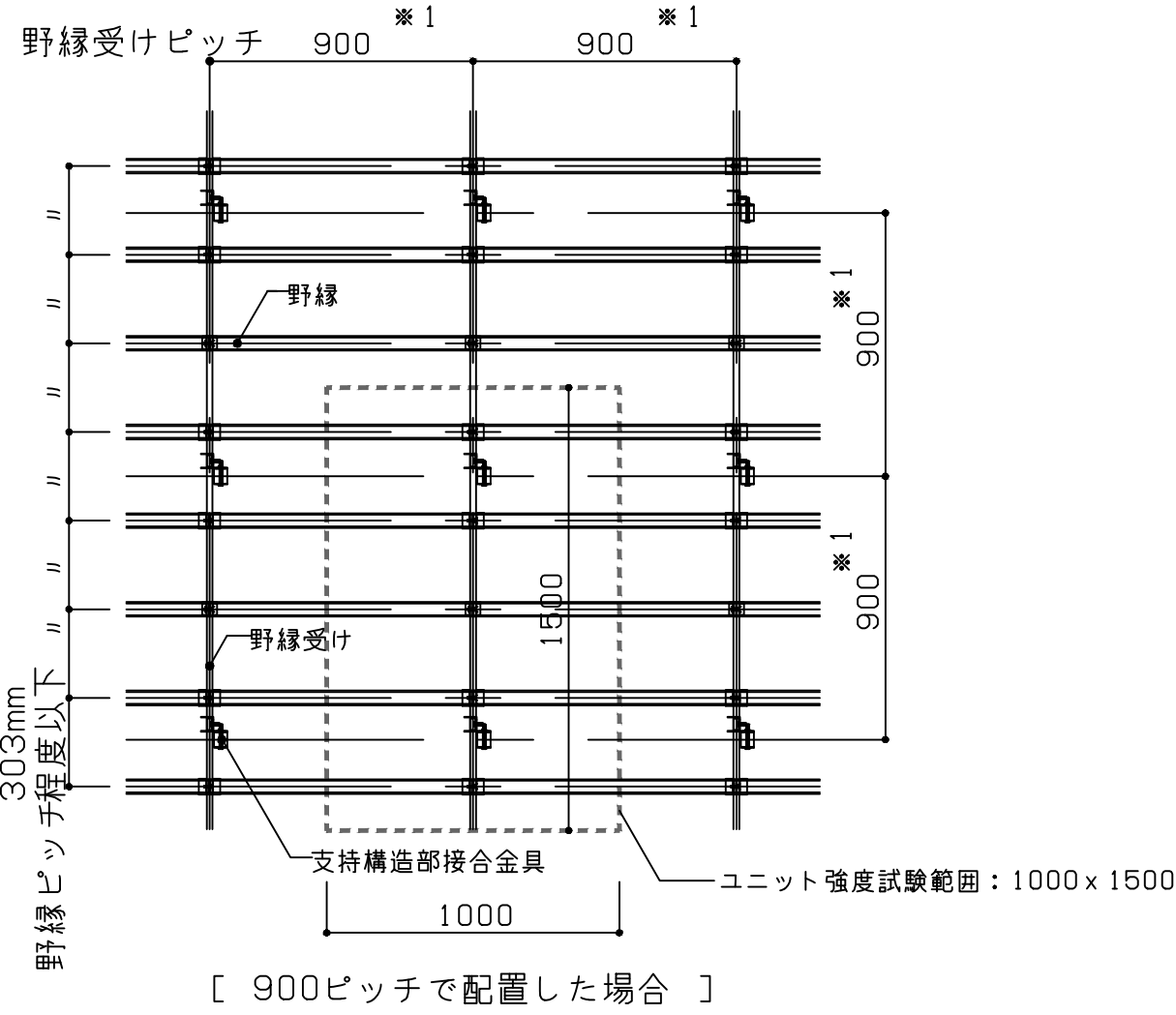
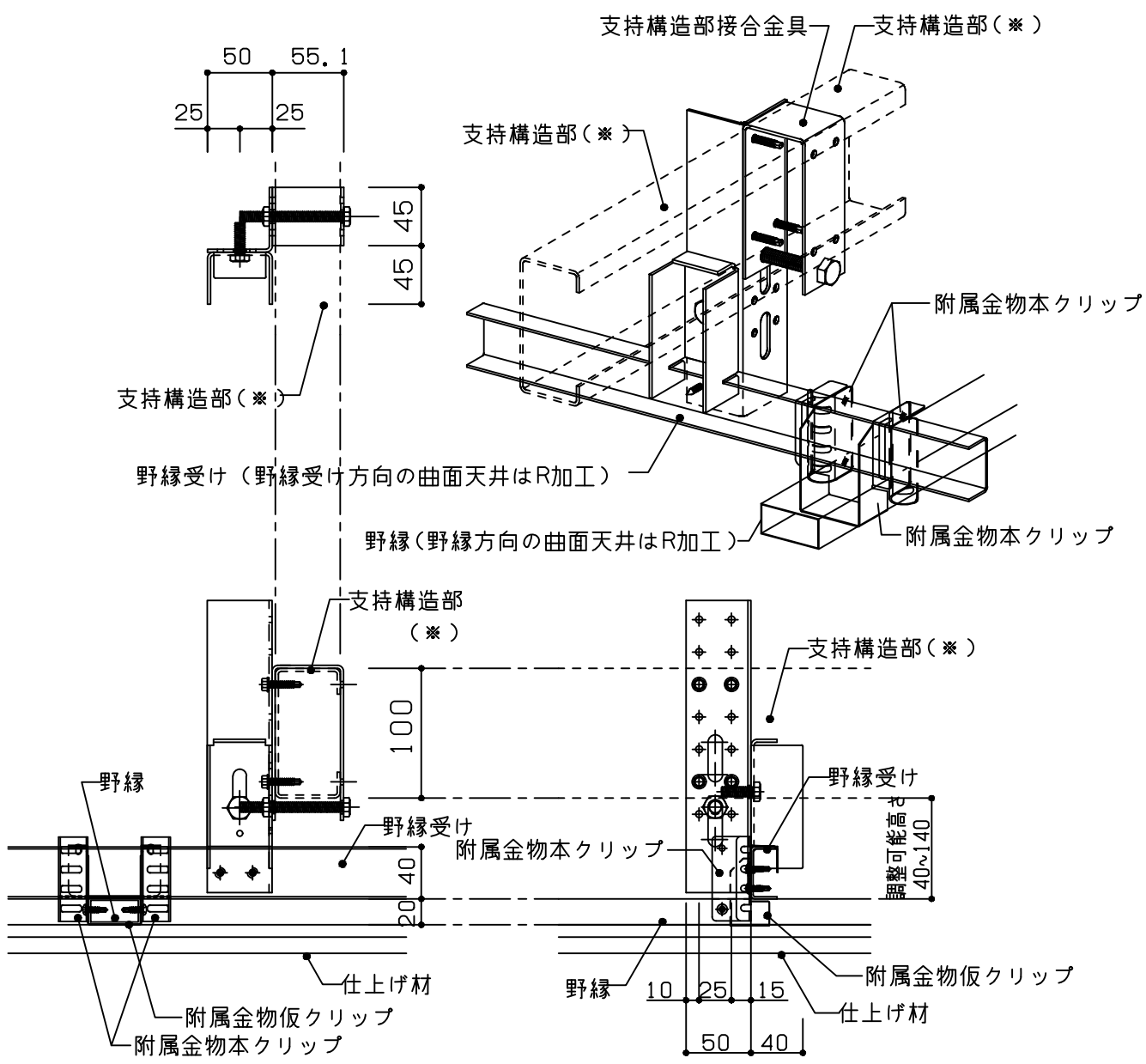
	支持構造部接合金具 ※KIRIIアングルクランプL100 (C100用)		野縁受け ※C-40×20×1.6		野縁 ※□-40×20×1.6
	附属金物板クリップ ※C40用40×20クリップ特注		附属金物本クリップ補強 ※SSクリップ特注		野縁受けジョイント ※C40用Powerジョイント
	セルフドリリングビス ※耐震ビス PAN4×16 ※耐震ビス PAN5×25 ※耐震ビス HEX5×25 ※JIS B 1124 認定品又はJIS B 1124 準拠品				

2 基本構成図

A1:1/5
A3:1/10

3 平面図（割付）

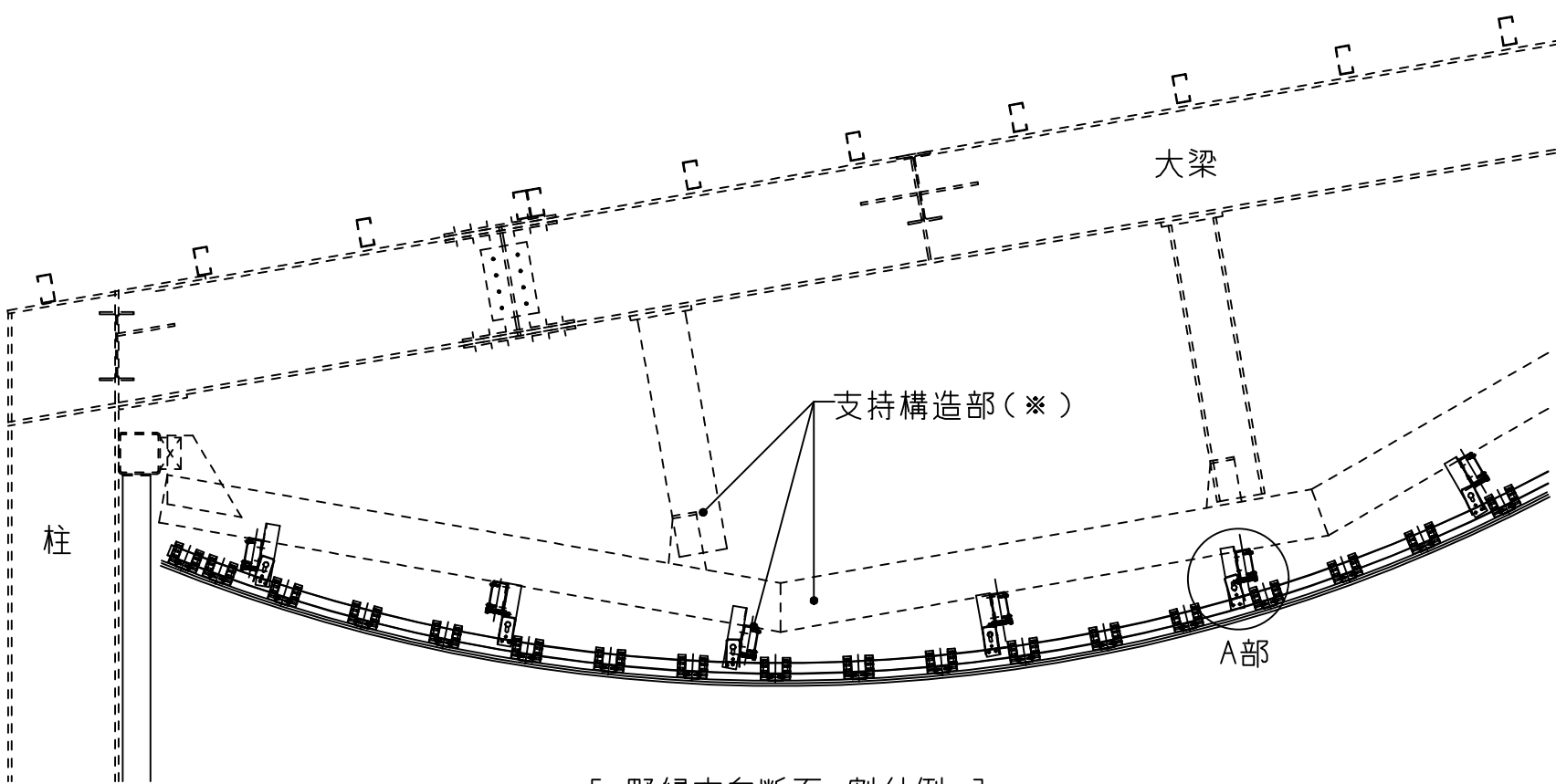
A1:1/25
A3:1/50



※1 天井面固有周期が0.1秒以下（剛）となるように且つ、各部下地材が許容応力度以下となるように支持構造部接合金具を配置する。

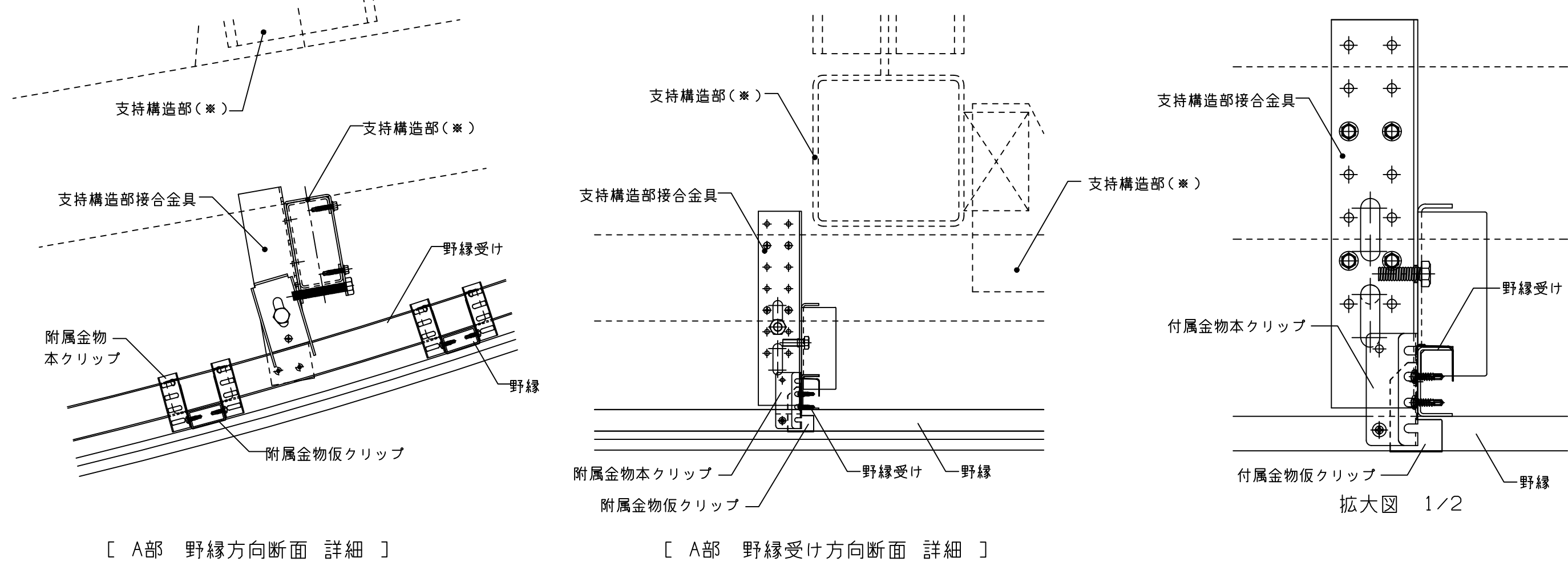
4 断面図（割付）

A1:1/25
A3:1/50



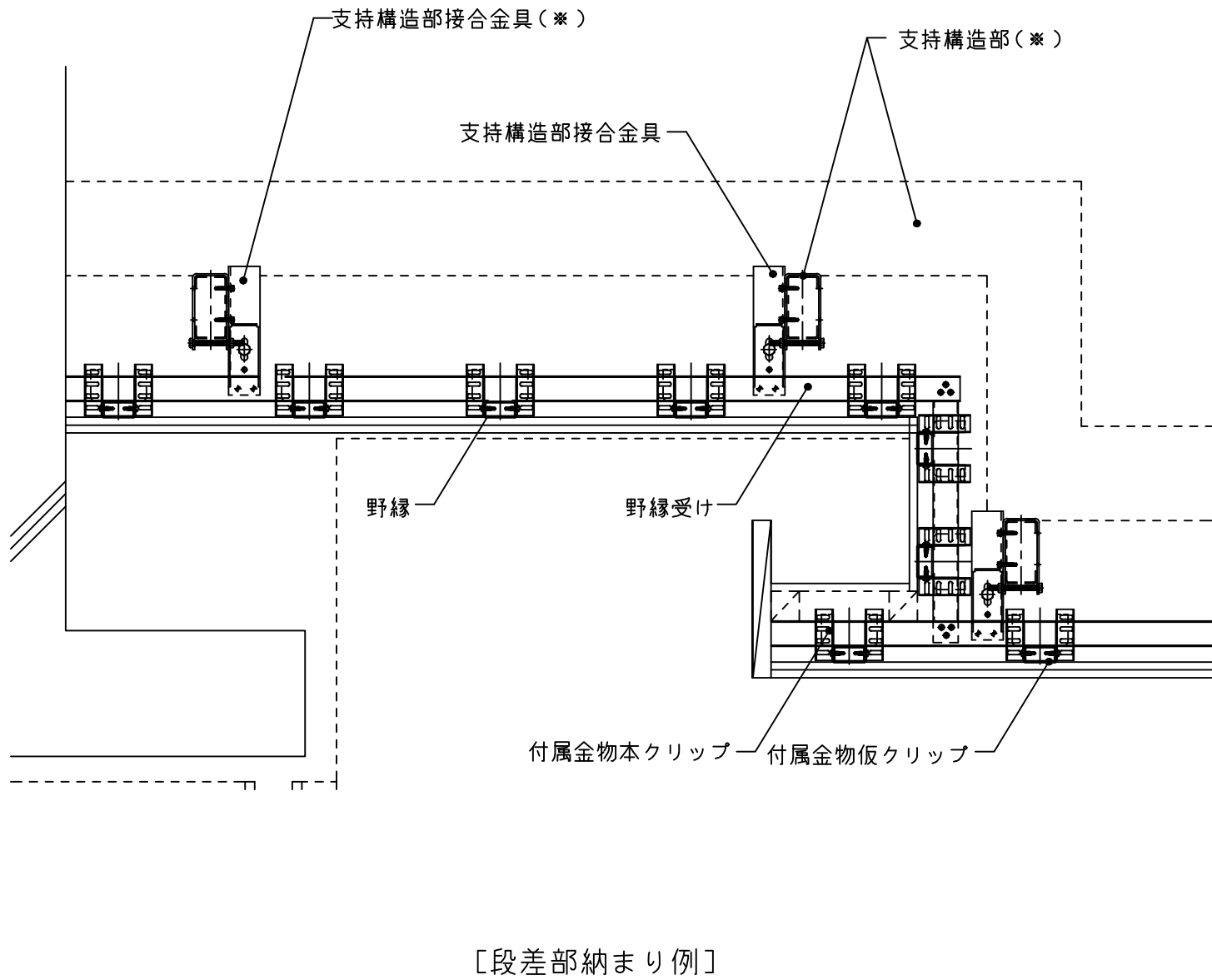
5 断面図（割付詳細）

A1:1/5
A3:1/10



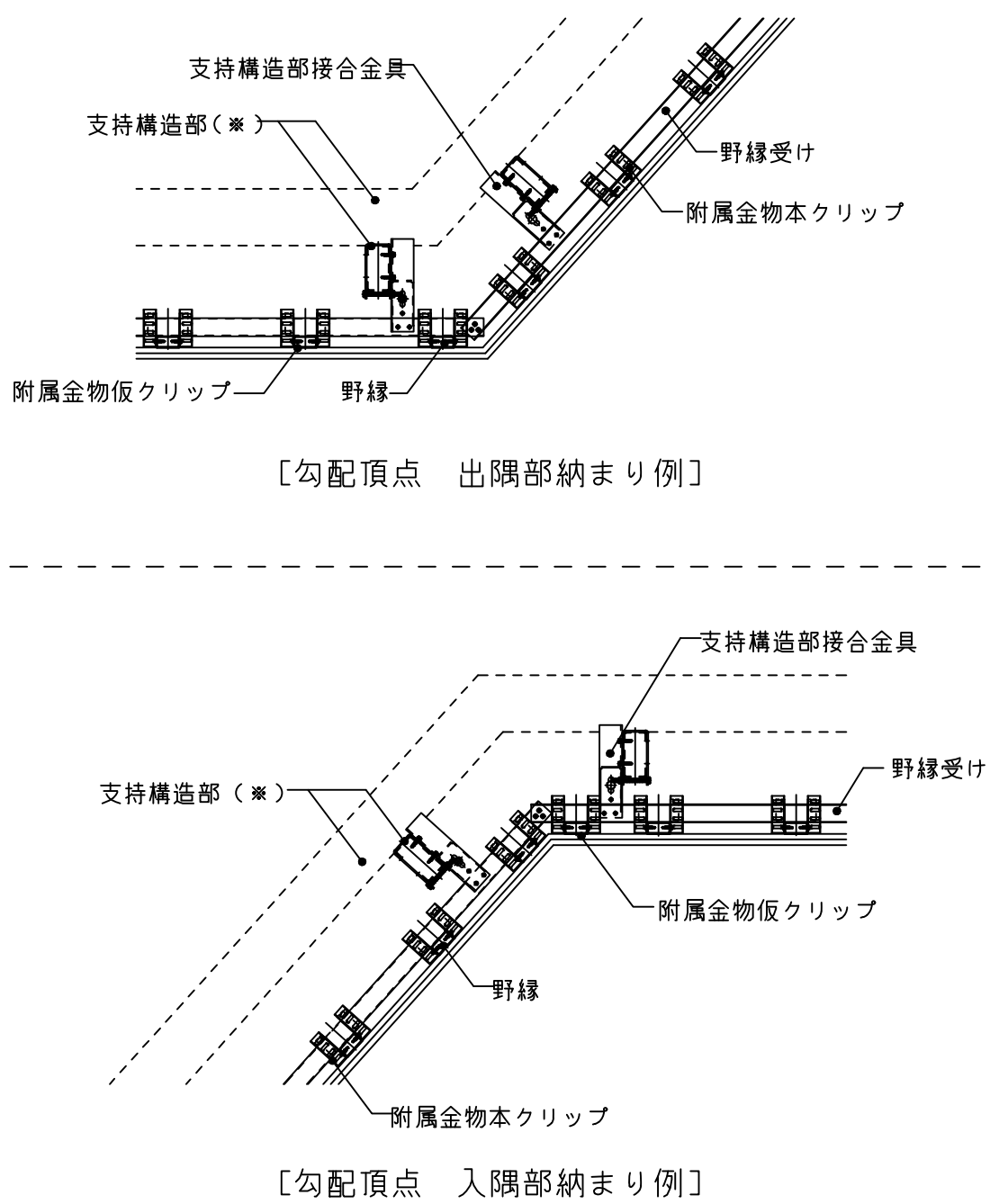
6 詳細納まり図（1）

A1:1/10
A3:1/20



7 詳細納まり図（2）

A1:1/15
A3:1/30



※＜網井製作所＞ KIRIIアングルクランプL100 程度
※使用箇所：第一ホール客席上部天井、第二ホール客席上部天井、エントランスホールB階段南側天井及びC階段西側天井（準構造化）
※詳細は参考とし、製造者仕様による
※支持構造部の具体的な仕様は構造図による

整理番号

A 12 - 08

一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号
株式会社日建設計一級建築士事務所
一級建築士 第 346221 号
高橋 淳

鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事

天井下地標準図(1)(参考図)
準構造化天井

A1:
A3:

A-068

鹿児島市建設局建築部建築課

1	部材一覧				各部材の平面配置図				A1:1/30 A3:1/60
<p>※部材は下記網井製作所の各製品を用いて構成された下地ユニットと同程度の耐力・剛性を有するものとする</p>									
	吊り材 ※3/8"吊りボルト		野縁受け ※C-40x20x1.6		野縁 ※25形Wバー (0, 8) [25x50x0, 8]		追加野縁受け (野縁受け繋ぎ材) ※C-40x20x2.3		
	吊り材 (ハンガー) ※RPハンガー (C40用)		野縁受けジョイント ※C40用Powerジョイント		野縁ジョイント ※CW-25ジョイント (JIS)		ビス ※KIRII耐震ビス PAN4, 2x16 ※KIRII耐震ビス PAN4, 8x25 ※KIRII耐震ビス HEX4, 8x25 ※JIS B 1124 認定品		
	付属金物 (クリップ) ※耐風圧Wクリップ (C40用)		付属金物 (クリップ) 補強 ※TBN-Wカバー		斜め部材 (ブレース) 下部取付金具 ※ブレース金具RP				
斜め部材上端取付金具						斜め部材 (ブレース)			
	※BKGスライド 対応角度: 30°~60°		キャッチャーボルト ※キャッチャーボルト (4070)				-新曲加工- ・C-38x15x1.6 ・C-40x17x1.9 ・C-40x20x1.2		

2	標準図 (断面図)	A1:1/20 A3:1/40	3	斜め部材上部納まり詳細図	A1:1/6 A3:1/10
<div>斜め部材 V字 (2スパン)</div> <div></div> <div>※1: プレース材下部のビス固定 (3本/箇所) ※2: 追加野縁受け (野縁受け繋ぎ材) のビス固定 (2本/箇所)</div> <div>野縁受け方向断面図</div> <div>野縁方向断面図</div> <div>斜め部材 V字 (3スパン)</div> <div></div> <div>※1: プレース材下部のビス固定 (3本/箇所) ※2: 追加野縁受け (野縁受け繋ぎ材) のビス固定 (2本/箇所)</div> <div>野縁受け方向断面図</div> <div>野縁方向断面図</div> <div>斜め部材上部納まり詳細図</div> <div></div> <div>斜め部材上端取付金具: <KIRII> BKGスライド程度</div>					

6	接合部の納まり図	7	開口補強詳細図 (伏図)	A1:1/20 A3:1/40
<div>ハンガー納まり図 1/5</div> <div></div> <div>クリップ納まり図 1/5</div> <div><div>[一般部]</div><div></div><div>[補強部]</div><div></div></div>				

8	端部 (クリアランス) 詳細図	A1:1/6 A3:1/10	9	角度可変野縁・野縁受クリップ詳細図	A1:1/2 A3:1/4
<div>開口部の補強 (野縁が切断される場合)</div> <div></div> <div>開口部の補強 (野縁受けが切断される場合)</div> <div></div>					

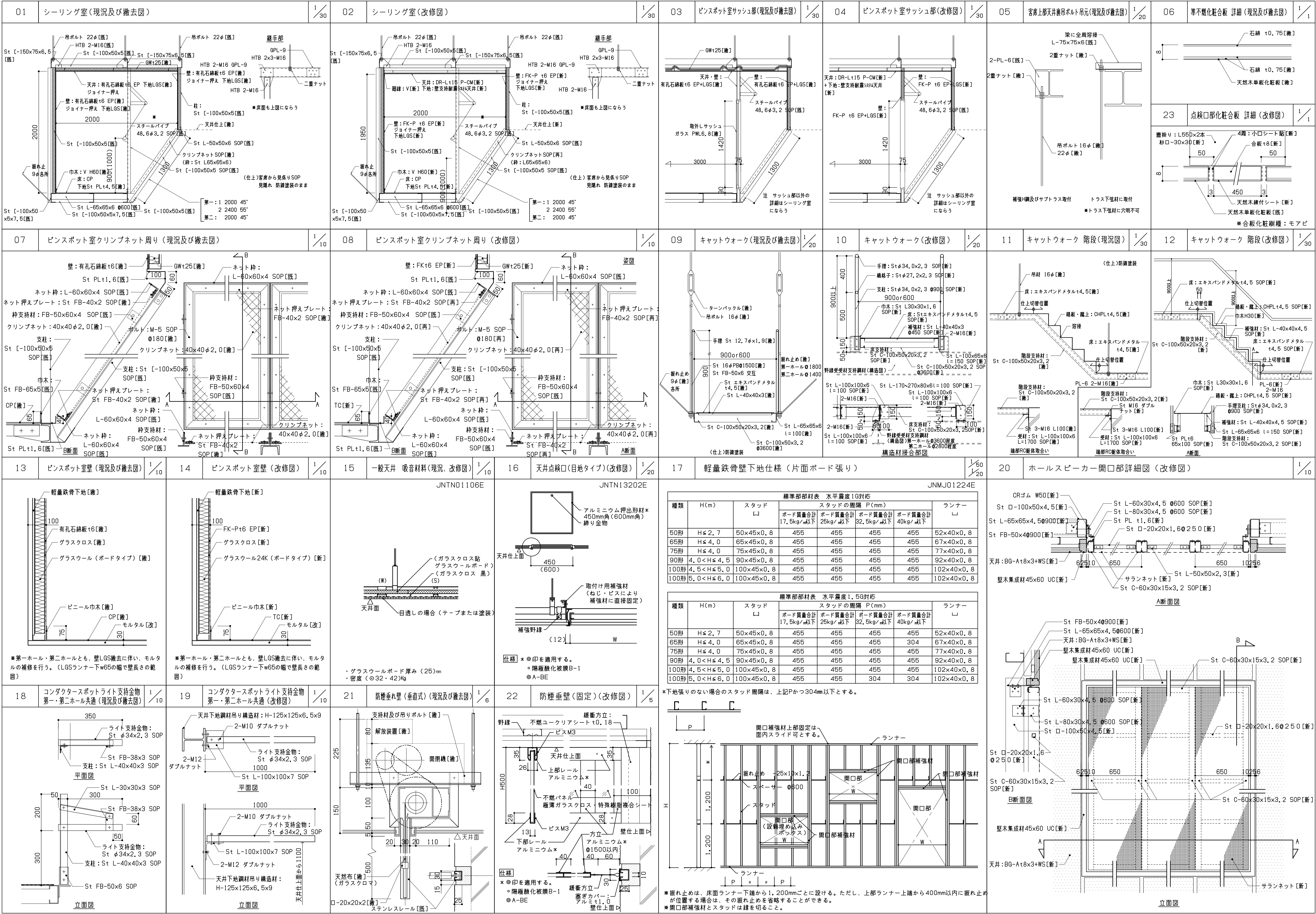
4	斜め部材下部の納まり詳細	A1:1/16 A3:1/30	整理番号		一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第346221号 高橋 淳		鹿兒島市民文化ホール特定天井改修本体工事 天井下地樞輦図(2)(参考図) 告示771号対応天井		A1:- A3:-	A-069
<div>野縁方向断面図</div> <div></div> <div>※1: 斜め部材下部のビス固定 (3本/箇所) ※2: 野縁受け繋ぎ材のビス固定 (2本/箇所) ※3: 下穴が無く総板厚が3.2mmを超える場合はφ4, 8x25以上のビスを使用</div> <div>野縁受け方向断面図</div> <div></div> <div>※1: 斜め部材下部のビス固定 (3本/箇所) ※2: 野縁受け繋ぎ材のビス固定 (2本/箇所) ※3: 下穴が無く総板厚が3.2mmを超える場合はφ4, 8x25以上のビスを使用</div>			A 12 - 09		鹿兒島市建設局建築部建築課					

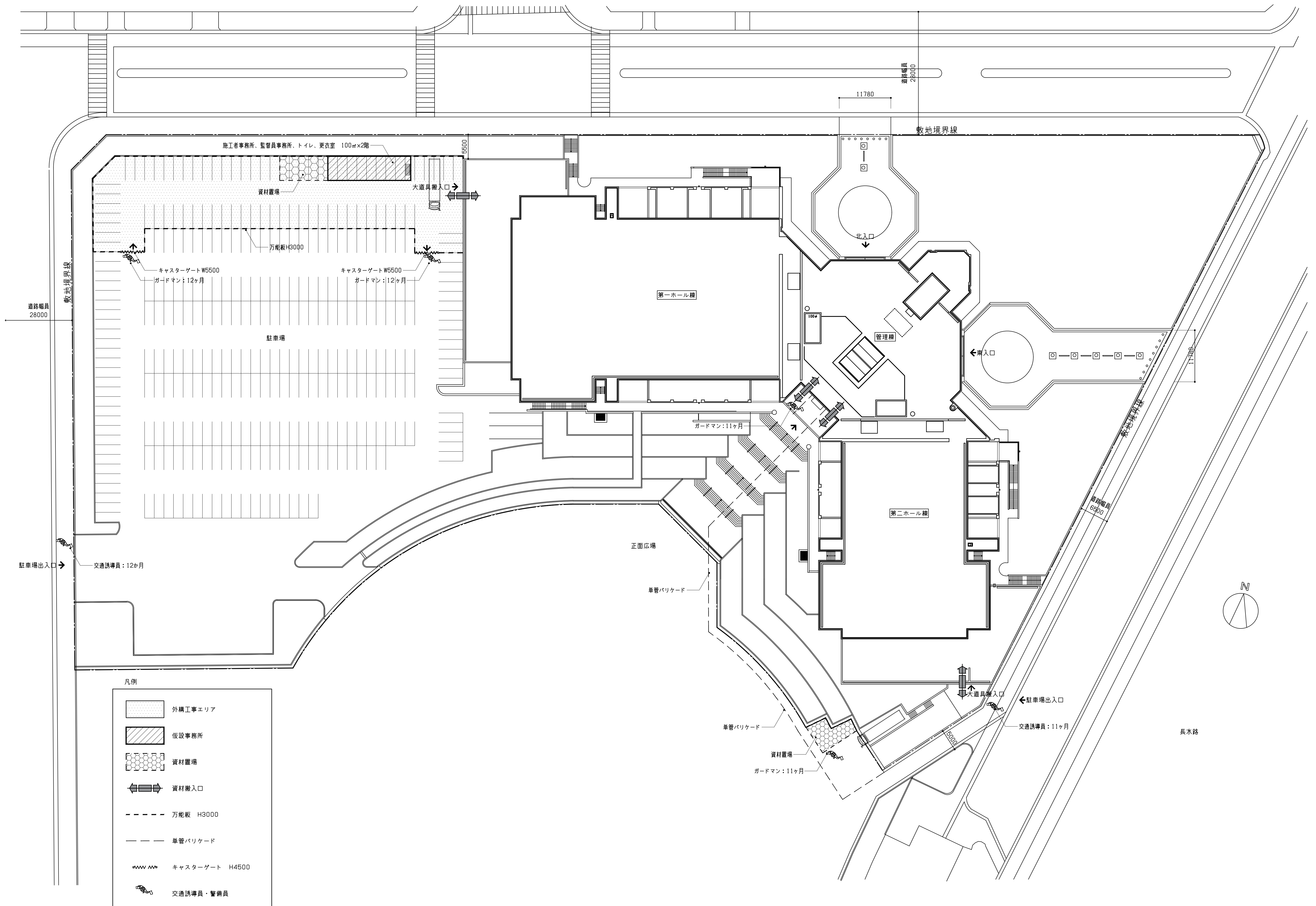
野縁方向断面図

○ クリップ補強部
 ※1: 斜め部材下部のビス固定 (3本/箇所)
 ※2: 野縁受け繋ぎ材のビス固定 (2本/箇所)
 ※3: 下穴が無く最底厚が3,2mmを超える場合はφ4, 8×25以上のビスを使用

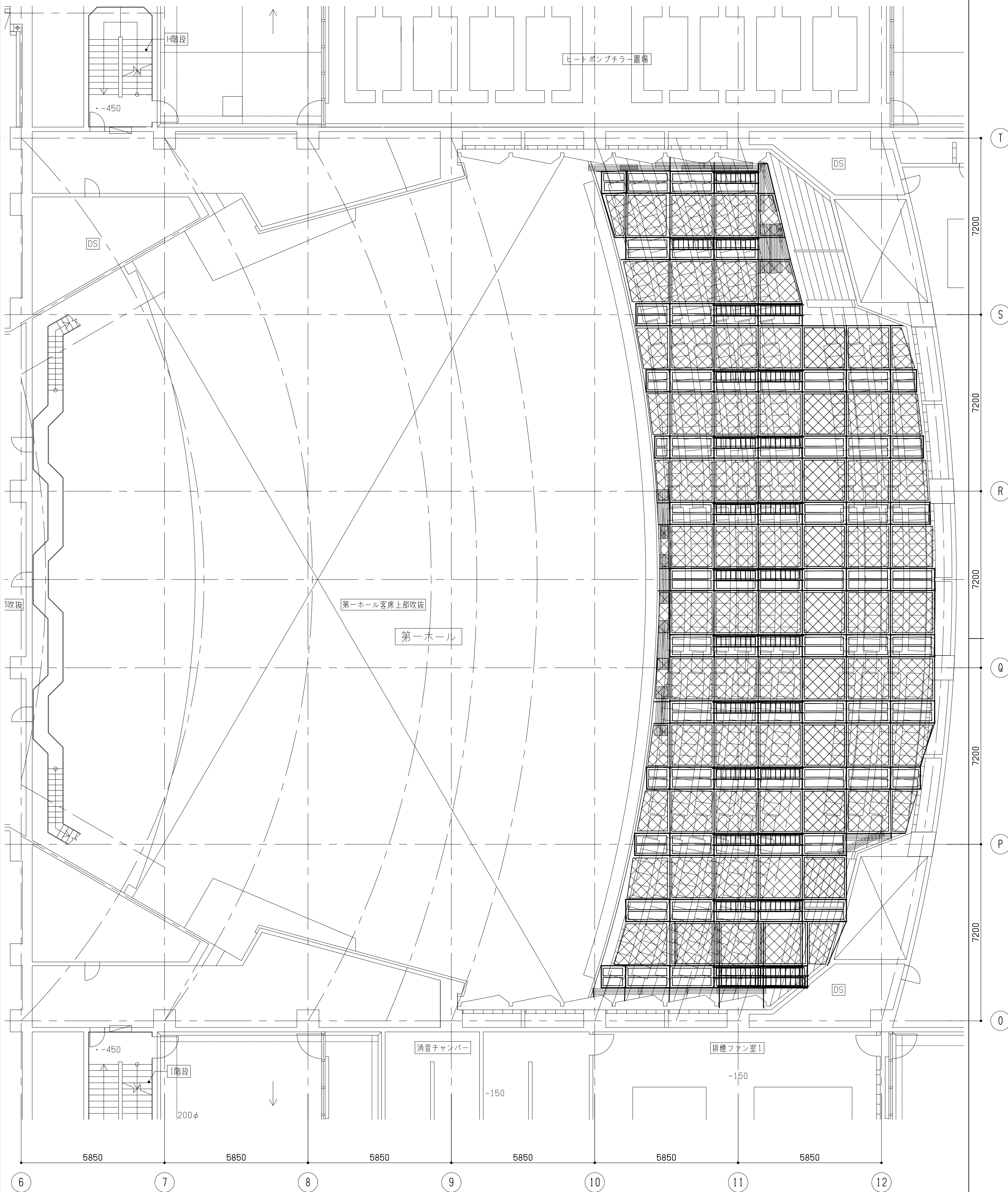
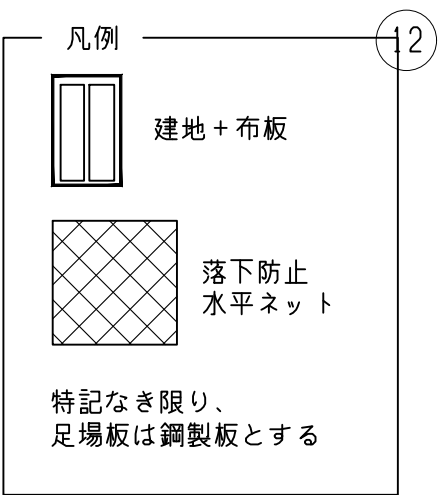
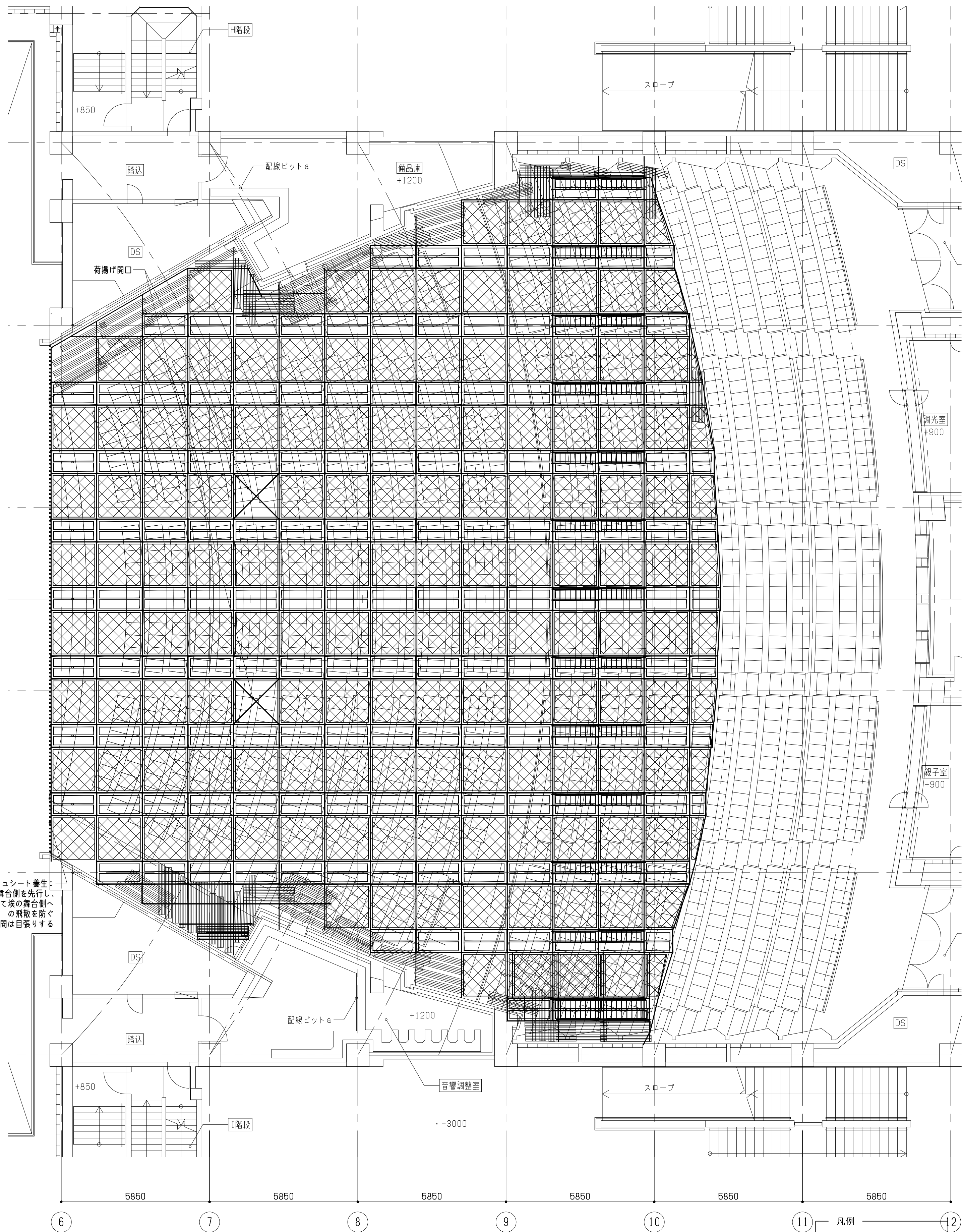
野縁受け方向断面図

※1: 斜め部材下部のビス固定 (3本/箇所)
 ※2: 野縁受け繋ぎ材のビス固定 (2本/箇所)
 ※3: 下穴が無く最底厚が3,2mmを超える場合はφ4, 8×25以上のビスを使用

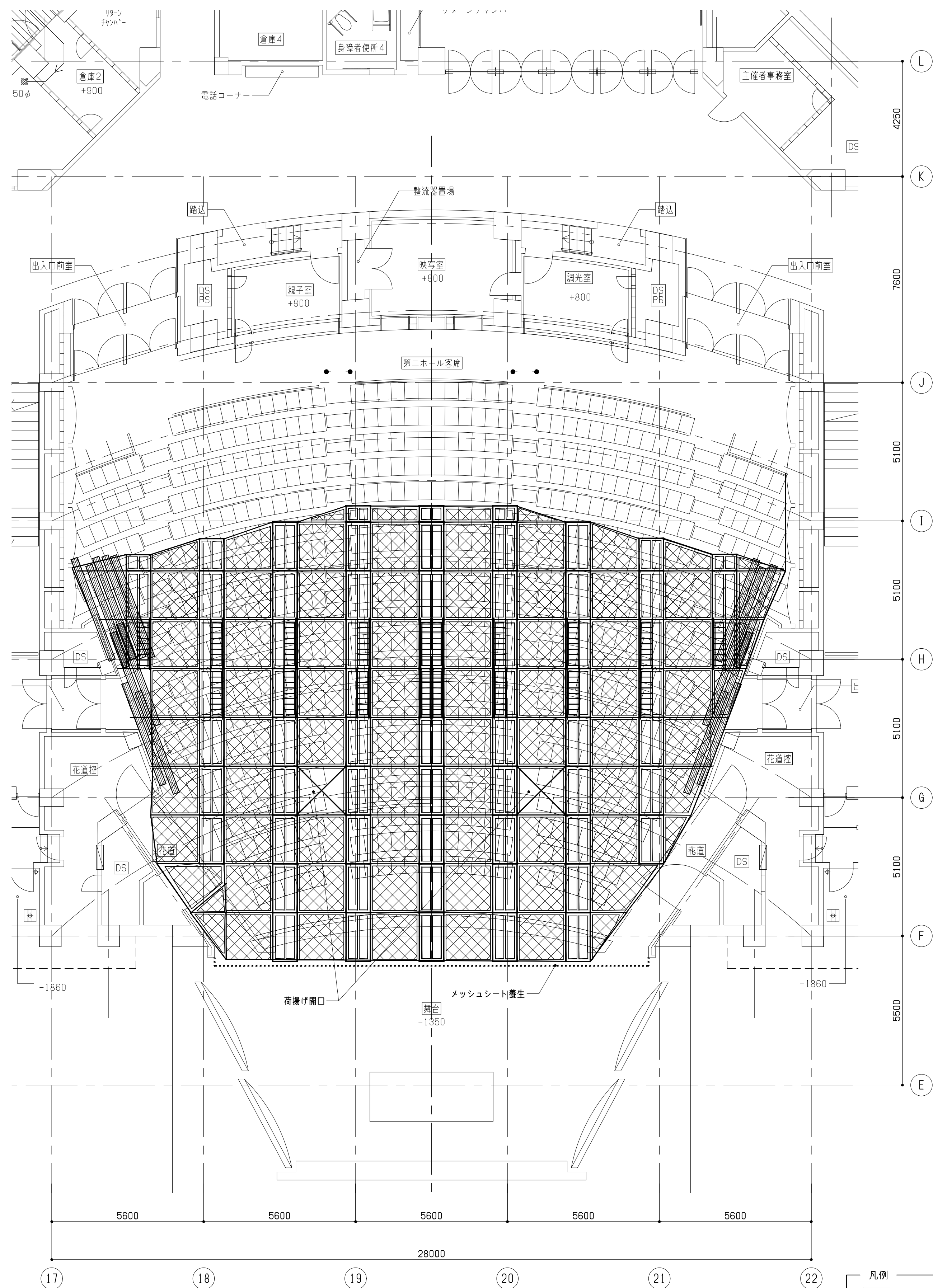




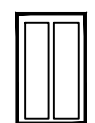
整理番号	鹿兒島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設計一級建築士事務所 一級建築士 第 348221 号 高橋 淳	屋外仮設計画図(参考) A1:1/400 A3:1/800	A-071
A 13 - 01	鹿兒島市建設局建築部建築課		



整理番号	第一・第二ホール仮設平面図(1) A1:1/100 A3:1/200	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事
A 13 - 02	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設設計一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	鹿児島市建設局建築部建築課

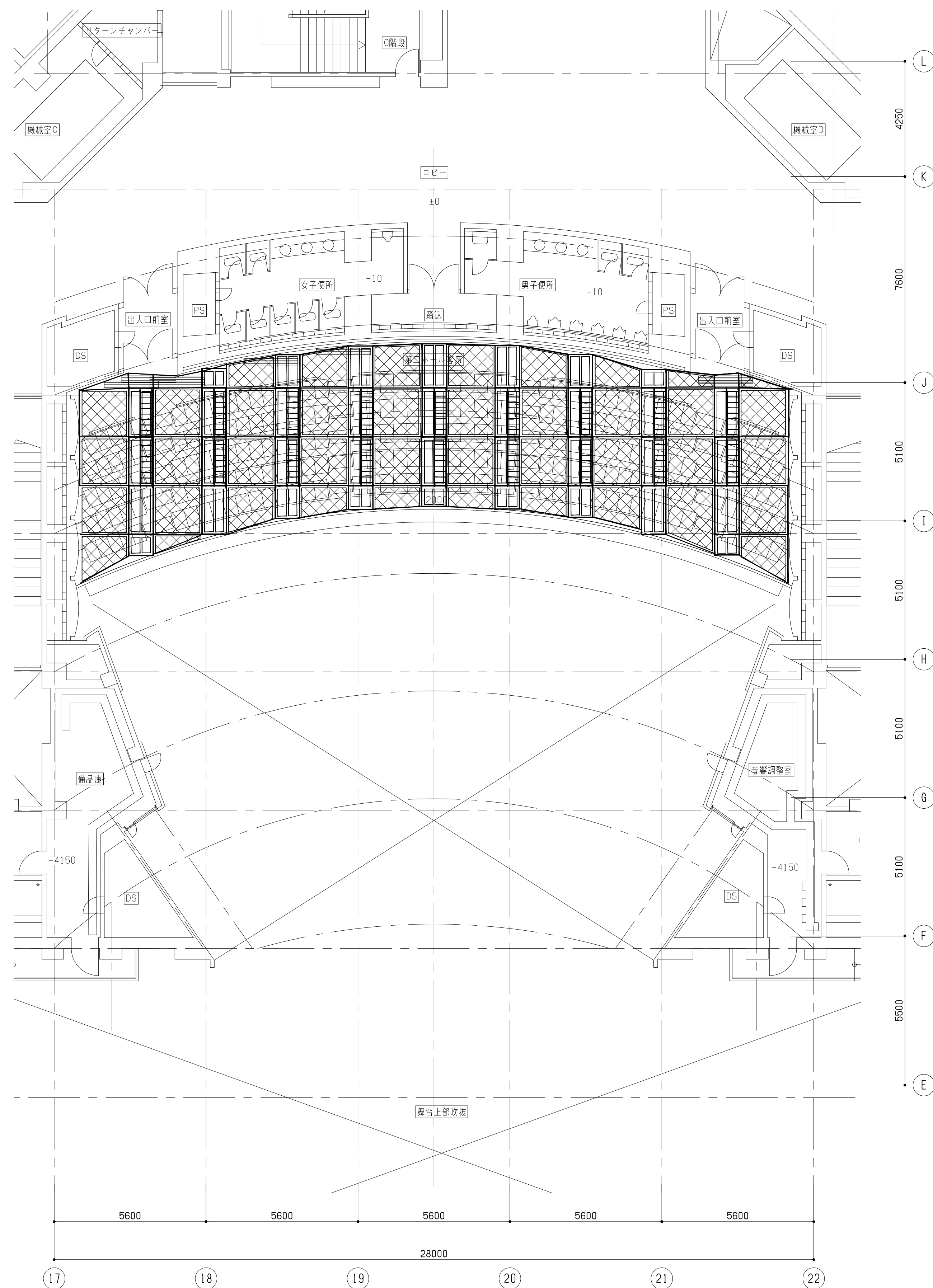


一 凡例



落下防止
水平ネット

特記なき限り、
足場板は鋼製板とする



整理番号	鹿児島市民文化ホール特定天井改修本体工事		
A 13 - 03	一級建築士事務所 東京都知事登録 第1047号 株式会社日建設 一級建築士事務所 一級建築士 第 346221 号 高橋 淳	第一、第二ホール仮設計画図(2) (参考図)	A1:1/100 A3:1/200
	鹿児島市建設局建築部建築課		A-073

